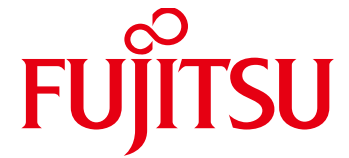


ユーザーガイド - 日本語



デジタル KVM スイッチ

ユーザーガイド

◆ 安全と使用環境についての注記



注意！

「安全上のご注意」に記載されている安全についての注意事項に従ってください。

安全にお使いいただくために

本書には、当製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。

本製品をお使いになる前に、本書を熟読してください。また、本書は、本製品の使用中、いつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

消耗品の取り扱いについて

プリンタの消耗品やバッテリーを廃棄する際は、該当する国の規制に従ってください。

EU ガイドラインに基づき、分別されていない一般廃棄物と一緒にバッテリーを廃棄することはできません。

バッテリーは、メーカー、販売店、委任代理店が無料で回収し、リサイクルや廃棄を行っています。

汚染物質が含まれているバッテリーには、すべてマーク（ゴミ箱の絵に× 印）が付いています。また、以下のような重金属の化学記号も記載されます。

この記号が付いているバッテリーは、汚染物質を含むバッテリーとして分類されます。

Cd カドミウム

Hg 水銀

Pb 鉛

プラスチックのケーシング部分に貼られたラベル

プラスチック部分には、お客様独自のラベルをできる限り貼らないでください。リサイクルが困難になります。

返却、リサイクルと廃棄

返却、リサイクル、廃棄を行う場合は、各自治体の規制に従ってください。



一般廃棄物と一緒にデバイスを廃棄することはできません。このデバイスには、欧州指令 2002/96/EC の電気・電子機器廃棄物指令（WEEE）に従ってラベルが貼られています。

この指令によって、使用済み機器の返却およびリサイクルの枠組みが設定され、EU 全土で有効です。

使用済みデバイスを返却する際は、利用可能な返却および収集方式をご使用ください。詳細は、<http://ts.fujitsu.com/recycling> に記載されています。

ヨーロッパでのデバイスおよび消耗品の返却とリサイクルに関する詳細は、『Returning used devices』マニュアルにも記載しています。このマニュアルは、最寄の Fujitsu の支店で入手できます。

電波障害対策について

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。 VCCI-A

リサイクルと廃棄について

本製品を廃棄する場合、担当営業員に相談してください。本製品は産業廃棄物として処理する必要があります。

ハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療器具、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

外国為替及び外国貿易法に基づく特定技術について

当社のドキュメントには「外国為替及び外国貿易法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

目次

一般情報.....	1
概要.....	1
KVM1116Q KVM スイッチ	1
安全性.....	2
システム要件.....	4
リモートユーザーコンピュータ	4
サーバー	4
ビデオ	5
KVM サーバーモジュールとLANケーブル	5
ブラウザ	6
最大サーバー接続数	6
コンポーネント.....	7
設置.....	9
概要.....	9
幅.....	9
ラックマウント - 前面	9
ラックマウント - 背面	10
単体構成.....	11
KVM1116Q 単体構成の接続図	11
複数の KVM スイッチのカスケード接続	12
KVM1116Q 2段階構成	12
2段階構成の接続図	12
対応 KVM スイッチ	13
ハードウェアセットアップ.....	14
ケーブル長に関する留意事項	14
ホットプラグ	14
アダプター ID 機能	15
電源オフと再起動	15
ポート ID の割り当て	15
ポートの選択	15
デジタルKVMスイッチの交換手順.....	16

Super Administrator によるセットアップ	17
概要	17
初回セットアップ	17
ネットワークのセットアップ	17
OSDへのログイン	18
概要	18
ローカルコンソールによるログイン	18
ブラウザによるログイン	18
Windows クライアント AP によるログイン	19
Windows クライアント AP を使用した接続	19
[File] メニュー	20
Java クライアント AP によるログイン	20
接続 - Java クライアント AP	20
ユーザーインターフェイス	21
概要	21
Web ブラウザメインページ	21
タブバー	22
AP GUI メインページ	23
ローカルコンソール GUI メインページ	23
コントロールパネル	23
WinClient コントロールパネル機能	25
Macros (マクロ)	26
Video Settings (ビデオ設定)	30
Message Board (メッセージボード)	31
バーチャルメディア	32
Zoom (ズーム)	33
オンスクリーンキーボード	33
マウスポインタの種類	34
Mouse DynaSync Mode (マウスダイナシンクモード)	34
コントロールパネルの設定	36
Java コントロールパネル	37
Port Access (ポートアクセス)	38
概要	38
サイドバー	39
サイドバーのツリー構造	39
サイドバーユーティリティ	39
ポート名の設定	41
Scan (スキャン)	41
Array (アレイ)	41
Filter (フィルタ)	41
KVM デバイスとポート - [Connections] ページ	42
デバイスレベル	42
ポートレベル	43

History (履歴)	44
Favorites (お気に入り)	45
User Preferences (ユーザー設定)	47
セッション	49
Access (アクセス)	50
デバイスレベルでのブラウザ GUI インターフェイス	50
ポートレベルでのブラウザ GUI インターフェイス	51
デバイスレベルでの AP GUI インターフェイス	51
ポートレベルでの AP GUI インターフェイス	52
Port Configuration (ポート設定)	52
デバイスレベル	52
ポートレベル	53
Port Properties (ポートプロパティ)	53
Associated Links (関連付けリンク)	53
User Management (ユーザー管理)	54
概要	54
ユーザー	54
ユーザーの作成	55
ユーザーアカウントの変更	56
ユーザーアカウントの削除	56
グループ	57
グループの作成	57
グループの変更	57
グループの削除	57
ユーザーとグループ	58
ユーザーのノートでユーザーをグループに割り当て	58
ユーザーのノートでユーザーをグループから削除	59
グループのノートでユーザーをグループに割り当て	59
グループのノートでユーザーをグループから削除	59
デバイスの割り当て	60
ユーザーのノートでデバイス権限を割り当て	60
グループのノートでデバイス権限を割り当て	62
Device Management (デバイス管理)	63
デバイス情報	63
全般	63
Operating Mode (操作モード)	64
Network (ネットワーク)	64

IPv4 Settings (IPv4 設定)	66
IPv6 Settings (IPv6 設定)	66
ANMS	67
認証	68
セキュリティ	71
Login Failures (ログイン失敗)	71
Filter (フィルタ)	71
Account Policy (アカウントポリシー)	73
Encryption (暗号化)	73
Working Mode (動作モード)	74
Private Certificate (プライベート証明書)	75
Certificate Signing Request (認証署名要求)	76
Date/Time (日付 / 時刻)	77
ポート操作	78
ポートへの接続	78
ポートツールバー	78
ツールバーアイコン	79
ツールバーホットキーによるポート切り替え	79
オートスキャン	80
スキップモード	80
[Port Access] ページの再呼び出し	80
GUI ホットキー一覧表	80
キーボードエミュレーション	81
Mac キーボード	81
Sun キーボード	82
パネルアレイモード	83
パネルアレイツールバー	84
ログ	85
Log Information (ログ情報)	85
Log Notification Settings (ログ通知設定)	86
Maintenance (メンテナンス)	87
メインファームウェアのアップグレード	87
アダプターファームウェアのアップグレード	87
ファームウェアアップグレードのリカバリ	88
アダプターファームウェアのアップグレードリカバリ	88
バックアップ / リストア	89
Backup (バックアップ)	89
Restore (リストア)	89
Terminal (ターミナル)	90

System Operation (システム操作)	91
Reset on exit (終了時にリセット)	91
[Download] タブ	91
ログサーバー	92
インストール	92
起動	92
メニューバー	92
ログサーバーのメイン画面	94
工場出荷時のデフォルト設定	95
シリアルアダプターのピンアサイン	96
KVM1116Q	96
バーチャルメディア対応	96
WinClient ActiveX ビューア /WinClient AP	96
Java アプレットビューア /Java クライアント AP	96
IP アドレスの決定	97
ブラウザ	97
IPv6	98
ポート転送	98
接続のセットアップ例 (Windows 7)	99
その他のマウス同期方法	100
KVM-SERIAL サーバーモジュールの設定と操作	101
設定	101
操作	101
内部シリアルインターフェイスの設定	102
ナビゲーション	102
操作方法	102
スイッチレベル設定	102
ポートレベルの設定	103
トラブルシューティング	104
一般的な操作	104
マウスに関する問題	105
バーチャルメディア	106
Web ブラウザ	106
WinClient ActiveX ビューアと WinClient AP	107
Java アプレットと Java クライアント AP	108
Sun システム	108
Mac システム	108
Redhat システム	109
パネルアレイモード	109
電波障害	110

Material declaration of BSMI

設備名稱：數位KVM切換器 16埠，型號（型式）：KVM1116Q						
單元Unit	限用物質及其化學符號					
	鉛Lead (Pb)	汞Mercury (Hg)	鎘Cadmium (Cd)	六價鉻 Hexavalent chromium (Cr ⁺⁶)	多溴聯苯 Polybrominate d biphenyls (PBB)	多溴二苯醚 Polybrominate d diphenyl ethers (PBDE)
電纜線 Cable	○	○	○	○	○	○
印刷電路部件 PCBA	—	○	○	○	○	○
電源模組 Switching Power module	○	○	—	○	○	○
塑膠/其他部件 Plastic /Others parts	○	○	○	○	○	○
金屬部件 Metal parts	—	○	○	○	○	○
備考1. “超出0.1 wt %” 及 “超出0.01 wt %” 係指限用物質之百分比含量超出百分比含量基準值。 備考2. “○” 係指該項限用物質之百分比含量未超出百分比含量基準值。 備考3. “—” 係指該項限用物質為排除項目。						

Caution / Warning

警告

如果更換不正確之電池型式會有爆炸的風險

請依製造商說明書處理用過之電池

警告使用者：

這是甲類資訊產品，在居住的環境中使用時，可能會造成射頻干擾，在這種情況下，使用者會被要求採取某些適當對策。

一般情報

概要

KVM1116Q KVMスイッチ

注意：マニュアルの保管すべての指示をよく読み厳守してください。すべての修理は認定のサービスエンジニアのみが実施するものとします。

KVMスイッチは、ローカルおよびリモートのユーザーが、1台のコンソールから複数のサーバーを監視しアクセスできるようにします。スイッチモデルは、バスの数とKVMポートごとに異なります。

製品型番	バスサポート	KVMポート
KVM1116Q	ローカルとリモートで1バスを共有	16

- スイッチはTCP/IP通信プロトコルを使用します。LAN、WAN、またはインターネットでどこからでもIPアドレスでアクセスすることができます。接続するコンピュータの場所は問いません。
- リモートユーザーは、ブラウザまたはWindowsやJavaのスタンドアロンGUIアプリケーションを使用してログインします。Javaにより、JRE（Java Runtime Environment）対応のオペレーティングシステムでスイッチを操作できるため、マルチプラットフォームでの動作が可能になります。
- クライアントソフトウェアにより、オペレータはスイッチに接続されているサーバーと、キーボード、ビデオ、マウスの各信号を、直接機器を操作している感覚でやり取りすることができます。
- 最大16（KVM1116Q）ユーザーでスイッチのバスを共有できます。メッセージボード機能によってユーザー同士が会話できるため、スムーズなポート共有が可能になります。
- Administratorは、GUIアプリケーションのインストールや実行から、BIOSレベルのトラブルシューティング、定期モニタリング、同時メンテナンス、システム管理に至るまで、あらゆる保守業務を行うことができます。
- ローカルコンソールの操作は、フルスクリーン対応のGUI画面を使用して、キーボードからホットキーの組み合わせを入力して行います。
- オートスキャン機能により、ユーザーが指定した時間間隔でポートを自動的に切り替えることができます。また、パネルアレイモードにより、最大42台のサーバーのビデオ出力を同時に表示できます。
- カテゴリ5e/6ケーブルを使用してスイッチとサーバーを接続します。1Uサイズのラックに16ポートのスイッチを設置可能で、最新の商業ビル内の内部ネットワーク配線を使用できます。
- スイッチはキーボード入力を直接受信します。ソフトウェアのインストールは不要です。
- アダプター ID機能は、アダプター ID、OS、キーボード言語、アダプター名、運転モードなどのポート情報を格納します。KVMアダプターケーブルを別のポートに移動したときに、スイッチは移動先でもアダプターケーブルを認識します。
- 世界中のどこからでも1台のリモートコンソールから操作することができます。
- バーチャルメディアをサポートしています。（EMEIAのみ）

安全性

以下の説明をすべてお読みください。これは後で参照できるように保管しておいてください。デバイスに記載されたすべての警告と指示に従ってください。

⚠ ⚠ 危険

感電、爆発、またはアークフラッシュの危険があります

- 回路の過負荷を避けてください。電源を投入する前に、製品マニュアルに記載された電気仕様を確認してください。
- 付属の電源コードまたは使用地域で承認されている電源コードのみを使用してください。
- 電源コードの定格電圧および定格電流は、製品定格ラベルに記載されている定格以上であることが必要です。
- 電源コードは、手の届きやすい接地された（アースされた）コンセントに差し込んでください。接地ピンを無効にしないでください。
- 電源タップを含むすべての機器が正しく接地されていることを確認してください。
- AC差し込みプラグは製品の主要な切断デバイスです。
- この製品にはユーザーが修理できない部品が内蔵されています。製品カバーを取り外さないでください。すべての修理は認定のサービスエンジニアのみが実施するものとします。

これらの指示手順に従わない場合、人体の重大な損傷または死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

不正なバッテリータイプと交換した場合の爆発の危険

- 正しいバッテリータイプと交換することを必ず確認してください。
- 同梱の取扱説明書に従って、使用済みバッテリーを廃棄してください。

これらの指示に従わないと、ケガや装置の故障を招く可能性があります。

⚠ 注意

機器が破損する危険があります

- 「UPGRADE」と記載されたRJ-11コネクタを電気通信網に接続しないでください。
- 製品マニュアルに記載されたデバイス以外のデバイスに接続すると、危機が破損する場合があります。
- 安全操作のための十分な通気を確保してください。過熱を防ぐために、製品ラックの開口部を塞いだり覆ったりしないでください。ラックの温度は40°Cを超えないようにしてください。
- 機器重量の不均衡によって危険な状況が発生する可能性があります。
- 製品をシェルフとして使用しないでください。
- 破損を防ぐために、付属の取り付け用金具のみを使用してください。

これらの指示手順に従わない場合、人体の重大な損傷または機器の損傷につながるおそれがあります。

注意

- デバイスが水に濡れるおそれのある場所で使用しないでください。デバイスにいかなる液体もかからないようにしてください。
- クリーニングの前に壁コンセントからデバイスのプラグを抜いてください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。クリーニングには湿った布を使用してください。
- 瞬間的な電圧の変動からシステムを守るために、サージ抑制器、ラインコンディショナー、または無停電電源装置（UPS）を使用してください。
- ラックで作業する前には、スタビライザ等でラック床面に対して固定されていること、および床面にラックの全負荷がかかっていることを確認してください。ラックで作業する前に、単独のラックには前面/側面スタビライザを、結合した複数のラックには前面スタビライザを取り付けてください。
- KVMアダプターケーブルや電源ケーブルは丁寧に取り扱いってください。ケーブルの上に物を置かないでください。
- キャビネットのスロットには何も挿入しないでください。危険な電圧ポイントへの接触やショートによって火災や感電が生じるおそれがあります。
- コンポーネントは常に下から、重いものから順にラックへ設置してください。
- デバイスを拡張する前に、ラックが水平で安定していることを確認してください。
- デバイスレールのリリース用ラッチを押してラックからデバイスの出し入れをする際にはスライドレールに指を挟まないように注意してください。
- デバイスがラックに挿入されたら、注意してレールをロックする位置まで伸ばしてから、デバイスをラックにスライドしてください。
- ラックに電源を供給するAC電源分岐サーキットが過負荷にならないようにしてください。ラック全体の負荷は分岐サーキット定格を超えてはいけません。
- 電池タップや他の電気接続を含めて、ラックで使用されるすべての機器が正しく接地されていることを確認してください。
- ラック内のデバイスに十分な通気が確保されていることを確認してください。
- ラック環境の動作環境温度が、機器メーカーで指定された最大環境温度を超えないようにしてください。
- ラック内の他のデバイスを修理する際に、デバイスを踏んだりデバイスの上に立ったりしないでください。
- レールに取り付けた機器をシェルフや作業面として使用しないでください。
- 電源コードやケーブルは、踏みつけられたりつまずいたりすることがないように布線してください。

システム要件

リモートユーザーコンピュータ

リモートユーザーコンピュータ（クライアントコンピュータとも呼びます）とは、インターネットを介してリモートの場所からスイッチにログインしているコンピュータを指します。これらのコンピュータには、次の機器を取り付ける必要があります。

- PIII 1 GHz以上のプロセッサ、画面解像度1024 x 768に設定
- ブラウザはTLS1.0以降をサポートしている必要があります。
- 512kbps以上のネットワーク転送速度
- ブラウザベースのWinClient ActiveXビューアの場合は、DirectX 8がインストールされており、インストール後に150MB以上のメモリを使用できる必要があります。
- ブラウザベースのJavaアプレットビューアの場合は、最新バージョンのJava Runtime Environment（JRE）がインストールされており、インストール後に205MB以上のメモリを使用できる必要があります。
- WindowsクライアントAPでは、DirectX 8がインストールされており、インストール後に90MB以上のメモリを使用できる必要があります。
- JavaクライアントAPでは、最新バージョンのJava Runtime Environment（JRE）がインストールされており、インストール後に145MB以上のメモリを使用できる必要があります。
- ログサーバーには、Microsoft Jet OLEDB 4.0以上のドライバをインストールしている必要があります。

サーバー

サーバーとは、KVMアダプターケーブルでスイッチに接続されているコンピュータを指します。これらのサーバーには次の機器を取り付ける必要があります。

- VGA、SVGAまたはマルチシンクポート
- USB KVMアダプターケーブル接続の場合：タイプA USBポートとUSBホストコントローラ

ビデオ

次のノンインターレースビデオ信号のみがサポートされます。

解像度	リフレッシュレート
640 x 480	60、70、72、75、85
720 x 400	70、75
800 x 600	56、60、70、72、75、85
1024 x 768	60、70、75、85
1152 x 864	60、70、75、85
1152 x 900	66、76
1280 x 1024	60、70、75、85
1600 x 1200	60

KVMサーバーモジュールとLANケーブル

注意：KVMサーバーモジュールは、一部のダイアログボックスではアダプターケーブルと記載されている場合もあります。

- カテゴリ5e（またはこれ以上）ケーブルでスイッチとKVMサーバーモジュールを接続します。
- スイッチには次のKVMサーバーモジュールとLANケーブルを使用する必要があります。

ケーブルの種類	ポートタイプ
KVM-USB	USBポートでデバイスに接続
KVM-USBVM	USBポートでデバイスに接続、バーチャルメディアをサポート
KVM-SERIAL	シリアルベースのデバイスに接続

ブラウザ

リモートユーザーでサポートされるブラウザ：

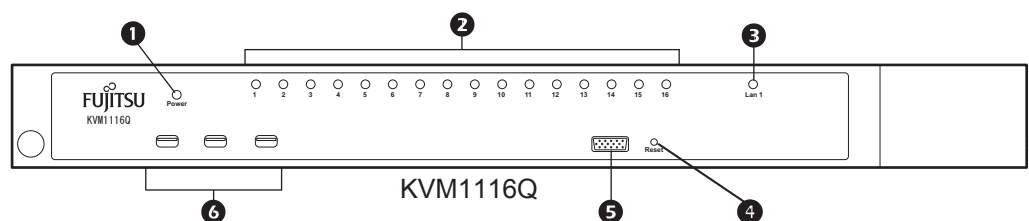
ブラウザ	
IE	
Chrome	
Firefox	Windows
	Linux
Safari	Windows
	Mac
Opera	
Mozilla	Windows
	Sun

最大サーバー接続数

親 KVMモデル	ポート	子 階層のKVM	ポート	1段階目のサーバー数	最大レベル
KVM1116Q	16	KVM0116A	16	$16 \times 16 = 256$	2
KVM1116Q	16	KVM0108A	8	$16 \times 8 = 128$	2

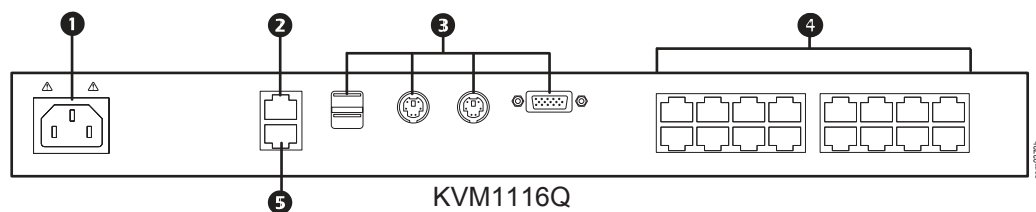
コンポーネント

前面



項目	名称	説明
①	電源LED	ユニットに電源が入っており、動作準備ができている場合に点灯します。
②	ポートLED	対応するKVMポートに関するステータス情報を提供します。 <ul style="list-style-type: none">・緑：ポートに接続されたコンピュータはオンラインです。・赤：ポートに接続されたコンピュータは選択されています。（KVMフォーカス：ただし、接続サーバーはオフライン）・緑 + 赤（橙）：ポートに接続されたコンピュータはオンラインで選択されています。 LEDは通常の状態では点灯しています。対応するポートがオートスキャンモードまたはスキップモードでアクセスされている場合、LEDは0.5秒間隔で点滅します。
③	LAN LED	プライマリおよびセカンダリ10/100/1000 Mbps LAN LED。 <ul style="list-style-type: none">・赤：10 Mbps・赤 + 緑（橙）：100 Mbps・緑：1000 Mbps 点滅は、スイッチがアクセスされていることを示します。
④	リセットスイッチ	リセットスイッチを押すには、ペーパークリップやボールペンなどの先の細い物を使用してください。 <ul style="list-style-type: none">・システムリセットを実行するには、ユニットの実行中に押して離します。・工場出荷時のデフォルト設定にリセットするには、ユニットの実行中に3秒以上長押しします。・注意：これでユーザーアカウント情報が消去されることはありません。ユーザーアカウント情報の消去に関する情報は、「工場出荷時のデフォルト設定」（95ページ）を参照してください。・工場出荷時のファームウェア設定に戻すには、アップグレードされたバージョンをインストールするのではなく、このスイッチを押しながらユニットの電源を投入します。これにより、ファームウェアアップグレードの失敗から復旧し、アップグレードを再度試すことができます。・注意：この操作は、ファームウェアアップグレードに失敗してデバイスが操作不能になった場合のみ実行されます。
⑤	コンソールポート	本装置では使用しません。
⑥	USBポート	<ul style="list-style-type: none">・USBストレージ機器（CD/DVD、HD、フラッシュドライブなど）を接続します。・キーボードとマウスを背面パネルに接続する代わりに、またはこれに追加して、USBキーボードとマウスを使用できます。

背面



項目	名前	説明
❶	電源ソケット1	ここに電源1の電源ケーブルを接続します。
❷	LANポート	ここでユニットをネットワークインターフェイス（10/100/1000 Mbps）に接続します。
❸	ローカルコンソールポート	ここにローカルコンソールデバイス（キーボード、モニタ、マウス）を接続します。USBとキーボードとマウスを自由に組み合わせて使用できます。
❹	KVMポート	カテゴリ5eケーブルを差し込んでユニットとKVMアダプターケーブルを接続し、それをサーバーに接続します。
❺	モデムポート	本装置では使用しません。

設置

概要

KVMアダプターケーブルで、接続されるデバイスとKVMスイッチをつなぎます。各サーバーまたはデバイスの接続ごとに個別のKVMアダプターケーブルが必要です。

詳しくは、「KVMアダプターケーブルのリスト（5ページ）」を参照ください。

注意：

1. KVMスイッチを設置する前に、本書の安全セクションを参照してください。
2. 設置するKVMスイッチに接続されるすべてのデバイスの電源をオフにする必要があります。キーボードパワーオン機能を搭載したコンピュータの電源コードは抜いてください。

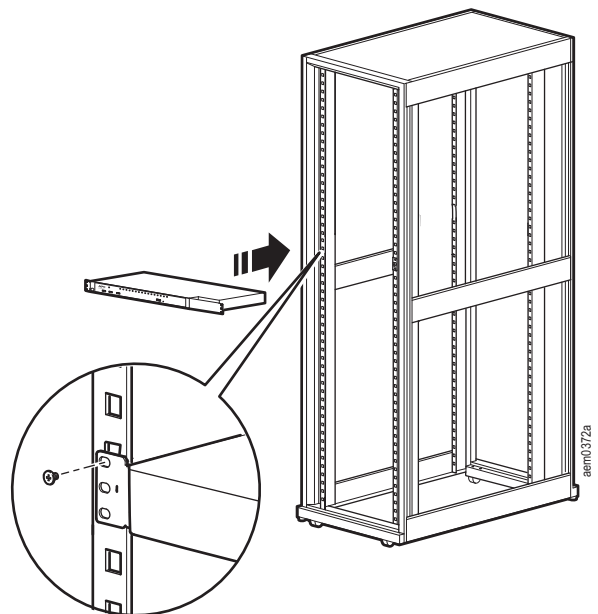
幅

KVMスイッチは19インチ（1U）ラックに取り付けることができます。取付ブラケットは、ユニットの前面または背面に取り付けられるように、前面と背面のどちらにもネジ止めできます。

注意：ネジ穴のないラックの場合は、ケージナット（付属していません）を使用してください。

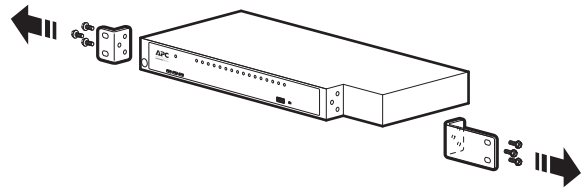
ラックマウント - 前面

1. ラックの前面にKVMスイッチを配置します。取付ブラケットの穴をラックの穴に位置合わせします。
2. 取付ブラケットをラックに固定します。

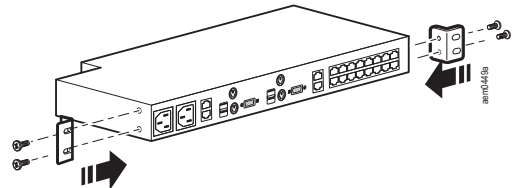


ラックマウント - 背面

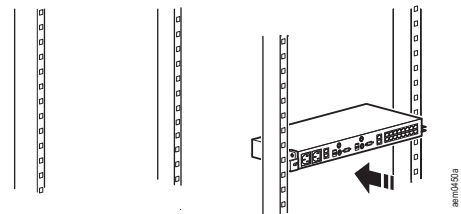
1. KVMスイッチの前面からブラケットを取り外します。
位置合わせの穴からプラグを取り外します。



2. KVMスイッチの前面から背面に、取り外したブラケットよりも小さいブラケットを取り付けます。付属品のラック取付ブラケットをKVMスイッチの背面に取り付けます。



3. KVMスイッチをラックにスライドさせて挿入します。取付ブラケットの穴をラックの穴に位置合わせします。
4. 取付ブラケットをラックの背面に固定します。



単体構成

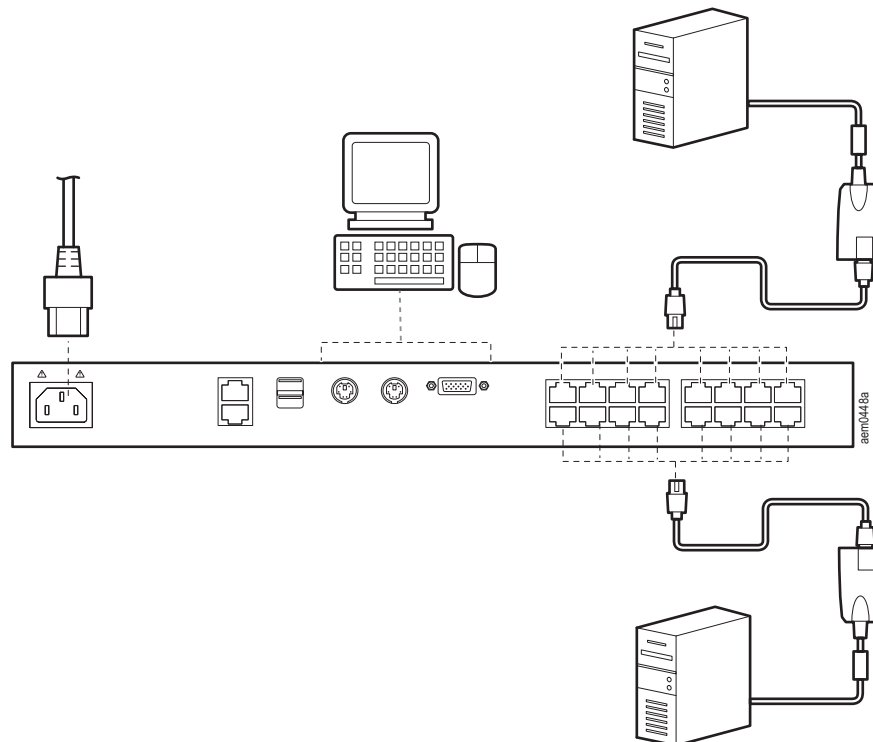
単体構成では、他のKVMスイッチがオリジナルのKVMスイッチからカスケード接続されません。

1. ローカルコンソールのキーボード、モニター、およびマウスを、KVM親スイッチのコンソールポートに接続します。各ポートはカラーコード化されており、対応するアイコンが付いています。

注意：

1. キーボードとマウスの接続はどのような組み合わせでも使用できます。
2. USBキーボードとマウスは、前面パネルのUSBポートまたは背面のコンソールポートに接続できます。
2. カテゴリ5eケーブルを使用して、KVMポートを、設置されたサーバーに対応するKVMサーバーモジュールに接続します。
3. KVMサーバーモジュールのコネクタを、対応するサーバーポートに接続します。
4. LANまたはWANのケーブルを、KVMスイッチのプライマリネットワークインターフェイスのソケットに接続します。
5. 電源コードをスイッチの電源ソケットに接続してから、AC電源に接続します。
6. サーバーの電源を投入します。（電源ケーブルをAC電源に接続すると自動で電源が入ります）

KVM1116Q単体構成の接続図



複数のKVMスイッチのカスケード接続

カスケード接続された構成により、追加できるサーバー数は格段に増えます。カスケード接続により、KVMの設置全体の接続数は増加しますが、親スイッチでは、カスケード接続する各KVMスイッチによって少なくとも1つのKVMポートが使用されます。
1段階目のKVMスイッチのKVMコンソールでOSD*を起動すると、カスケード接続されたKVM構成上のすべてのコンピュータがポートディレクトリに一覧表示されます。

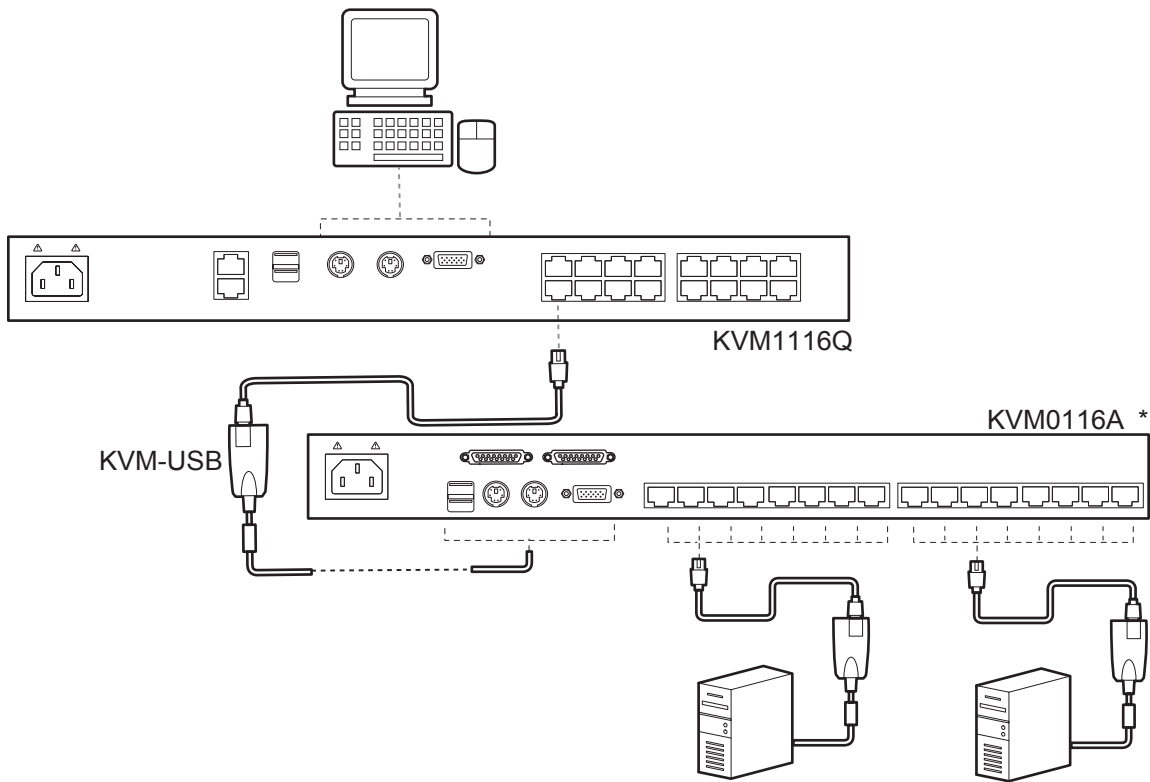
* OSD（On Screen Display）とは、ディスプレイを通してKVMスイッチを設定する画面です。

KVM1116Q 2段階構成

オリジナルのKVMスイッチのKVMポートに、最大16台のKVMスイッチをカスケード接続できます。完全な2段階構成で最大256台のサーバーを制御できます。カスケード接続された構成では、（KVM1116Qスイッチは1段階目、つまり親KVMスイッチと見なされ、カスケード接続された子KVMスイッチは2段階目、つまり子KVMスイッチ（KVM0116A /KVM0108A）と見なされます。前から設置されているデバイスも含めて、すべてのデバイスの電源をオフにします。

1. カテゴリ5eケーブルを使用して、1段階目のKVMスイッチ（KVM1116Q）上の使用可能なKVMポートにKVM-USBアダプターケーブルを接続します。
2. アダプターケーブルのKVMコネクタを、2段階目のKVMスイッチ（KVM0116A /KVM0108A）のキーボード、ビデオ、およびマウスコンソールポートに接続します。
3. 2段階目のユニット上の使用可能なKVMポートを、サーバーのキーボード、ビデオ、およびマウスポートに接続します。
4. 1段階目のKVMスイッチに電源を入れ、次に2段階目のKVMスイッチに電源を入れます。
5. 最後にサーバーの電源を入れます。

2段階構成の接続図



* このKVMスイッチに関する詳細は、KVM0116A およびKVM0108Aのユーザーガイドを参照してください。

対応KVMスイッチ

以下のKVMスイッチは、カスケード接続で使用することができます。

- KVM0116A
 - KVM0108A/KVM0116A

注意：

1.カスケード接続されたKVMスイッチの機能によっては、KVMスイッチの一部の機能が使用できない場合があります（たとえば、KVM0108A/KVM0116A スイッチはバーチャルメディアに対応していません）。

ハードウェアセットアップ

ケーブル長に関する留意事項

注意：KVMサーバーモジュールは、KVMアダプターケーブルと記載されている場合もあります。

- スイッチとローカルモニタ間は、66フィート（20m）を超えないようにしてください。
- 1段階目（親）のKVMスイッチと2段階目（子）のKVMスイッチ間の距離は、93フィート（30m）を超えないようにしてください。
- 1280x1024の解像度をサポートするには、KVMスイッチとKVMサーバーモジュール間の推奨される最大距離は164フィート（50m）です。
- 構成内のKVMスイッチとKVMサーバーモジュールのどの組み合わせでも、合計距離が164フィート（50m）を超えないようにしてください。

ホットプラグ

KVMスイッチをシャットダウンせずに、ケーブルをポートから抜き差しして接続サーバーを付け替えることができます。

注意：この機能が正常に動作するためには、サーバーのオペレーティングシステムがホットプラグをサポートしている必要があります。

アダプター ID機能

サーバーモジュールの情報（アダプター ID、ポート名、OS、キーボード言語、およびアクセスモード）は、サーバーモジュールに保存されています。スイッチのアダプター ID機能は、この情報をサーバーモジュールの構成情報（アクセス権など）とともに格納します。そのため、サーバーをそのサーバーモジュールと一緒に別のポートに付け替えたときに、再設定する必要がありません。アダプター ID機能は、新しい場所でこれらの情報を復元します。変更されるのはポート番号のみです。

サーバーとサーバーモジュールケーブルを別のスイッチに移動した場合は、サーバーモジュールに保存されている情報のみが保持されます。その他の設定は再設定するか、バックアップ/リストア機能を使用してください（90ページを参照）。

ポート設定はサーバーモジュールに保存されます。元のサーバーモジュールを使用せずにサーバーを新しいポートに移動した場合、または別のサーバーをサーバーモジュールに接続した場合は、新しいサーバーのポート設定を手動で設定する必要があります。ポート設定の詳細については、「サイドバーユーティリティ」（39ページ）を参照してください。

電源オフと再起動（電源ケーブルの抜き差しでOFF/ONします）

KVMスイッチの電源をオフにした場合、またはKVMスイッチが電源を失って再起動する必要がある場合は、10秒待ってから電源を入れてください。サーバーに影響を与えることはありませんが、万が一異常が見られた場合は再起動してください。

ポートIDの割り当て

構成内の各サーバーには固有のポートIDが割り当てられます。

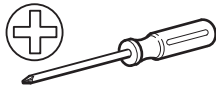
KVMスイッチに割り当てられているサーバーは、1セグメントのポートIDを持ち、これは接続されているKVMポート番号に対応します。

ポートの選択

ポートの選択は、GUIを使用して行います。詳細は38ページのポートの選択を参照してください。

デジタルKVMスイッチの交換手順（作業時間：30分）

必要工具



プラスドライバー

※交換作業後は、システム管理者様にて再設定が必要となります。

※設定ファイルのバックアップを行うことを推奨いたします。（システム管理者作業）

設定ファイルが無い場合、改めて設定が必要になります。

設定ファイルのバックアップについては「バックアップ/リストア（89ページ）」を参照してください。

1. 交換対象のKVMスイッチに接続された電源コード以外のケーブルを取り外します。なお、接続されているサーバーの電源を落とす必要はありません。（ただし、サーバー側でKVMアダプターブルの抜き差しを行う場合は、サーバー停止が必要です）
2. 交換対象のKVMスイッチに接続された電源コードを取り外します。
3. 取り付けブラケットの左右各2本のネジを外してラックから取り外します。
注意：取り外し時に落下させないように、しっかりと支えながらネジを取り外してください。
4. ラック背面に搭載の場合、取り付けブラケットをKVMスイッチから取り外します。
5. 交換用のKVMスイッチをラックに搭載します。
ラック前面に取り付ける際は、「ラックマウント-前面（9ページ）」を参照ください。
ラック背面に取り付ける際は、「ラックへの取付-背面（10ページ）」を参照ください。
取り付けブラケットは[手順4]で取り外したブラケットを使用します。
6. KVMスイッチに[手順1]で取り外したケーブルを接続します。
7. KVMスイッチに電源コードを接続し、KVMスイッチを起動します。（電源コードを接続すると自動で電源が入りKVMスイッチが起動します）
8. 接続されたサーバーが参照可能であることをKVMスイッチのOSDより確認します。

初期ユーザ名：admin 初期パスワード：admin

9. 初回セットアップを行います。（システム管理者作業）
初回セットアップについて「SuperAdministratorによるセットアップ（17ページ）」を参照してください。
10. KVMスイッチの設定を初期値より変更している場合、KVMスイッチの設定を行います。
※システム管理者様による設定が必要となります。
設定ファイルによるリストア方法については、「リストア（89ページ）」を参照してください。
設定ファイルのバックアップについては「バックアップ/リストア（89ページ）」を参照してください。

Super Administratorによるセットアップ

概要

初回セットアップ

まず最初に、Super Administratorがローカルコンソールから（可能な場合）ユーザー操作のためにKVMスイッチをセットアップします（ネットワークパラメータの設定とSuper Administratorのデフォルトのログインの変更）。リモートでのセットアップについては、「IPアドレスの決定」（97ページ）を参照してください。

これは最初のログインであるため、デフォルトのユーザー名「**admin**」とパスワード「**admin**」を使用します。ログインに成功すると、ローカルコンソールメインページが開きます。

注意：セキュリティのために、固有のユーザー名とパスワードに変更することをお勧めします。

ネットワークのセットアップ

1. [Device Management（デバイス管理）]タブをクリックします。
2. [Network（ネットワーク）]タブを選択します。
3. 「ネットワーク」（64ページ）に記載されている情報に従って、フィールドに入力します。

OSDへのログイン

概要

KVMスイッチには、ローカルコンソール、インターネットブラウザ、Windowsアプリケーション（AP）プログラム、Javaアプリケーション（AP）プログラムからアクセスできます。

KVMスイッチの認証手続きには有効なユーザー名とパスワードが必要です。無効な情報でログインすると、「Invalid Username or Password」または「Login Failed」のメッセージが表示されます。

注意：ログインに失敗した場合は、正しいユーザー名とパスワードで再度ログインしてください。無効なログインが指定された回数を超えると、タイムアウト時間が発生します。再度ログインするにはこのタイムアウト時間が過ぎるまで待つ必要があります。「Login Failures（ログイン失敗）」（71ページ）を参照してください。

ログイン方法による機能比較一覧

機能 / ログイン方法	ローカルコンソール	ブラウザ	クライアント AP
メインページ (画面左下)	Filter および Scan ボタン	Filter ボタンのみ	Filter, Scan および Array Mode ボタン
Port Access - User Preferences	Toolbar および Beeper on/off オプション	Toolbar, Welcome Messageおよび Viewer オプション	Toolbar on/off オプションのみ
Device Management - Security	Certificate Signing Request 機能なし	Certificate Signing Request 機能	Certificate Signing Request 機能
Maintenance	Upgrade Main Firmware およ び Backup/Restore 機能なし	Upgrade Main Firmware および Backup/Restore 機能	Upgrade Main Firmware および Backup/Restore 機能
Download	Download アイコンなし	WinClient, Java Client および Log server APの ダウンロード機能	WinClient, Java Client および Log server APの ダウンロード機能

ローカルコンソールによるログイン

ユーザー名とパスワードを入力し、[Login（ログイン）]をクリックしてローカルコンソールメインページを開きます。ローカルコンソールメインページは、Webブラウザ、WinClient、およびJavaクライアントのメインページとほぼ同じです。Webブラウザメインページについては、21ページを参照してください。

ブラウザによるログイン

KVMスイッチには、どのプラットフォームで実行しているインターネットブラウザからでもアクセスできます。

1. ブラウザのアドレスバーで、アクセスするKVMスイッチのIPアドレスを指定します。
注意：管理者がセキュリティのためにログイン文字列を追加している場合は、ログイン時にIPアドレスに続けてスラッシュとログイン文字列を指定してください。
2. [セキュリティの警告]ダイアログボックスが開き、証明書が受け入れられます。この証明書は信頼できるものです。2番目の証明書が表示された場合は、これも同様に受け入れるとログインページが開きます。
3. ユーザー名とパスワードを入力して[Login]をクリックし、Webメインページを開きます。

WindowsクライアントAPによるログイン

Windows APクライアントを使用すると、Windowsシステムのユーザーはブラウザを介さずに直接リモートアクセスすることができます。ただし、初回使用時にはブラウザページからWindows APクライアントプログラムをダウンロードする必要があります。

WinClient.exeアイコンをダブルクリックすると、Windowsクライアント接続画面が開きます。

WindowsクライアントAP接続画面

項目	説明
メニューバー	メニューバーには[File]と[Help]の2つの項目が含まれます。 <ul style="list-style-type: none">• [File]メニューでは、ユーザーが作成した作業ファイルを作成、保存、開くことができます。• [Help]メニューは、WinClient APのバージョンを表示します。
Server List (サーバーリスト)	WinClient.exeは、ユーザーのローカルLANセグメントにあるKVMスイッチを検索して、このボックスに一覧表示します。表示されたKVMスイッチのいずれかをダブルクリックして接続します。 注意： 1.KVMスイッチの[Enable Device List（デバイスリストを有効にする）]設定パラメータを有効にする必要があります。 2.[Server List（サーバーリスト）]には、アクセスポート設定が、このダイアログボックスの[Server（サーバー）]領域で[Port（ポート）]に指定した番号と一致するKVMスイッチが一覧表示されます。
Server（サーバー）	リモートの場所でKVMスイッチに接続する際に使用します。[IP]リストボックスからアドレスを選択します。アドレスがリストにない場合は、[IP]フィールドに対象のIPアドレス、[Port]フィールドにそのポート番号を入力します。ポート番号が不明な場合は、管理者に問い合わせてください。 <ul style="list-style-type: none">• IPアドレスとポート番号を指定したら、[Connect（接続）]をクリックします。• 終了したら、このダイアログボックスに戻り、[Disconnect（切断）]をクリックして接続を終了します。
Message Panel (メッセージパネル)	KVMスイッチへの接続に関するステータスメッセージが表示されます。
Switch to Remote View（リモート ビューへの切替）	クリックするとGUIメインページ（23ページ）に切り替わります。

WindowsクライアントAPを使用した接続

1. [Server List]ボックスからデバイスを選択してそれをダブルクリックするか、そのIPアドレスとポート番号を[Server]の[IP]と[Port]入力ボックスで指定します。
2. **[Connect]**をクリックすると[Login（ログイン）]ダイアログボックスが開きます。
3. 有効なユーザー名とパスワードを入力し、**[OK]**をクリックします。
4. 認証されたら、**[Switch to Remote View（リモートビューへの切替）]**ボタンが有効になります。これをクリックすると、KVMスイッチに接続され、そのGUIメインページが表示されます。

[File]メニュー

ユーザーが作成した作業ファイルを作成、保存、開きます。作業ファイルには、サーバーリスト、サーバーのIPリスト項目、ホットキー設定など、クライアントセッションで指定したすべての情報が含まれます。クライアントプログラムは、現在の作業ファイルに含まれる値を使用して開きます。現在の作業ファイルには、最後にプログラムを閉じたときに有効であった値が含まれています。

New（新規作成）	名前を付けた作業ファイルを作成し、その値が失われないように保存して後で呼び出すことができますようにします。
Open（開く）	以前保存した作業ファイルを開き、それに含まれる値を使用します。
Save（保存）	現在有効な値を現在の作業ファイルとして保存します。
Exit（終了）	WinClientを終了します。

JavaクライアントAPによるログイン

Java APクライアントを使用すると、Windows以外のシステムのユーザーは直接リモートアクセスすることができます。ただし、初回使用時にはブラウザページからJava APクライアントプログラムをダウンロードする必要があります。JavaClient.jarアイコンをダブルクリックすると、Javaクライアント接続画面が開きます。

項目	説明
Server List (サーバーリスト)	JavaClient.jarはユーザーのローカルLANセグメントにあるKVMスイッチを検索し、このボックスに結果を一覧表示します。表示されたKVMスイッチのいずれかをダブルクリックして接続します。 注意： 1.KVMスイッチの[Enable Device List（デバイスリストを有効にする）]設定パラメータを有効にする必要があります。 2.[Server List]には、アクセスポート設定が、このダイアログボックスの[Server（サーバー）]領域で[Port（ポート）]に指定した番号と一致するKVMスイッチが一覧表示されます。
Server（サーバー）	リモートの場所でKVMスイッチに接続する際に使用します。[IP]リストボックスからアドレスを選択します。アドレスがリストにない場合は、[IP]フィールドに対象のIPアドレス、[Port]フィールドにそのポート番号を入力します。ポート番号が不明な場合は、管理者に問い合わせてください。 • IPアドレスとポート番号を指定したら、[Connect（接続）]をクリックします。 • 終了したら、このダイアログボックスに戻り、[Disconnect（切断）]をクリックして接続を終了します。
Message Panel (メッセージパネル)	KVMスイッチへの接続に関するステータスメッセージが表示されます。
Switch to Remote View (リモートビューへの切替)	このボタンをクリックすると、GUIメインページに切り替わります。

接続 - JavaクライアントAP

KVMスイッチに接続するには、以下の手順を実行します。

1. [Server List]ボックスからデバイスを選択してそれをダブルクリックするか、そのIPアドレスとポート番号を[Server]の[IP]と[Port]入力ボックスで指定します。
2. **[Connect]**をクリックすると[Login]ダイアログボックスが開きます。
3. 有効なユーザー名とパスワードを入力し、**[OK]**をクリックします。
4. 認証されたら、**[Switch to Remote View（リモートビューへの切替）]**ボタンが有効になります。これをクリックするとスイッチに接続され、GUIメインページが開きます。

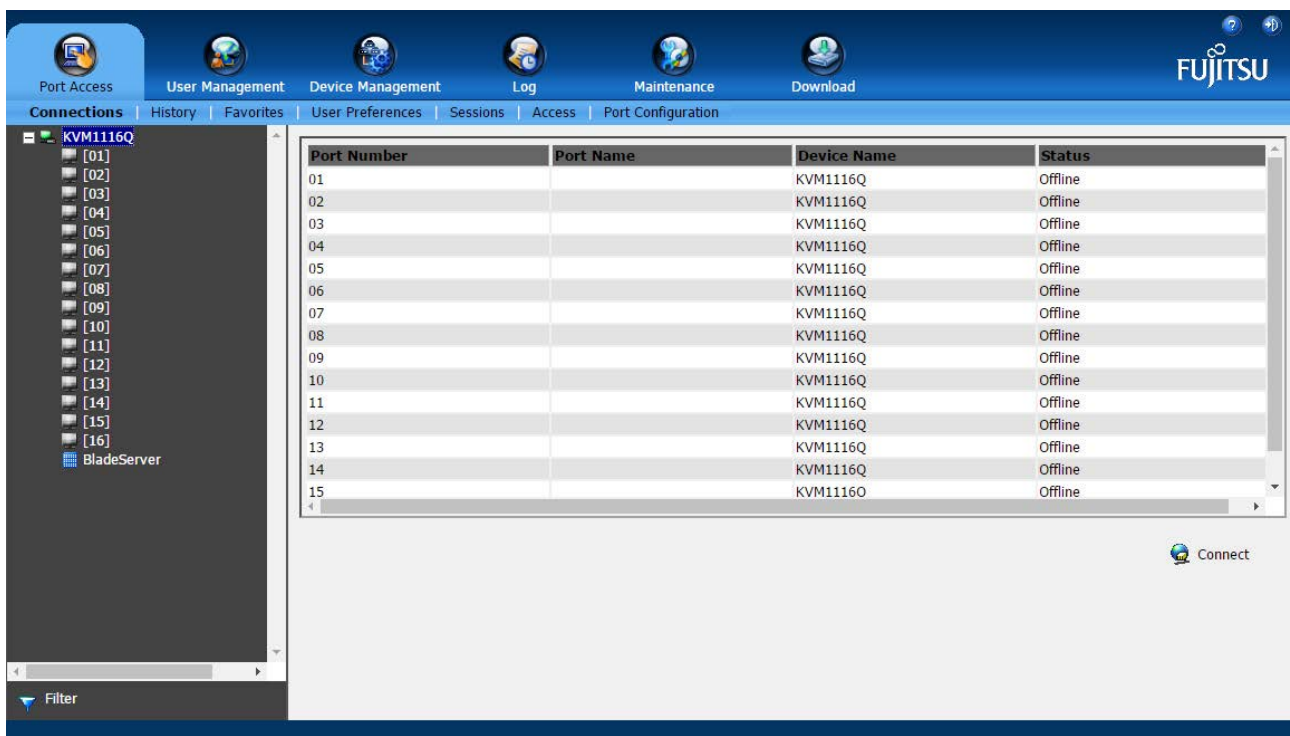
ユーザーインターフェイス

概要

ユーザーインターフェイスのメインページの画面は、ログインに使用する方法によって異なります。

Webブラウザメインページ

KVMスイッチにはほとんどの標準的なWebブラウザを使用してアクセスできます。ユーザーがログインして認証されると、[Port Access（ポートアクセス）]ページが表示された状態でWebブラウザのメインページが開きます。









注意：ユーザーのタイプや権限によっては、一部の項目が表示されない場合もあります。



項目	説明
タブバー	KVMスイッチのメインの操作カテゴリを表示します。このタブバーに表示される項目は、ユーザーのタイプと権限オプションによって決まります。
メニューバー	タブバーで選択した項目に関連する操作のサブカテゴリを表示します。メニューバーに表示される項目は、ユーザーのタイプと権限オプションによって決まります。
サイドバー	タブバーとメニューバーの選択に関連するポートをツリー表示します。サイドバーに表示される項目をクリックすると詳細ページが開きます。サイドバーの下側にある[Filter（フィルタ）]ボタンをクリックすると、ツリーに表示されるポートの範囲を広げたり狭めたりすることができます。詳細は、フィルタ機能（41ページ）を参照してください。
About（バージョン情報）	KVMスイッチの現在のファームウェアバージョンに関する情報を表示します。
Logout（ログアウト）	KVMスイッチのセッションからログアウトするには、このボタンをクリックします。
Welcome Message（ウェルカムメッセージ）	有効にしている場合（「Welcome Message*」（48ページ）を参照）、ここにウェルカムメッセージが表示されます。
インタラクティブな表示パネル	メインの作業エリアです。メニュー選択とサイドバー項目の選択が画面に反映されます。

タブバー

ページ上部のタブバーに表示されるアイコンの数と種類は、ユーザーのタイプ（Super Administrator、Administrator、User）と権限によって決まります。

アイコン	説明
	Port Access（ポートアクセス）：[Port Access]ページは、KVMスイッチに接続されたサーバーにアクセスして操作するために使用します。このページはすべてのユーザーが利用できます。
	ユーザーとグループの作成と管理に使用します。また、それらにサーバーを割り当てる際にも使用します。このタブは、ユーザー管理権限を持つSuper Administrator、Administrator、およびUserが利用できます。それ以外のAdministratorやUserには表示されません。
	KVMスイッチの全体的な操作の設定や管理を行います。このページは、ユーザー管理権限を持つSuper Administrator、Administrator、およびUserが利用できます。それ以外のAdministratorやUserには表示されません。
	ログファイルの内容を表示します。
	新しいファームウェアのインストール、設定やアカウント情報のバックアップと復元、ネットワークデバイスのping、デフォルト値の復元などの操作を行います。このタブはSuper Administrator（および保守権限を持つAdministratorおよびUser）が利用できます。一般の管理者やユーザーのページにはこのアイコンは表示されません。
	Windowsクライアント、Javaクライアント、およびログサーバーのAPバージョンをダウンロードできます。このページはすべてのユーザーが利用できます。ダウンロードできるプログラムは、ユーザーのアクセス許可によって異なります。

ページの右端に小さなアイコンが2つあります。

アイコン	説明
	バージョン情報アイコンをクリックすると、KVMスイッチのファームウェアバージョンに関する情報が表示されます。
	ログアウトアイコンをクリックすると、ログアウトしてKVMスイッチのセッションを終了します。

AP GUIメインページ

GUIメインページは、Webブラウザのメインページとほぼ同じです。以下の点が異なります。

1. AP GUIバージョンでは、タブバーの下にメニューバーはありません。ノートのようにタブがあります。Webブラウザのインターフェイスと同様に、タブの構成はメインタブバーとサイドバーで選択した項目によって変わります。
2. サイドバーの下部には、[Filter（フィルタ）]に加えて、[Scan（スキャン）]と[Array Mode（アレイモード）]のボタンもあります。詳細は、「Port Access（ポートアクセス）」（38ページ）を参照してください。
3. 画面の上側中央（デフォルトの位置）または下側の中央には隠れた[Control Panel（コントロールパネル）]があり、マウスを重ねると表示されます。
4. ページの右端には、追加のアイコンがあります。このアイコンをクリックすると、GUIメインページを閉じて最後に選択したポートの表示に戻ります。
5. GUIはキーボードで操作できます。

キー	アクション
Ctrl + P	[Port Access]ページを開く
Ctrl + U	[User Management]ページを開く
Ctrl + D	[Device Management]ページを開く
Ctrl + L	[Log]ページを開く
Ctrl + M	[Maintenance（メンテナンス）]ページを開く
Ctrl + A	[Download]ページを開く
F1	バージョン情報を表示する
F2	選択したポートのポート名を編集する
F4	サイドバー（左側）パネルを選択する
F5	メイン（右側）パネルを選択する
F7	GUIを閉じる
F8	ログアウトする

ローカルコンソールGUIメインページ

ローカルコンソールGUIメインページとJavaおよびWindows AP GUIメインページの主な違いは、ローカルコンソールメインページには[Download]のタブがないことです。

コントロールパネル

WinClientコントロールパネル（ActiveX WebビューアおよびWinClient AP用）には、ほぼすべての機能が含まれています。このセクションでは、WinClientコントロールパネルについて説明します。

Javaコントロールパネル（WebビューアおよびJavaクライアントAP用）では、WinClientコントロールパネルで利用できるすべての機能を使用できるわけではありません。両方のパネルに共通の機能については、Javaコントロールパネルでも同じように機能します。

コントロールパネルは、画面の上側中央（デフォルト位置）または下側中央に隠れており、マウスを重ねると表示されます。パネルは3行からなり、一番上の行にはアイコン、下の2行にはテキストが表示されます。



注意：表示されるアイコンはユーザーが選択できます。詳細は、「コントロールパネルの設定」（37ページ）を参照してください。










- デフォルトでは、上側のテキスト行にはリモート画面のビデオ解像度が表示されます。マウスポインタをアイコンに重ねると、上側のテキスト行の情報がアイコンの機能の説明に変わります。他のユーザーからのメッセージがメッセージボードに入力され、メッセージボードが開かれていない場合は、メッセージが上側の行に表示されます。
- 下側の行の左側には、アクセスしているデバイスのIPアドレスが表示されます。行の中央には、ユーザーが使用中のバス（スラッシュの前の番号）とそのバスを使用しているユーザーの総数（スラッシュの後ろの数字）が表示されます。

注意：バスとユーザー情報は、有効にしている場合のみ表示されます。

- テキスト行のエリアを右クリックすると、ツールバーのメニュースタイルバージョンが開きます。
- ツールバーのメニュースタイルバージョンが開きます。コントロールパネルを画面の別の場所に移動するには、マウスポインタをテキスト行のエリアに移動してからクリックしてドラッグします。

WinClientコントロールパネル機能

アイコン	機能
	トグルアイコン。クリックすると、コントロールパネルは常に他の画面の前面に表示されます。再度クリックすると通常の表示に戻ります。
	マクロアイコン。クリックすると[Macros (マクロ)]ダイアログボックスが開きます (詳細は26ページを参照)。
	ハンマーアイコン。クリックすると、[Video Options (ビデオオプション)]ダイアログボックスが開きます。右クリックするとすばやく自動同期を実行します (詳細は「Video Settings (ビデオ設定)」(30ページ)を参照)。
	クリックするとビデオとマウスの自動同期操作を実行します。これは[Video Options]ダイアログボックスで[Auto-sync (自動同期)]ボタンをクリックするのと同じです (「Video Settings (ビデオ設定)」(30ページ)を参照)。
	ディスプレイをフルスクリーンモードとウィンドウモードの間で切り替えます。
	クリックするとリモート画面のスナップショット (画面キャプチャ) を撮ります。詳細は「Snapshot (スナップショット)」(36ページ)を参照してください。
	クリックすると[Message Board (メッセージボード)]が開きます (「Message Board (メッセージボード)」(31ページ)を参照)。
	クリックするとリモートシステムにCtrl+Alt+Del信号を送信します。
	クリックすると、リモート画面をカラー表示とグレースケール表示の間で切り替えます。
	クリックすると、[Virtual Media (バーチャルメディア)]ダイアログボックスが開きます。詳細は「バーチャルメディア」(32ページ)を参照してください。 注意： 1.このアイコンはスイッチにのみ表示されます。 2.機能が無効か使用できない場合、このアイコンはグレー表示されます。
	クリックするとリモート画面のウィンドウをズームします。 注意： この機能はウィンドウモードでのみ使用できます (フルスクリーンモードでは無効)。詳細は「Zoom (ズーム)」(33ページ)を参照してください。
	クリックするとオンスクリーンキーボードが開きます (「オンスクリーンキーボード」(33ページ)を参照)。
	クリックしてマウスポインタのタイプを選択します。 注意： このアイコンは、どのマウスポインタのタイプが選択されているかによって変わります (「マウスポインタの種類」(34ページ)を参照)。
	クリックすると、マウスの同期を自動と手動の間で切り替えます。 • 自動を選択すると、アイコンに緑のVが表示されます。 • 手動を選択すると、アイコンに赤のXが表示されます。 詳細は「Mouse DynaSync Mode (マウスダイナシンクモード)」(34ページ)を参照してください。
	クリックするとユーザーマクロのリストが開き、[Macros]ダイアログボックスを使用するよりも手軽にマクロにアクセスして実行できます。
	アクセスしたポートの下でこのアイコンをクリックすると、[Port Access]ページに移動せずに、構成全体でユーザーがアクセス可能な最初のポートにスキップします。
	アクセスしたポートの下でこのアイコンをクリックすると、[Port Access]ページに移動せずに、現在のポートの1つ前にあるユーザーがアクセス可能なポートにスキップします。

アイコン	機能
	アクセスしたポートの下でこのアイコンをクリックすると、[Port Access]ページに移動せずに、現在のポートの1つ後にあるユーザーがアクセス可能なポートにスキップします。
	アクセスしたポートの下でこのアイコンをクリックすると、[Port Access]ページに移動せずに、構成全体でユーザーがアクセス可能な最後のポートにスキップします。
	アクセスしたポートの下でこのアイコンをクリックすると、オートスキャンモードを開始します。KVMスイッチは、フィルタ機能（「フィルタ」41ページを参照）を使用して、選択したポート間でオートスキャンの対象となるポートを自動的に切り替えます。これによりポートを手動で切り替えることなくポートの動作を監視できます。
	アクセスしたポートの下で、このアイコンをクリックしてパネルアレイモードを起動します（「パネルアレイモード」（83ページ）を参照）。
	アクセスしたポートの下で、このアイコンをクリックして、デバイスをスイッチに接続するアダプターケーブル（[Short（短）]、[Medium（中）]、[Long（長）]）を選択します。アイコンのラインの長さが、選択した長さを示します。
	アクセスしたポートの下で、このアイコンをクリックしてGUIを呼び出します。
	クリックすると[Control Panel Configuration（コントロールパネルの設定）]ダイアログボックスが開きます。詳細は、「コントロールパネルの設定」（36ページ）を参照してください。
	クリックするとビューアを終了します。 ・ブラウザビューアセッションを終了すると、Webブラウザのメインページに戻ります。 ・WinClient APセッションを終了すると、ログインダイアログボックスに戻ります。 ・JavaクライアントAPセッションを終了すると、ログインダイアログボックスに戻ります。
	これらのアイコンは、リモートコンピュータの[Num Lock]、[Caps Lock]、[Scroll Lock]の各キーの状態を表します。 ・ロックがオンの場合、LEDは明るい緑でロックの留め金は閉じています。 ・ロックがオフの場合、LEDは暗い緑でロックの留め金は開いています。 アイコンをクリックすると状態が交互に切り替わります。 注意： これらのアイコンとローカルキーボードのアイコンは同期しています。 キーボードのロックキーを押すと、それに応じてアイコンが変わります。

Macros（マクロ）

[Macros（マクロ）]ダイアログボックスには、[Hotkeys（ホットキー）]、[User Macros（ユーザーマクロ）]、[System Macros（システムマクロ）]の3つの機能があります。

Hotkeys（ホットキー）ホットキーセットアップユーティリティ（アイコンをクリックしてアクセス可能）を使用して、アクションを実行するホットキーを設定します。アクションを呼び出すホットキーが名前の右に表示されます。アクション名の左側のチェックボックスをクリックして、ホットキーを有効または無効にします。

アクションを実行するホットキーを変更するには、以下の手順を実行します。

1. アクションをハイライトし、**[Set Hotkey（ホットキーの設定）]**をクリックします。
2. 選択したファンクションキーを押します（1回に1つ）。ファンクションキーを押すとキー名が[Hotkeys]フィールドに表示されます。
 - a. キーの順番が異なるかぎり、同じファンクションキーを複数のアクションに使用できません。
 - b. ホットキー値の設定をキャンセルするには、**[Cancel]**をクリックします。アクションの[Hotkeys]フィールドを消去するには、**[Clear]**をクリックします。
3. シーケンスの入力が終了したら、**[Save]**をクリックします。すべてのホットキーをデフォルト値にリセットするには、**[Reset]**をクリックします。

ホットキーのアクション

アクション	説明
Exit remote location (リモート操作の終了)	KVMスイッチへの接続を切断し、ローカルクライアントコンピュータの操作に戻ります。これはコントロールパネルで[Exit]アイコンをクリックするのと同じです。デフォルトキーはF2、F3、F4です。
Adjust Video (ビデオを調整)	[Video Settings (ビデオ設定)]ダイアログボックスを開きます。これはコントロールパネルのビデオ設定アイコンをクリックするのと同じです。デフォルトキーはF5、F6、F7です。
Toggle Control Panel (コントロールパネルを切り替え)	コントロールパネルのオンとオフを切り替えます。デフォルトキーはF3、F4、F5です。
Toggle mouse display (マウス表示を切り替え)	マウスポインタの種類を[デュアル]または[ドット]に変更します。これはコントロールパネルのマウスポインタアイコンから[デュアル]または[ドット]ポインタタイプを選択するのと同じです。デフォルトキーはF7、F8、F9です。 注意：Javaコントロールパネルではこの機能は使用できません。
Adjust mouse (マウスを調整)	これはローカルおよびリモートのマウスの動作を同期します。デフォルトキーはF7、F8、F9です。
Video Auto-sync (ビデオ自動同期)	この組み合わせは自動同期操作を実行します。これはコントロールパネルのビデオ自動同期アイコンをクリックするのと同じです。デフォルトキーはF8、F7、F6です。
Show/Hide Local Cursor (ローカルカーソルの表示/非表示)	マウスポインタの種類を[シングル]に変更します。これはコントロールパネルのマウスポインタアイコンから[シングル]ポインタタイプを選択するのと同じです。デフォルトキーはF4、F5です。
Substitute Ctrl key (Ctrlキーの代替キー)	ローカルコンピュータでCtrlキーの組み合わせを使用している場合に、それがリモートサーバーに送信されるのを防ぐために、Ctrlキーの代わりとなるファンクションキーを指定して、リモートサーバーでその動作を実行します。例：F11キーを代替キーにする場合、[F11 + 5]を押すとリモートサーバーに[Ctrl + 5]として表示されます。デフォルトキーはF11です。
Substitute Alt key (Altキーの代替キー)	リモートサーバーで[Alt + Tab]と[Ctrl + Alt + Del]の動作を実行できるようにするために、Altキーの代替キーを指定します。たとえば、F12キーを代替キーにした場合、[F12 + Tab]と[Ctrl + F12 + Del]を使用します。デフォルトキーはF12です。

User Macros (ユーザーマクロ) ユーザーマクロはリモートサーバーで特定のアクションを実行します。

マクロを作成するには、以下の手順を実行します。

1. [User Macros]を選択し、[Add (追加)]をクリックします。
2. マクロの名前を入力します。
3. リストから対象のマクロを選択し、[Record (記録)]をクリックします。
ダイアログボックスが閉じ、画面の左上に小さいパネルが開きます。
4. マクロ用のキーを押します。
 - a. マクロの記録を一時停止するには、[Pause (一時停止)]をクリックします。再開するには、再度[Record (記録)]をクリックします。
 - b. [Show (表示)]をクリックすると、ダイアログボックスが開き、各キー入力と、それぞれにかかった時間が一覧表示されます。
表示中に[Record (記録)]をクリックするとマクロの記録が終了します。
 - c. [Cancel]をクリックすると、すべてのキー入力がキャンセルされます。

注意：

1. この機能は大文字小文字を区別しません。
 2. マクロの記録時、フォーカスはマクロダイアログボックスではなくリモート画面にある必要があります。
 3. デフォルトのキーボード文字のみ使用できます。
5. マクロの記録が終了したら **[Done (実行)]** をクリックします。
[マクロ]ダイアログボックス画面に戻り、記録したキー入力が[マクロ]列に表示されます。
- a. マクロを選択し **[Set Hotkey]** をクリックすると対象のマクロにHotkeyを割り当てることができます。
 - b. キー入力を変更するにはマクロを選択して **[Edit (修正)]** をクリックします。

マクロは以下の3通りの方法で実行できます。

1. 割り当てられたホットキーを使用する。
2. コントロールパネルの[Macro List]でマクロをクリックする。
3. [Macros]ダイアログボックスを開き、**[Play (再生)]** をクリックする。
[Macros]ダイアログボックスからマクロを実行する場合、マクロの実行方法を指定するオプションがあります。
 - **[Play Without Wait (すぐに再生)]** をクリックすると、キー入力は間隔を空けずに続けて実行されます。
 - **[Play With Time Control (タイムコントロール再生)]** をクリックすると、マクロ作成時のキー入力間の時間間隔を再現しながら実行されます。[Play]の横の矢印をクリックして選択します。
 - リストを開かずに**[Play]** をクリックすると、デフォルトのオプション ([Play Without Wait]または[Play With Time Control]) で実行され、このオプションが[Playback (再生)]列に表示されます。デフォルトのオプションを変更するには、現在のオプションをクリックして別のオプションを選択します。

注意： ユーザーマクロは各ユーザーのローカルクライアントコンピュータに保存されます。
マクロの数、マクロ名のサイズ、ホットキーの組み合わせの作成に制限はありません。

ダイアログボックスの下部にある**[Search]** ボタンをクリックして、上側のパネルに表示されるマクロのリストをフィルタ処理して再生または編集できます。名前を検索するかキーで検索するかをラジオボタンをクリックして選択します。検索する文字列を入力し、**[Search]** をクリックします。検索文字列に一致するすべてのインスタンスが上側のパネルに表示されます。

System Macros (システムマクロ) システムマクロは、セッションを閉じるための終了マクロを作成する際に使用されます。

たとえば、セキュリティを強化するために、WindowsキーとLキーの組み合わせを送信すると、次回デバイスにアクセスしたときにリモートサーバーのログインページが開くようにするマクロを作成できます。マクロを作成するには、以下の手順を実行します。

1. [System Macros]を選択し、**[Add]**をクリックします。
2. ダイアログボックスで、「New Macro」テキストをマクロの名前に置き換えます。
3. **[Record]**をクリックするとダイアログボックスが閉じ、画面の左上に小さいパネルが開きます。
4. マクロ用のキーを押します。
 - a. マクロの記録を一時停止するには、**[Pause (一時停止)]**をクリックします。再開するには、再度**[Pause]**をクリックします。
 - b. **[Show]**をクリックするとダイアログボックスが開き、各キー入力と、それぞれにかかった時間が一覧表示されます。
5. **[Show]**を開いていない場合は、マクロの記録が終了したら**[Done]**をクリックします。[Macros]ダイアログボックスに戻り、[Macro]列にシステムマクロのキー入力が表示されます。
6. キー入力を変更するには、マクロを選択して**[Edit]**をクリックします。**[Show]**のダイアログボックスに似たダイアログボックスが開きます。キー入力や順番などを変更できます。

システムマクロが作成されると、それを各ポートで使用できます。ポートの[Port Configuration (ポート設定)] > [Port Properties (ポートプロパティ)]ページでそれを選択します。

Video Settings（ビデオ設定）

コントロールパネルのハンマーアイコンをクリックすると、[Video Settings]ダイアログボックスが開きます。表示されるオプションにより、使用しているモニタでリモート画面の配置と画質を調整します。

オプション	用途
Screen Position (画面位置)	矢印ボタンをクリックして、リモートサーバーウィンドウの水平位置と垂直位置を調整します。
Auto-Sync (自動同期)	<p>クリックすると、リモート画面の垂直および水平のオフセット値が検出され、ローカル画面と自動的に同期されます。</p> <p>注意：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.ローカルのマウスポインタとリモートのマウスポインタが同期していない場合、通常はこの機能を実行するとポインタが同期されます。 2.この機能は明るい画面で最適に動作します。 3.結果に満足できない場合は、[Screen Position]の矢印を使用して手動でリモート画面の位置を調整してください。
RGB	スライダーバーをドラッグしてRGB（赤、緑、青）値を調整します。RGB値を大きくすると、それに合わせて画像のRGB要素の値も増加します。 [Set to Grayscale（グレースケールに設定）] を有効にすると、リモートのビデオ画面がグレースケールに変更されます。
Gamma（ガンマ）	ここでビデオ画面のガンマレベルを調整できます。
Network Type (性能)	<p>ローカルクライアントコンピュータが使用するインターネット接続のタイプを選択します。</p> <p>スイッチはこの選択を使用して、[Video Quality（ビデオ画質）]の設定を自動的に調整してビデオ画面の画質を最適化します。</p> <p>ネットワーク条件は変化するため、事前設定された選択が適していない場合、[Customize]を選択して[Video Quality]のスライダーバーを使用して条件に合わせて設定を調整します。</p>
Video Quality (ビデオ画質)	スライダーバーをドラッグして全体的なビデオ画質を調整します。値が大きいほど、画像はより鮮明になり、ネットワークを通過するビデオデータ量は増加します。
Enable Refresh (リフレッシュを有効にする)	<p>[Enable Refresh]を選択して1～99の数値を入力します。KVMスイッチは指定された時間間隔で画面を更新します。この機能はデフォルトで無効になっています。この機能を使用するには、[Enable Refresh]の横のボックスをクリックしてチェックマークを入れます。</p> <p>注意：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.スイッチは、マウスの動きが止まった時点で時間間隔のカウントを開始します。 2.この機能を有効にすると、ネットワーク上で転送されるビデオデータ量が増加します。指定する値が小さいほど、ビデオデータの転送頻度が上がります。
Transparency (透明度)	GUIホットキーが起動されたときにツールバーの透明度を調節します。サンプルウィンドウの表示が好みの透明度になるように、バーをスライドして調整します。
Color Depth Control (色深度の制御)	この設定は、カラー情報の量を調節してビデオ画面の色深度を決定します。

Gamma Adjustment（ガンマ値の調整）リモートのビデオ画面のガンマレベルを修正する必要がある場合は、[Video Adjustment（ビデオ調整）]ダイアログボックスの[Gamma]機能を使用します。





- [Basic（基本）]設定には10個のプリセットと4個のユーザー定義レベルがあり、この中から選択できます。リストから最適なものを選択します。
- さらに細かく設定するには、[Advanced（詳細）]ボタンをクリックしてダイアログボックスを開きます。
- 目的の画面出力になるまで、必要な数のポイントで斜め線をクリックしてドラッグします。
- [Save As（名前を付けて保存）]をクリックして、最大4つのユーザー定義設定を保存します。保存された設定は、リストボックスから開くことができます。
- 変更を取り消してガンマ線を元の位置に戻すには、[Reset]をクリックします。
- 変更を保存するには、[OK]をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
- 変更を取り消すには、[Cancel]をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

注意：最適な結果を得るためには、リモートサーバーを見ながらガンマを変更してください。

Message Board（メッセージボード）

ユーザー同士がコミュニケーションをとり、アクセスの競合を軽減できるように、メッセージボードが用意されています。

ボタンバーのボタンは、交互に切り替わるトグルボタンです。各ボタンのアクションについて下表で説明します。

ボタン	アクション
	チャットの有効/無効：無効にすると、ボードに投稿されたメッセージは表示されません。チャットを無効にすると、ボタンは暗く表示されます。ユーザーがチャットを無効にすると、ユーザーリストパネルのユーザー名の横にアイコンが表示されます。
	キーボード/ビデオ/マウスの占有/解放KVMを占有すると、他のユーザーはビデオを見ることができず、キーボードやマウス操作ができなくなります。KVMが占有されている場合、このボタンは暗く表示されます。ユーザーがKVMを占有すると、ユーザーリストパネルのユーザー名の横にアイコンが表示されます。
	キーボード/マウスの占有/解放：KMを占有している場合、他のユーザーはビデオを見ることはできますが、キーボードやマウスの操作はできません。KVMが占有されている場合、このボタンは暗く表示されます。ユーザーがKVMを占有すると、ユーザーリストパネルのユーザー名の横にアイコンが表示されます。
	ユーザーリストの表示/非表示：ユーザーリストを非表示にすると、ユーザーリストパネルは閉じます。ユーザーリストが開いている場合、ボタンは暗く表示されます。

メッセージ表示パネルユーザーがボードに投稿したメッセージおよびシステムメッセージは、このパネルに表示されます。チャットを無効にしている場合、ボードに投稿されたメッセージは表示されません。

メッセージ入力パネルこのパネルにメッセージを入力します。[Send]をクリックするか、ENTERキーを押してボードにメッセージを投稿します。




ユーザーリストパネルログインしているすべてのユーザーの名前がこのパネルに一覧表示されます。

- 自分の名前は青で表示されます。他のユーザーの名前は黒で表示されます。
- デフォルトでは、メッセージはすべてのユーザーに送信されます。特定のユーザーにメッセージを送信するには、ユーザー名を選択してからメッセージを送信します。
- ユーザー名を選択した後、メッセージをすべてのユーザーに送信する場合は、[All Users]を選択してからメッセージを送信します。
- ユーザーがチャットを無効にしている場合、ユーザー名の前にそのアイコンが表示されます。
- ユーザーがKVMを占有している場合、ユーザー名の前にそのアイコンが表示されます。

バーチャルメディア（本機能はEMEIAでのみ使用可能です）

バーチャルメディア機能を使用すると、ユーザーのシステム上のドライブ、フォルダ、画像ファイル、またはリムーバブルディスクを、まるでリモートサーバー上にあるかのように表示し、動作させることができます。

注意：1.バーチャルメディアは、指定されたアダプターケーブルを使用するリモートサーバーでのみサポートされます。2.バーチャルメディアアイコンは、バーチャルメディア機能の状態に応じて変わります。

ボタン	アクション
	バーチャルメディア機能が無効か利用できない場合、アイコンはグレーで表示されます。
	バーチャルメディア機能が利用可能である場合、アイコンは青で表示されます。このアイコンをクリックすると、[Virtual Media]ダイアログボックスが開きます。
	バーチャルメディアデバイスがリモートサーバーでマウントされている場合、アイコンは青、赤いXを付けて表示されます。このアイコンをクリックすると、リダイレクトされているすべてのデバイスがアンマウントされます。

バーチャルメディアのマウントバーチャルメディアデバイスをマウントするには、以下の手順を実行します。

1. バーチャルメディアアイコンをクリックして、[Virtual Media]ダイアログボックスを開きます。
注意：右上の[T]ボタンをクリックするとスライダーバーが開き、ダイアログボックスの透明度を調整できます。調整後、ダイアログボックス内の任意の場所をクリックしてスライダーを閉じます。
2. **Add**をクリックして、メディアソースを選択します。別のダイアログボックスが開き、ドライブ、ファイル、フォルダ、またはリムーバブルディスクを選択できます。サポートされるバーチャルメディアタイプについては、「バーチャルメディア対応」（96ページ）を参照してください。
3. デバイスがフルスピードUSBのみをサポートしている場合は、**[Disable High Speed USB Operation Mode（ハイスピードUSB操作モードを無効にする）]**チェックボックスにチェックを入れます。
4. 別のメディアソースを追加するには、**[Add]**をクリックして必要に応じてソースの選択を繰り返します。最大3つのバーチャルメディアをマウントできます。リストの上位3つが選択されたソースになります。選択の順番を入れ替えるには、移動するデバイスを選択して、上または下の矢印ボタンをクリックしてリスト内の上または下に移動します。
5. **[Read]**は、リモートサーバーにデータを送信できるリダイレクトされたデバイスを指します。**[Write]**は、リモートサーバーからのデータを書き込むことのできるリダイレクトされたデバイスを指します。リダイレクトされたデバイスの書き込みと読み取りの両方を可能にするには、**[Enable Write（書き込みを有効にする）]**チェックボックスをクリックしてチェックを入れます。リダイレクトされたデバイスに書き込みができない場合、そのデバイスはグレーで表示されます。
6. リストからエントリを削除するには、それを選択して**[Remove（削除）]**をクリックします。
7. メディアソースの選択が完了したら、**[Mount（マウント）]**をクリックしてダイアログボックスを閉じます。選択したバーチャルメディアデバイスがリモートサーバーにリダイレクトされ、リモートサーバーのファイルシステムでドライブ、ファイル、フォルダなどとして表示されます。
マウントされると、バーチャルメディアをリモートサーバーに実際に存在するメディアのように扱うことができます。バーチャルメディアとの間でファイルをドラッグアンドドロップしたり、リモートサーバー上のファイルを開いて編集し、リダイレクトされたメディアに保存したりできます。リダイレクトされたメディアに保存されたファイルは、実際にはローカルクライアントコンピュータのストレージに保存されます。リダイレクトされたメディアからドラッグしたファイルは、実際にはローカルクライアントコンピュータのストレージから取得されます。
8. リダイレクトを終了するには、コントロールパネルを開き、バーチャルメディアアイコンをクリックします。マウントされたすべてのデバイスが自動的にアンマウントされます。

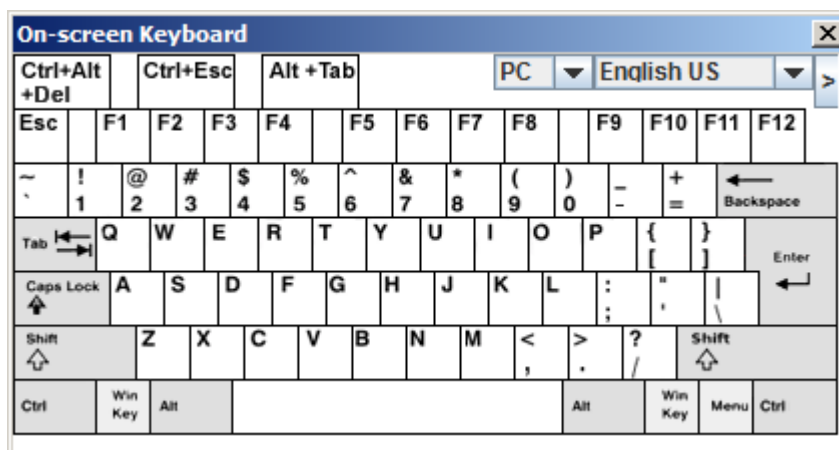
Zoom (ズーム)

ズームアイコンは、リモートビューウィンドウのズーム倍率を制御します。

設定	説明
100%	リモートビューウィンドウを100%の倍率で表示します。
75%	リモートビューウィンドウを75%の倍率で表示します。
50%	リモートビューウィンドウを50%の倍率で表示します。
25%	リモートビューウィンドウを25%の倍率で表示します。
1:1	リモートビューウィンドウを100%の倍率で表示します。この設定と100%設定との違いは、リモートビューウィンドウのサイズが変更されても、表示サイズは変更されない点です。つまり、元のサイズのままです。表示領域外にある部分を表示するには、マウスをウィンドウの端まで移動して画面をスクロールします。

オンスクリーンキーボード

KVMスイッチはオンスクリーンキーボードに対応しており、複数の言語で使用できるように、サポートされる各言語の標準キーをすべて備えています。アイコンをクリックすると、オンスクリーンキーボードが開きます。



リモートシステムとローカルシステムのキーボード言語が同じでない場合でも、どちらかのシステムの設定を変更する必要はありません。オンスクリーンキーボードを開き、アクセス先のサーバーで使用されている言語を選択し、オンスクリーンキーボードを使用してそのサーバーと通信します。キーをクリックするにはマウスを使用する必要があります。実際のキーボードを使用することはできません。

言語の変更

1. 現在選択している言語の横にある下矢印をクリックし、言語リストを開きます。
2. リストから新しい言語を選択します。

プラットフォームの選択 オンスクリーンキーボードは、PCに加えてSunプラットフォームもサポートしています。

プラットフォームを選択するには、以下の手順を実行します。

1. 現在選択しているプラットフォームの横にある下矢印をクリックし、プラットフォームリストを開きます。
2. リストから新しいプラットフォームを選択します。

拡張キーボード 拡張キーボードのキーを表示または非表示にするには、言語リストの矢印の右にある矢印をクリックします。

マウスポインタの種類

KVMスイッチでは、リモート画面で使用するマウスポインタを複数のオプションから選択できます。アイコンをクリックして、使用可能な選択肢から選択します。

- 注意：**1.ポートにアクセスする前は、[Dual（デュアル）]と[Crosshairs（十字）]のみWindowsビューアで使用できます。ポートにアクセス後、4つのポインタすべてが使用可能になります。
- 2.[Dot（ドット）]ポインタは、JavaアプレットビューアまたはJavaクライアントAPでは使用できません。
- 3.[Dot]ポインタを選択すると、[Toggle mouse display（マウス表示の切り替え）]ホットキー機能と同じ結果になります（詳細は「Toggle mouse display（マウス表示を切り替え）」（27ページ）を参照）。
- 4.コントロールパネルのアイコンは、選択したオプションに合わせて変更されます。

Mouse DynaSync Mode（マウスダイナシンクモード）

ローカルとリモートのマウスポインタは自動または手動で同期させることができます。

マウスの自動同期（DynaSync） Mouse DynaSync（マウスダイナシンク）は、リモートとローカルのマウスポインタを同期して連動させます。

注意：この機能は、システムがWindowsまたはMac（G4以降）で、アダプター属性のOS設定がWinまたはMacに設定されており（「Port Properties（ポートプロパティ）」（40ページ）を参照）、指定されたアダプターケーブルでKVMスイッチに接続されている場合のみ使用できます。これ以外の設定では、手動でマウス同期を行う必要があります。

コントロールパネルのアイコンは同期モードの状態を示します。

- ・アイコンはグレーで表示され、マウスダイナシンクが使用不可であることを示します。手動で同期する必要があります。これがデフォルト設定です。
- ・このアイコンの緑のチェックマークは、マウスダイナシンクが利用可能で有効になっていることを示します。マウスダイナシンクが利用可能である場合は、これがデフォルト設定です。
- ・このアイコンの赤いXは、マウスダイナシンクが利用可能ですが、無効になっていることを示します。

マウスダイナシンクが利用可能である場合、アイコンをクリックするとその状態が有効と無効の間で切り替わります。マウスダイナシンクモードを無効にするように選択した場合は、手動で同期する必要があります。

MacおよびLinuxに関する留意事項

- ・ Mac OSバージョン10.4.11以降の場合、2つ目のダイナシンク設定を選択できます。デフォルトのマウスダイナシンクの結果が満足のいくものでない場合は、Mac 2設定を試してください。Mac 2を選択するには、コントロールパネルのテキスト領域を右クリックし、[Mouse Sync Mode（マウス同期モード）] > [Automatic for Mac 2（Mac 2へ自動設定）]を選択します。
- ・ Linuxはダイナシンクモードをサポートしていませんが、[Mouse Sync Mode]メニューにRedhat AS3.0システム用の設定があります。USBアダプターケーブルをAS3.0システムで使用しており、デフォルトのマウス同期が満足のいくものでない場合、Redhat AS3.0設定を試すことができます。その他の場合は、次のセクションに記載する手動によるマウス同期手順を実行する必要があります。

手動によるマウス同期 ローカルマウスポインタがリモートシステムのマウスポインタと同期していない場合、それを同期させる方法はいくつかあります。

1. コントロールパネルの[Video Settings]アイコンをクリックしてビデオとマウスの自動同期を実行する（30ページを参照）。
2. [Video Adjustment（ビデオ調整）]機能で[Auto Sync]を実行する（詳細は「Video Settings（ビデオ設定）」（30ページ）を参照）。
3. [Adjust Mouse（マウスの調整）]ホットキーを使用してマウスの調整機能を起動する（詳細は「Adjust mouse（マウスを調整）」（27ページ）を参照）。
4. ポインタを画面の4つの角すべてに移動する（順序は任意）。
5. コントロールパネルを画面上の別の場所にドラッグする。

コントロールパネルの設定

コントロールパネルアイコンをクリックしてダイアログボックスを開きます。コントロールパネルで項目とグラフィックの設定を行います。

項目	機能
Customize Control Panel (コントロールパネルのカスタマイズ)	コントロールパネルに表示するアイコンを選択します。表示するアイコンにチェックを入れます。チェックを入れていないアイコンは表示されません。
Control Panel Style (コントロールパネルのスタイル)	[Transparent (透明)] を有効にすると、コントロールパネルが半透明になり、その下にある画面が透けて見えるようになります。有効にすると、コントロールパネルはアイコンとして表示され、マウスをアイコンに重ねるとパネル全体が表示されます。
Screen Options (画面オプション)	<ul style="list-style-type: none"> • [Full Screen Mode (フルスクリーンモード)]を有効にすると、リモート画面はローカルモニタで全画面表示されます。 • [Full Screen Mode]を有効にしない場合、リモート画面はローカルモニタにウィンドウとして表示されます。リモート画面がウィンドウに収まりきらない場合、表示したい部分に一番近いウィンドウ枠にマウスポインタを移動すると、画面がスクロールします。 • [Keep Screen Size (画面サイズを保持)]を有効にすると、リモート画面はサイズ変更されません。 • リモート画面の解像度がローカルモニタの解像度よりも低い場合、リモート画面はローカルモニタの中央にウィンドウのように表示されます。 • リモート画面の解像度がローカルモニタの解像度よりも高い場合、リモート画面はローカルモニタの中央に表示されます。画面からはみ出した部分を表示するには、表示したい部分に一番近い画面の隅にマウスを移動すると、画面がスクロールします。 • [Keep Screen Size]を有効にしていない場合、リモート画面はローカルモニタの解像度に合わせてサイズ変更されます。
スクロール方法	<p>リモート画面がローカルモニタよりも大きい場合、画面からはみ出した部分にスクロールする方法を選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Mouse Movement (マウスの移動)]を選択すると、マウスポインタを画面の境界に移動したときに画面がスクロールします。 • [Scroll Bars (スクロールバー)]を選択すると、画面の境界周囲にスクロールバーが表示され、これを使用して画面からはみ出した部分をスクロールして表示できます。
Bus Info (バス情報)	[Bus Info] を有効にすると、現在使用しているバスの番号と、そのバスを使用しているユーザーの総数が、コントロールパネルの最下行の中央に表示されます。
Snapshot (スナップショット)	<p>KVMスイッチの画面キャプチャパラメータを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Path (パス)]: キャプチャした画面が自動的に保存されるディレクトリです。[Browse (参照)]をクリックしてディレクトリに移動し、[OK]をクリックします。ここでディレクトリを指定していない場合、スナップショットはデスクトップに保存されます。 • キャプチャした画面をBMPファイルとJPEG (JPG) ファイルのどちらで保存するかをラジオボタンで選択します。 • JPEGを選択した場合、キャプチャしたファイルの画質をスライダバーで調整できます。画質を上げるほど鮮明になりますが、ファイルサイズが大きくなります。
Keyboard Pass Through (キーボードパススルー)	有効にすると、Alt + Tabキー入力はリモートサーバーに渡され、そのサーバーで実行されます。有効にしない場合、Alt + Tabキー入力はローカルクライアントコンピュータで実行されます。

Javaコントロールパネル

JavaアプレットビューアとJavaクライアントAPのコントロールパネルは、WinClientで使用されるコントロールパネルとほぼ同じです。

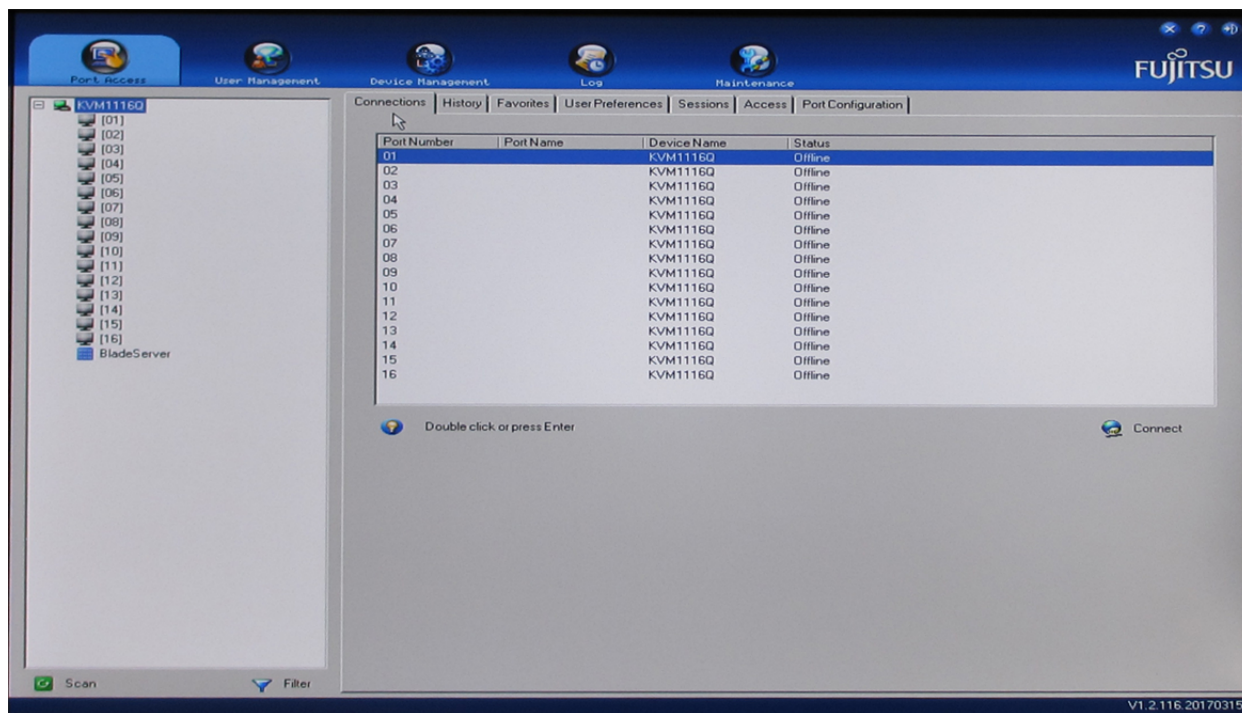
主な相違点を以下に示します。

- [Macros]ダイアログボックスでは、[Toggle Mouse Display]は利用できません。
- [Dot]マウスポインタタイプは利用できません。
- [Message Board]にユーザーリストの表示/非表示を切り替える[Show]/[Hide]ボタンはありません。この機能は、[User List]パネルと[Main]パネルの間のバーの上部にある矢印をクリックして実行できます。
- バーチャルメディアでは、ISOとフォルダのみサポートされます。
- コントロールパネルの[Lock LED]アイコンは、使用中のキーボードと同期されません。初回接続時は、LED表示が正しくない可能性があります。LEDアイコンをクリックして設定してください。

Port Access（ポートアクセス）

概要

[Port Access]ページを開くと、KVMスイッチの[Connections]ページが表示されます。



[Connections]ページは、いくつかのメインエリアで構成されています。ユーザーがアクセスを許可されているすべてのデバイスおよびポートが、ページ左側のサイドバーに一覧表示されます。サイドバーでデバイスまたはポートを選択後、メニューバー（ブラウザGUI）またはタブバー（AP GUI）でエントリをクリックすると、その項目に関連する情報と設定のページが開きます。

サイドバー

画面左側のサイドバーには、すべてのKVMスイッチおよびブレードサーバーが、そのポートを含めて、ツリー構造で一覧表示されます。

サイドバーのツリー構造

- ユーザーがアクセス権を持つサーバー、ポートのみが表示されます。
- ポート、および子サーバーは、親デバイスの下にネストすることができます。
デバイスの前にある「+」をクリックすると、ツリーが展開され、その下にネストされたポートが表示されます。「-」をクリックすると、ツリーが折り畳まれてネストされたポートが非表示になります。
- ポートのID番号は、アイコンの横の角括弧内に表示されます。ポートに名前を設定することもできます。
- KVMスイッチとポートがオンラインの場合はモニタ画面アイコンが緑になり、オフラインの場合はグレーになります。
- ポートにアクセスして操作するには、そのアイコンをダブルクリックします。

注意：

- 1.[Browser]ページでは、ポートの数だけポートビューアを開くことができますが、表示されるポートの数は、KVMスイッチがサポートするバスの数によって異なります。
- 2.AP GUIバージョンでは、同時にアクセスできるのは1ポートのみです。異なる2つのポートを表示するには、2回ログインする必要があります。

サイドバーユーティリティ

AP GUIの[Port Access]の[Connections]ページで、サイドバーの項目を右クリックすると、オプションリストが開きます。

注意：オプションリストに表示される項目は、ユーザーの権限、またはリモートからログインしているかローカルコンソールからログインしているかによって異なります。

項目	ユーザータイプ	説明
Expand/ Collapse (展開/折り 畳み)	Administrators Users	<ul style="list-style-type: none">• サーバーのポートがネストされて折り畳まれている（表示されていない）場合、ダイアログボックスのエントリは[Expand]になります。[Expand]をクリックすると、ネストされたポートが表示されます。• サーバーのポートが表示されている場合、ダイアログボックスのエントリは[Collapse]になります。[Collapse]をクリックすると、ポートが折り畳まれます。 注意： この項目は、子サーバーを持つスイッチまたはポートにのみ表示され、ツリー構造で「+」または「-」をクリックするのと同じ機能を提供します。
Rename (名前の変 更)	Administrators Users	ポート設定権限を持つAdministratorsとUsersは、各KVMスイッチとポートの名前を設定できます。
Copy (コピー)	Administrators Users	このオプションはポートに対してのみ使用できます。[Copy]を選択後、ポートを[Favorites]ページに貼り付けます。詳細は「お気に入りへの追加」（45ページ）を参照してください。
Properties (プロパ ティ)	Administrators	<ul style="list-style-type: none">• ポート設定権限を持つAdministratorsとUsersは、KVMスイッチまたはポートのプロパティを設定できます。• KVMスイッチの場合、クリックすると[Device Management]ページに移動します。• ポートの場合、ポートの設定を行うダイアログボックスが開きます。

項目	ユーザータイプ	説明
Mount/ Unmount (マウント/ アンマウン ト)	Administrators Users	ローカルコンソールからログインした場合のみ使用できます。USBデバイスをスイッチのUSBポートに接続したときに表示され、デバイスをマウントしてログインしているユーザーが使用できるようにします。

Port Properties (ポートプロパティ) ポップアップメニューから[Properties]を選択してダイアログボックスを開き、選択したポートの設定を入力します。

注意：これは「Port Configuration (ポート設定)」(52ページ)で行うポート設定と同じ機能を実行する簡単な設定方法です。

フィールド	説明
Port OS (ポートOS)	ポートに接続されたサーバーが使用しているオペレーティングシステムを指定します。[Win]、[Mac]、[Sun]、[Other]の中から選択します。デフォルトは[Win]です。
OS Language (OS言語)	ポートに接続されたサーバーで使用するOS言語を指定します。ドロップダウンリストで使用可能な選択肢から選択します。デフォルトは[English US]です。
Cable Length (ケーブル長)	サーバーとポートの接続に使用するカテゴリ5eケーブルの長さを指定します。[Short] (10m未満)、[Medium] (10~25m)、[Long] (25m超)の中から選択します。デフォルトは[Short]です。 注意： ケーブル長はビデオ画質に影響します。ケーブルが短いほど画質は向上します。この設定は、ケーブル長に合わせて補正するように設計されています。ご使用の接続状況に合わせて最適な設定を見つけてください。
Access Mode (アクセスモード)	複数のユーザーがログオンした場合にポートにどのようにアクセスされるかを定義します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Exclusive (排他的)] : 最初にポートに切り替えたユーザーがそのポートを排他的に制御できます。他のユーザーはそのポートを表示できません。この設定では、[Timeout]機能はポートに適用されません。 • [Occupy (占有)] : 最初にポートに切り替えたユーザーがそのポートを制御できます。ただし、他のユーザーはそのポートのビデオ画面を表示することができます。ポートを制御しているユーザーが、[Timeout]ボックスで設定された時間を超えて操作しなかった場合、ポート制御はその後最初にマウスを動かしたかキーボードを打ったユーザーに移されます。 • [Share (共有)] : ユーザーはポートの制御を同時に共有します。ユーザーからの入力はキューに入れられ、古い順に実行されます。このような状況では、メッセージボードを利用して、キーボードとマウスまたはキーボード、マウスおよびビデオの制御に関して、ユーザー同士でコミュニケーションをとることができます。
Timeout (タイムアウト)	[Access Mode]が[Occupy]に設定されているポートを制御するユーザーに対して、時間のしきい値を設定します。ここで設定した時間の間、ポートを占有しているユーザーからの操作がなかった場合、ユーザーはタイムアウトし、ポートは解放されます。ポートが解放された後、最初にキーボードまたはマウス入力を送信したユーザーがポートを占有します。 0~255秒の値を入力します。デフォルトは3秒です。0を設定すると、入力がないと即座にポートが解放されます。

設定を行い、[Save]をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

ポート名の設定

ポート設定権限を持つAdministratorsとUsersは、各ポート名を設定できます。名前の割り当て、変更、削除を行うには、以下の手順を実行します。

- 編集する項目を1回クリックし、2秒待ってからもう一度クリックします。1～2秒後、テキスト入力ボックスが表示されます。
注意：
 - これはダブルクリックではありません。シングルクリックを2回です。ダブルクリックすると、ポートに接続されているデバイスに切り替わります。
 - AP GUIバージョンでは、編集するポートを右クリックして、表示されるポップアップメニューから**[Rename]**を選択するか、ポートを選択してF2キーを押します。
- アイテムの名前を入力します（または前の名前を変更または削除します）。
 - 英語（US）レイアウトのPCキーボード上の文字、数字、記号のどの組み合わせでも使用できます。最大文字数は20文字です。
 - 英文字以外を入力するには、ローカルのIMEを有効にしてください。2バイト文字の言語の場合、最大文字数は9文字になります。
- 操作を完了するには、ENTERキーを押すか、入力ボックスの外側の任意の場所をクリックします。

Scan（スキャン）

[Scan]はAP GUIサイドバーの下部にあり、サイドバーに表示されるすべてのポート間を一定間隔で自動的に切り替えて、動作を監視します。詳細は「オートスキャン」（80ページ）を参照してください。

注意：ブラウザバージョンでは、スキャンはサイドバーの下部に表示されません。ポートのツールバーから開いてください。

Array（アレイ）

[Array]はAP GUIサイドバーの下部にあり、ポートの動作を監視するもう1つの方法です。画面は格子状に分割され、各パネルに特定のポートのビデオ画面が表示されます。サイドバーに表示されている、オンラインのポートのみが表示されます。他のポートはすべてブランクになります。詳細は「パネルアレイモード」（83ページ）を参照してください。

注意：ブラウザバージョンでは、アレイはサイドバーの下部に表示されません。ポートのツールバーから開いてください。

Filter（フィルタ）

サイドバーに表示するポートの数と種類、およびオートスキャンとアレイモードを起動している場合にどのポートをスキャンするかを制御します。**[Filter]**をクリックするとパネルの下部に項目が表示されます。

項目	説明
All	これがデフォルトの表示形式です。他のフィルタオプションが選択されていない場合、ユーザーがアクセス可能なすべてのポートがサイドバーに一覧表示されます。お気に入り指定している場合は、 [All] の代わりにドロップダウンボックスから [Favorites] を選択します。 [Favorites] を選択すると、お気に入りとして選択されたアイテムのみがツリーに表示されます。
Powered On (電源オン)	[Powered On] を有効にする（チェックボックスにチェックを入れる）と、接続されたデバイスに電源が入っているポートのみがツリーに表示されます。
Search (検索)	検索文字列を入力して [Search] をクリックすると、検索文字列に一致するポート名のみがツリーに表示されます。ワイルドカード（1文字の場合は「?」、複数文字の場合は「*」）とキーワードを使用できるため、複数のポートをリストに表示できます。
Exit (終了)	[Exit] をクリックすると、フィルタダイアログが閉じます。

KVMデバイスとポート - [Connections]ページ

[Connections]ページには、KVMスイッチのデバイスレベルでのポートの状態情報、およびポートレベルでのポートの接続設定オプションが表示されます。

デバイスレベル

サイドバーでKVMスイッチが選択されている場合、[Connections]ページにはユーザーがアクセス権限または表示権限を持つデバイスのポートのリストが表示されます。

各デバイスに以下の属性が表示されます。

- Port Number（ポート番号）：スイッチ上のポートの番号です。
- Port Name（ポート名）：ポートに名前が割り当てられている場合は、ここに表示されます。
- Device Name（デバイス名）：スイッチに名前が割り当てられている場合は、ここに表示されます。
- Status（ステータス）：ポートの現在のステータス（オンラインまたはオフライン）。

注意：列見出しをクリックすると、表示される情報のソート順が変更されます。

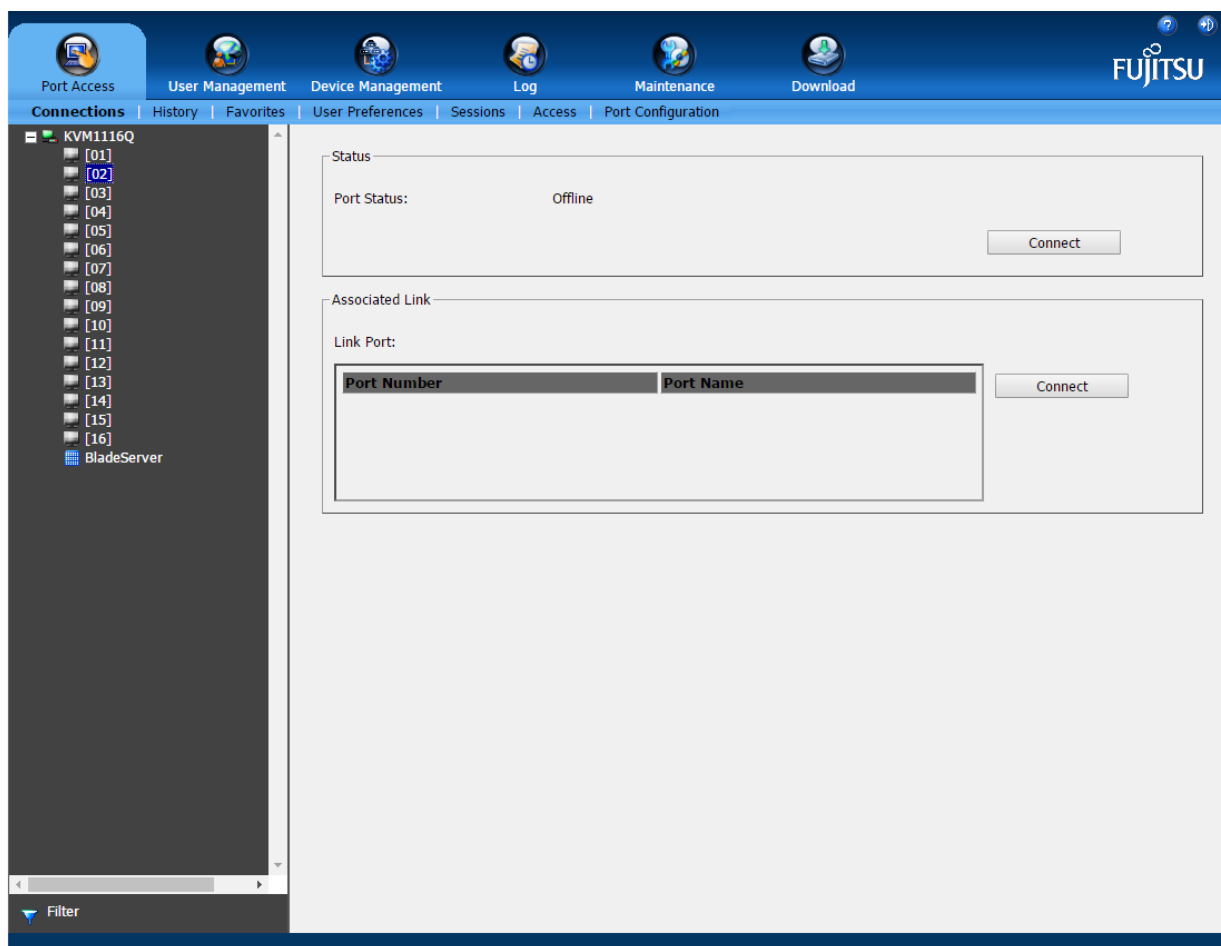
行の任意の場所をダブルクリックしてポートにアクセスするか、ポートを選択してからページの右下にある[Connect]をクリックします。

ポートレベル

サイドバーでポートが選択されている場合、[Connections]ページにはポートの接続と設定のオプションが表示されます。画面は3つのパネルに分かれています。

Status (ステータス) ポートの現在のステータス情報が表示されます（ポートがオンラインかオフラインか、ポートがマウント可能かどうかなど）。スイッチに組み込まれているWindowsビューアまたはJavaビューアからポートの画面を表示するには、[Connect]ボタンをクリックします。

Associated Links (関連付けリンク) 現在選択されているポートに関連付けられているポートを表示します。関連付けは、[Port Access] > [Port Configuration] > [Associated Links]ページで設定します。



History（履歴）

[History]ページには、ポートがアクセスされた時間の履歴が表示されます。ここから最も最近使用されたポートにすばやくアクセスできます。メインパネルに表示されるポートをダブルクリックすると、そのポートにアクセスできます。

- 1画面分よりも多くの履歴がある場合は、スクロールバーが開き、これを使用してすべての履歴を表示できます。
- 履歴を消去するには、ページの右下にある[Clear History（履歴の消去）]ボタンをクリックします。

注意：列の見出しをクリックすると、表示される情報のソート順が変更されます。

Device	Port	Time
KVM1116Q	[02]	2017/08/07 14:57:33

Favorites（お気に入り）

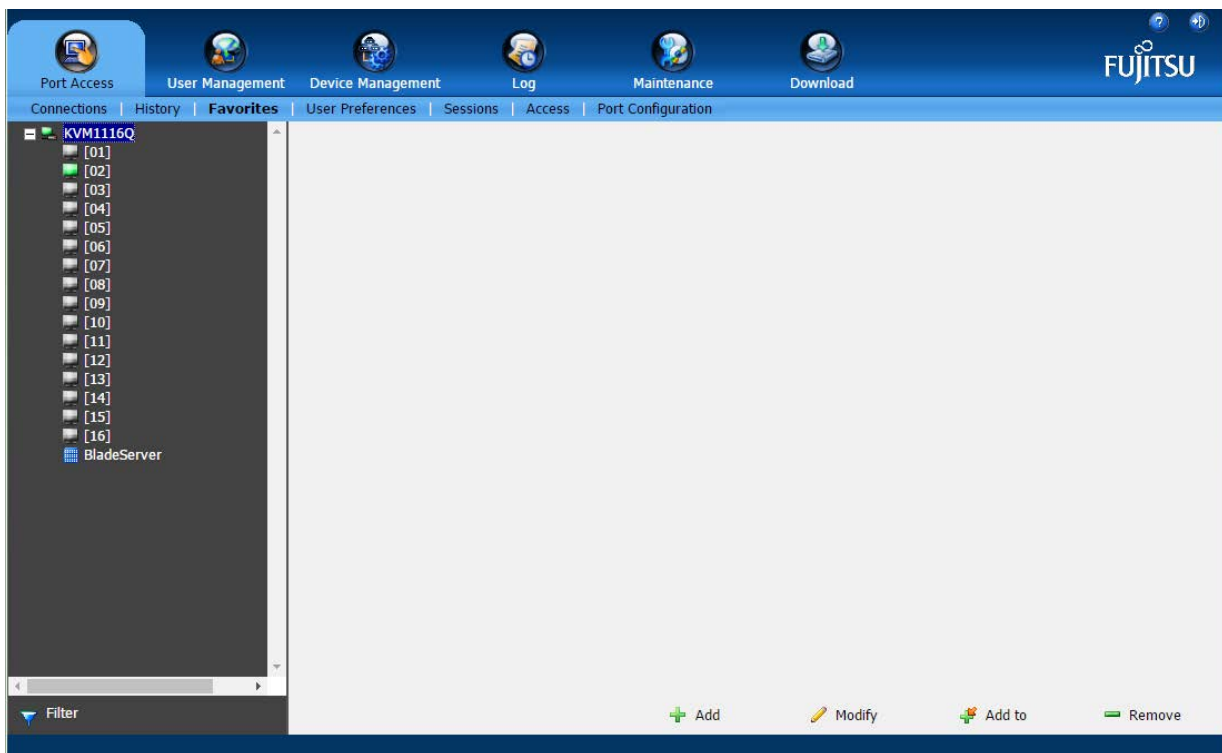
[Favorites]ページは、ブックマーク機能に似ています。頻繁にアクセスするポートをリストに保存できます。お気に入りは、大規模な構成で特に役立ちます。

お気に入りへの追加

1. [Port Access]サイドバーでポートを選択した状態で、[Favorites]ページのメインパネルで右クリックし、**[Add Favorite（お気に入りに追加）]**ボックスを表示します。
それをクリックするか、メインパネルの下部にある**[Add]**をクリックすると、**[Untitled Favorite]**エントリページが開きます。
2. 名前を入力します。メインパネルの何もない場所をクリックすると、ボックスが閉じます。
3. 以下のいずれかの方法でポートを追加します。
 - サイドバーからポートをドラッグし、コンテナにドロップします。
 - サイドバーでポートを右クリックして**[Copy]**を選択し、コンテナを右クリックして**[Paste]**を選択します。
 - メインパネルでコンテナを選択し、サイドバーでポートを選択して、メインパネルの下部にある**[Add to]**をクリックします。
4. ポートのKVMスイッチがコンテナに追加されます。選択したポートがKVMスイッチの下に追加されます。

注意：

- 1.複数のポートを同時に追加するには、サイドバーでShiftキーまたはCtrlキーを押しながら複数のポートを選択し、そのポートのグループを[Favorites]パネルにドラッグまたはコピーします。
- 2.お気に入りはサイドバーのフィルタ処理で選択できます。詳細は「Filter（フィルタ）」（41ページ）を参照してください。



お気に入りの変更

- お気に入り、またはそれに含まれるアイテムのいずれかを変更するには、それを右クリックしてポップアップメニューからオプションを選択します。
- お気に入りの名前を編集するには、以下のようにします。
 - それを1回クリックし、少し間を置いてから再度クリックします。テキスト入力ボックスが表示されたら、名前を編集します（ポート名の編集と同じ手順で行います）。
 - またはメインパネルで[Favorite]を選択し、メインパネルの下部で**[Modify]**をクリックします。

User Preferences (ユーザー設定)

ユーザーは独自の作業環境をセットアップできます。KVMスイッチは、ログイン時に入力されたユーザー名に従って、各ユーザープロファイルの個別の設定記録を保存します。

Port Access User Management Device Management Log Maintenance Download

Connections History Favorites User Preferences Sessions Access Port Configuration

KVM1116Q

- [01]
- [02]
- [03]
- [04]
- [05]
- [06]
- [07]
- [08]
- [09]
- [10]
- [11]
- [12]
- [13]
- [14]
- [15]
- [16]
- BladeServer

Filter

Settings

Language: English

OSD Hotkey: [Scroll Lock] [Scroll Lock]

ID Display: Port Number + Port Name

ID Duration: 3 sec

Scan Duration: 5 sec

Screen Blanker: 0 min

Logout Timeout: 30 min

Toolbar: ☒ Enable ☐ Disable

Viewer: ☐ Auto Detect ☒ Java Client

Welcome Message: ☒ Hide ☐ Show

Save

Old Password:

New Password:

Confirm Password:

Change Password...

設定	機能
Language (言語)	インターフェイスで表示する言語を選択します。
OSD Hotkey (OSDホットキー)	GUI機能を制御するホットキーを選択します。[Scroll Lock] [Scroll Lock]がデフォルトです。別の組み合わせを選択するには、ボックスの右にある矢印をクリックして、選択肢のリストを開きます。
ID Display (ID表示)	ポートIDの表示方法を、ポート番号のみ (PORT NUMBER)、ポート名のみ (PORT NAME)、またはポート番号とポート名 (PORT NUMBER + PORT NAME) の中から選択します。デフォルトは[PORT NUMBER + PORT NAME]です。
ID Duration (ID表示時間)	ポートの変更後にモニタにポートIDを表示する時間を設定します。1~255秒から選択します。デフォルトは3秒です。0を設定すると、ポートIDは常時表示されます。
Scan Duration (スキャン間隔)	オートスキャンモードで、選択したポート間を切り替える際に、各ポートにかかる時間を設定します (「オートスキャン」 (80ページ) を参照)。1~255秒の値を入力します。デフォルトは5秒です。0を設定すると、スキャン機能は無効になります。
Screen Blanker (スクリーンブランカー)	ここで設定した時間の間、コンソールからの入力がない場合、画面はブランクになります。1~30分の値を入力します。0を設定すると、この機能は無効になります。デフォルトは0です。 注意： この機能はローカルコンソールとリモートコンソールのどちらからログインしても設定できますが、適用されるのはローカルコンソールのモニタのみにになります。
Logout Timeout (ログアウトのタイムアウト)	この機能で設定した時間の間、ユーザー入力がない場合、ユーザーは自動的にログアウトされます。KVMスイッチにアクセスするには、再度ログインする必要があります。
Toolbar (ツールバー)	ポートにアクセスしているときにポートのツールバーを有効にするかどうかを選択します。 ツールバー機能はGUIコントロールパネルからも使用できるため (「コントロールパネル」 (23ページ) を参照)、ここで無効にする方がよい場合もあります。
Viewer (ビューア) *	サーバーにアクセスした際にどのビューアを使用するかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Auto Detect (自動検出)] : 使用するWebブラウザに基づいてビューアを選択します。Windows Internet ExplorerにはWinClient、他のWebブラウザ (Firefox) にはJavaクライアントが選択されます。 • [Java Client (Javaクライアント)] : 使用するWebブラウザに関係なくJavaベースのビューアを開きます。
Welcome Message (ウェルカムメッセージ) *	サブメニューバーに表示されるウェルカムメッセージを表示または非表示にします。デフォルトは[Disabled (無効)]です。
Save (保存)	[Save]をクリックすると、[User Preferences]設定で行った変更が保存されます。
Changing a Password (パスワードの変更)	ブラウザGUIでは、入力ボックスに古いパスワードと新しいパスワードを入力します。[Confirm]入力ボックスに新しいパスワードを入力し、[Change Password]をクリックして適用します。 AP GUIバージョンでは、[Change Password]をクリックします。入力ボックスに古いパスワードと新しいパスワードを入力します。[Confirm]入力ボックスに新しいパスワードを入力し、[Save]をクリックします。
* この項目はブラウザバージョンでのみ使用できます。	

セッション

ユーザー管理権限を持つAdministratorとUserは、KVMスイッチに現在ログインしているユーザーとそのセッション情報を表示できます。

注意：

- 1.ユーザー管理権限を持つユーザーのみが一般ユーザーのセッション情報を表示できます。
- 2.[Category]列は、ユーザータイプ、[SA]（Super Administrator）、[Admin]（Administrator）、または[Normal user]（User）を表示します。

[IP]列は、ユーザーがログインしたIPアドレスを表示します。

[Device]および[Port]列は、ユーザーが現在アクセスしているデバイスとポートを表示します。

[Bus ID]列は、ユーザーが現在接続しているバスを表示します（0はローカルコンソールのバスを表します）。

注意：

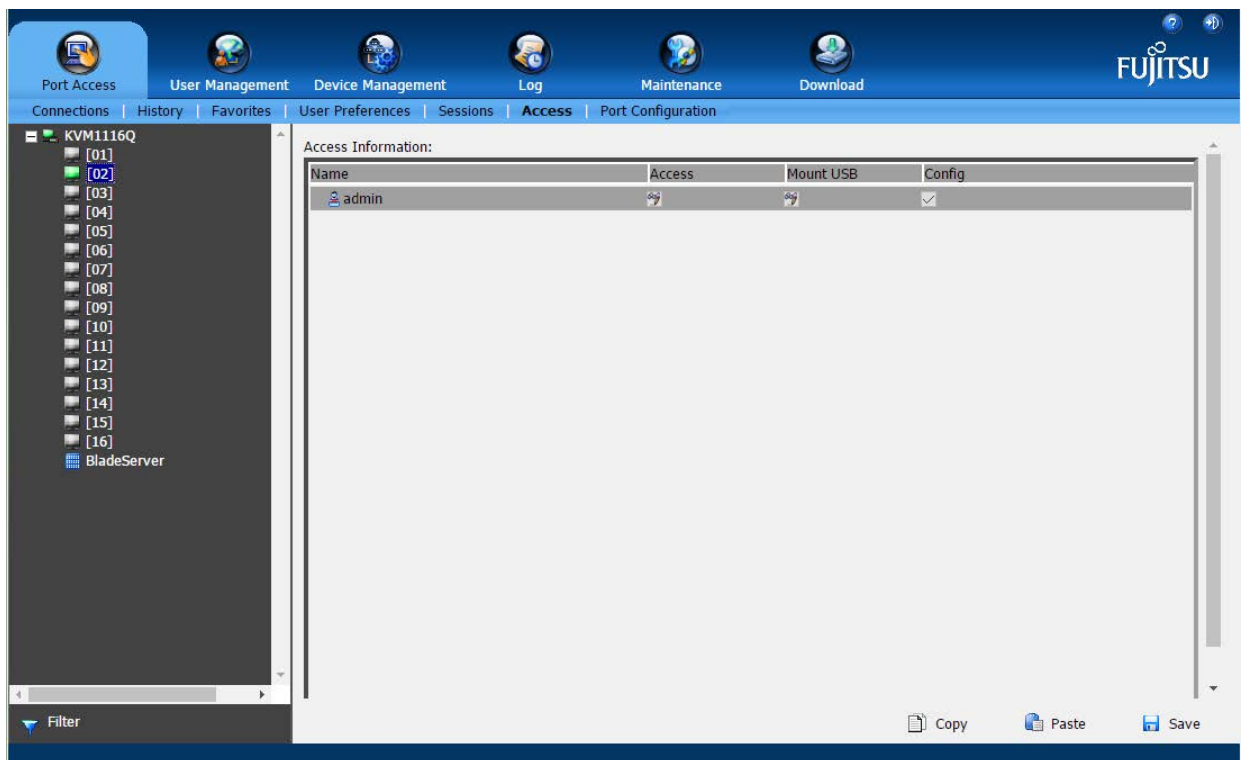
- 1.列見出しをクリックすると、表示される情報のソート順が変更されます。
- 2.Bus IDはコントロールパネルにも表示されます。

Administratorは、ユーザーを選択してメインパネルの下部にある[End Session（セッションの終了）]をクリックし、ユーザーをこのページから強制的にログアウトさせることができます。

Username	IP	Login Time	Client	Category	Devices	Ports	Bus ID
admin		2017/08/07 14:53:12	Local	SA	KVM1116Q	None	1
admin	10.181.222.193	2017/08/07 14:55:52	Browser	SA	None		

Access（アクセス）

ユーザーおよびグループのKVMスイッチとポートに対するアクセス権限および設定権限を設定します。ユーザー管理権限を持つユーザーのみが[Access]ページを表示できます。一般ユーザーはアクセスできません。



デバイスレベルでのブラウザGUIインターフェイス

メインパネルには[Name]と[Config]の2つの列があります。

- [Name]列には、作成されたすべてのユーザーとグループが表示されます。
- [Config]列は、設定権限を持つユーザーを示します。チェックマークは、そのユーザーがKVMスイッチの設定を変更する権限を持つことを示します。Xは、そのユーザーが設定を変更する権限を持たないことを意味します。アイコンをクリックすると、AdministratorsとUsersの権限が切り替わります。Super Administratorは常に設定権限を持ちます。
- メインパネルの下部にある[Copy]ボタンと[Paste]ボタンを使用して、あるポートの権限設定を他のポートに簡単に割り当てることができます。
 - 他のポートに複製する権限が設定されているポートを選択します。
 - [Copy]をクリックします。
 - 権限の複製先のポートを選択します。
 - [Paste]をクリックします。
- [Save]ボタンをクリックして変更を保存します。

ポートレベルでのブラウザGUIインターフェイス

ポートアクセス設定

設定	機能	
Name (名前)	ユーザーがアクセスできる各ポートがこの列に表示されます。	
Access (アクセス)	デバイスへのアクセス権を設定します。選択肢を表示するには、設定するユーザーに対応する行にあるアイコンをクリックします。	
	Full Access (フルアクセス)	ユーザーはリモート画面を表示でき、自分のキーボードとモニタからリモートサーバーを操作できます。
	View Only (表示のみ)	ユーザーはリモート画面の表示のみ可能です。リモートサーバーを操作することはできません。
	No Access (アクセス不可)	アクセス権はなく、ポートはメイン画面のユーザーのリストに表示されなくなります。
Mount USB (USBのマウント)	リモートサーバーにバーチャルメディアデバイスをマウントする権限を設定します。選択肢を表示するには、設定するユーザーに対応する行にあるアイコンをクリックします。アイコンは[Access]列のアイコンと同じです。 <ul style="list-style-type: none"> • Full Access (フルアクセス) : ユーザーはバーチャルメディアのマウント、読み取り、書き込みが可能です。 • View Only (表示のみ) : ユーザーはバーチャルメディアの内容を表示できます。操作することはできません。 • No Access (アクセス不可) : バーチャルメディアがリモートシステムで設定されていても、ユーザーには表示されません。 注意 : USBバーチャルメディア機能をサポートしていないスイッチでは、このエントリは表示されません。	
Config (設定)	ユーザーがポート設定を変更する権限を許可または拒否します。チェックマークは、ユーザーが権限を持つことを示します。Xはユーザーが権限を持たないことを意味します。	

デバイスレベルでのAP GUIインターフェイス

このページは、ブラウザGUIインターフェイスとほぼ同じですが、異なる点として、列の上部にユーザーとグループの範囲を広げたり制限したりするためのフィルタがあります。

フィルタ		説明
Name		ユーザー名またはグループ名をフィルタ処理するには、名前、名前の一部、または名前の一部とワイルドカードを入力し、 Enter キーを押します。名前がエントリに合致するユーザーとグループのみがリストに表示されます。ワイルドカード(1文字の場合は「?」、複数文字の場合は「*」)とキーワード「or」を使用できます。54ページの例を参照してください。
Config	All (すべて)	すべてのユーザーとグループがリストに表示されます。
	Permitted (許可)	設定権限を持つユーザーとグループのみがリストに表示されます。
	Restricted (制限)	設定権限のないユーザーとグループがリストに表示されます。

ポートレベルでのAP GUIインターフェイス

このページは、ブラウザGUIインターフェイスとほぼ同じですが、異なる点として、列の上部にユーザーとグループの範囲を広げたり制限したりするためのフィルタがあります。

設定		機能
Name		ユーザー名またはグループ名をフィルタ処理するには、名前、名前の一部、または名前の一部とワイルドカード(*)を入力し、Enterキーを押します。名前がエントリに合致するユーザーとグループのみがリストに表示されます。
Access	All (すべて)	すべてのユーザーとグループがリストに表示されます。
	Full Access (フルアクセス)	フルアクセス権を持つユーザーとグループのみがリストに表示されます。
	View Only (表示のみ)	表示のみの権限を持つユーザーとグループのみがリストに表示されます。
	No Access (アクセス不可)	アクセス権を持たないユーザーとグループのみがリストに表示されます。
Mount USB	All	すべてのユーザーとグループがリストに表示されます。
	Full Access	USBのマウントに対してフルアクセス権を持つユーザーとグループのみがリストに表示されます。
	Read Only (読み取り専用)	USBのマウントに対して読み取り専用の権限を持つユーザーとグループのみがリストに表示されます。
	No Access	USBのマウントに対して権限を持たないユーザーとグループのみがリストに表示されます。
Config	All	すべてのユーザーとグループがリストに表示されます。
	Permitted	設定権限が許可されているユーザーとグループのみがリストに表示されます。
	Restricted	設定権限が制限されているユーザーとグループのみがリストに表示されます。

変更内容の保存 ページの右下隅にある[Save]ボタンをクリックして、[Access]ページで行った変更を保存します。

Port Configuration (ポート設定)

デバイスレベル

サイドバーでサーバーを選択した場合、[Port Configuration]で利用できるのは[Port Properties]ページのみで、ここで設定できるフィールドは[Occupy Timeout]設定のみです。
[Occupy Timeout]フィールドでは、[Access Mode]が[Occupy]に設定されているポートを制御するユーザーに対して、時間のしきい値を設定します。ここで設定した時間の間、ポートを占有しているユーザーからの操作がなかった場合、ユーザーはタイムアウトし、ポートは解放されます。ポートが解放された後、最初にキーボードまたはマウス入力を送信したユーザーがポートを占有します。

0~255秒の値を入力します。デフォルトは3秒です。0を設定すると、入力がないと即座にポートが解放されます（お勧めしません）。

ポートレベル

Port Properties（ポートプロパティ）

サイドバーでポートを選択した場合、[Port Properties]ページにはポートに関連する情報が表示されます。

- [Status（ステータス）]パネル：ポートがオンラインかどうか、アダプターケーブルの種類、およびアダプターのファームウェアレベルが表示されます。
- [Properties（プロパティ）]パネル：選択したポートの設定を行います。
- [Exit Macro（終了マクロ）]パネル：ユーザーが作成したシステムマクロのリストが表示されます。リモートサーバーの終了時に実行するマクロをリストから選択します。

[Save]ボタンをクリックして変更を保存します。

Associated Links（関連付けリンク）

同じKVMスイッチの他のポートを、選択したポートと関連付けます。この機能は、1台のサーバーのKVMポートとシリアルポート（サーバーモジュールKVM-SERIALを使用）の両方をスイッチに接続する場合に使用します。

- 現在選択しているポートと別のポートを関連付けるには、[Add]をクリックします。ダイアログボックスにポートの番号を入力し、[OK]をクリックします。ポートの番号と名前がメインパネルに表示されます。
- 不要なポートの関連付けを削除するには、メインパネルでそれを選択し、[Remove]をクリックします。

User Management（ユーザー管理）

概要

[User Management]タブをクリックすると、[User Management]ページが開きます。このページは、左側にサイドバー、右側に大きいメインパネルの2つのメイン領域で構成されます。

- ページ左側のパネルに、ユーザーとグループが表示されます。右側の大きいパネルには、それぞれの詳細情報が表示されます。
 - ブラウザGUIでは、アカウント（ユーザー）とグループにそれぞれ個別のメニューバーエントリがあります。選択したメニュー項目に応じて、ユーザーとグループのどちらかがサイドバーに表示されます。
 - AP GUIにはメニューエントリはありません。ユーザーとグループはサイドバーに別々に一覧表示されます。
- ブラウザGUIでは、メインパネルの列見出しをクリックすると、表示される情報のソート順が変更されます。
- AP GUIでは、サイドバーのリストの下部に、リスト管理用のフィルタがあります。
 - リストボックスの右にある矢印をクリックして、ユーザーのみ、グループのみ、またはユーザーとグループの両方を表示するように選択できます。
 - [Active]チェックボックスにチェックを入れると、アカウントがアクティブでないユーザーは除外されます。
 - 特定の文字列に合致するユーザーまたはグループのみを選択するには、[Go]ボタンの前にあるテキストボックスに文字列を入力して[Go]をクリックします。文字列に合致するユーザーまたはグループのみがリストに表示されます。

ワイルドカード（1文字の場合は「?」、複数文字の場合は「*」）とキーワード「or」を使用できます。

例：「h*ds」は、「hands」と「hoods」を返します。
「h?nd」は、「hand」と「hind」を返しますが、「hard」は返しません。
「h*ds or h*ks」は、「hands」と「hooks」を返します。

- メインパネルの下側にあるボタンは、ユーザーとグループを管理する際に使用します。

ユーザー

KVMスイッチでは、3つのユーザータイプを提供しています。

ユーザータイプ	役割
Super Administrator	ポートおよびサーバーにアクセスし、管理します。ユーザーおよびグループを管理します。構成全体の設定を行います。個人の作業環境を設定します。
Administrator	権限を持つポートおよびサーバーにアクセスし、管理します。ユーザーおよびグループを管理します。個人の作業環境を設定します。
User	権限を持つポートおよびサーバーにアクセスします。権限を持つポートおよびサーバーの管理、個人の作業環境の設定を行います。 注意： 権限を持つユーザーであれば、他のユーザーを管理することもできます。

ユーザーの作成

1. メニューバー（ブラウザGUI）またはサイドバー（AP GUI）で、[Users]を選択します。
2. メインパネルの下部にある[Add]をクリックします。ユーザーノートが開き、[User]タブが選択されています。
3. フィールドに必要な情報を入力します。

フィールド	説明
Username（ユーザ名）	[Account Policy（アカウントポリシー）]設定に応じて、1～20文字を入力できます。「Account Policy（アカウントポリシー）」（73ページ）を参照してください。
Password（パスワード）	[Account Policy]設定に応じて、0～20文字を入力できます。「Account Policy（アカウントポリシー）」（73ページ）を参照してください。
Confirm Password（パスワードの確認）	再度パスワードを入力し、それが正しいことを確認します。2つの入力が一致している必要があります。
Description（説明）	ユーザーに関する追加情報があれば、ここに入力します。
Role（役割）	<p>3つのカテゴリ、Super Administrator、Administrator、Userがあります。各カテゴリで作成されるアカウント数に制限はありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Super Administratorは、全体的な構成設定とメンテナンス、ユーザー管理、およびサーバーとポートの割り当ての責任を担います。Super Administratorの権限はシステムで割り当てられており、変更できません。 • Administratorの権限には、デフォルトで[Force to Grayscale]以外のすべてが含まれます。[Permissions]チェックボックスにチェックを入れるかどうかで、Administratorごとに権限を変更できます。 • Userの権限には、デフォルトで[Windows Client]、[Java Client]、[SSH Client]が含まれます。[Permissions（権限）]チェックボックスにチェックを入れるかどうかで、Userごとに権限を変更できます。 <p>注意： [User Management]権限を持つUserでも、グループへのアクセスや設定はできません。</p>
Permissions（権限） 注意： 一般ユーザーの場合、[Device Management]、[Port Configuration]、[Maintenance]の各権限に加えて、そのユーザーが管理を許可される各サーバーおよびポートに対するこれらの権限を持つ必要があります。詳細は「デバイスの割り当て」（60ページ）を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> • [Device Management]にチェックを入れると、ユーザーはKVMスイッチ操作全体に関する設定や制御が許可されます（「Device Management（デバイス管理）」（63ページ）を参照）。 • [Port Configuration]にチェックを入れると、ユーザーは個々のポートの設定や制御が許可されます（「Port Configuration（ポート設定）」（52ページ）を参照）。 • [User Management]にチェックを入れると、ユーザーはユーザーおよびグループアカウントの作成、変更、削除を許可されます。 • [Maintenance]にチェックを入れると、ユーザーは[Maintenance]タブで利用できるすべての保守操作の実行を許可されます（「Maintenance（メンテナンス）」（87ページ）を参照）。 • [System Log]にチェックを入れると、ユーザーはシステムログへのアクセスを許可されます（「ログ」（85ページ）を参照）。 • [View Only]にチェックを入れるとユーザーは接続されたサーバー画面の表示のみに制限されます。 • [Windows Client]にチェックを入れると、ユーザーは、ブラウザによるアクセス方法に加えて（またはその代わりに）、WindowsクライアントAPソフトウェアをダウンロードして、それを使用してKVMスイッチにアクセスすることを許可されます。 • [Java Client]にチェックを入れると、ユーザーは、ブラウザによるアクセス方法に加えて（またはその代わりに）、JavaクライアントAPソフトウェアをダウンロードして、それを使用してKVMスイッチにアクセスすることを許可されます。 • [SSH Client]にチェックを入れると、ユーザーはSSHセッションからKVMスイッチにアクセスすることを許可されます。 • [Telnet Client]にチェックを入れると、ユーザーはTelnetセッションからKVMスイッチへのアクセスを許可されます。 • [Force to Grayscale]にチェックを入れると、ユーザーのリモート画面表示が強制的にグレースケールになります。これにより、低帯域幅の環境でのI/O転送速度をを向上させることができます。

フィールド	説明
Status（ステータス）	<p>ユーザーのアカウントと構成へのアクセスを制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disable Account（アカウントの無効化）]は、ユーザーのアカウントを削除するのではなく、停止します。 • アカウントに有効期限を設定しない場合は、[Account never expires（アカウントを無期限にする）]を選択します。アカウントの有効期限を設定する場合は、[Account expires on（アカウントの有効期限）]を選択して、有効期限の日付を入力します。 • [User must change password at next login（ユーザーは次回ログイン時にパスワード変更が必要）]を選択します。管理者は一時的な初回ログインパスワードを設定でき、ユーザーはその後のログインで自分のパスワードを設定できます。 • パスワードを変更不可にするには、[User cannot change password（ユーザーはパスワードを変更できない）]を選択します。 • [Password never expires（パスワードを無期限にする）]を選択すると、ユーザーはパスワードを無期限にすることができます。 [Password expires after（パスワードの有効期限）]を選択し、パスワードの有効期限が切れて新しいパスワードの設定を強制する日数を入力します。

1. [Groups]タブを選択して、新しいユーザーをグループに割り当てます。[Devices]ページ（63ページ）でユーザーのポートアクセス権を割り当てることができます。
注意：この手順はここでは行わず、ユーザーをさらに追加してからグループを作成することもできます。
2. 選択が完了したら、[Save]をクリックします。
3. [Operation Succeeded（処理成功）]メッセージが表示されたら、[OK]をクリックします。
4. サイドバーの[Users]をクリックしてメイン画面に戻ります。新しいユーザーがサイドバーのリストとメインパネルに表示されます。

サイドバーのユーザーリストは、展開と折り畳みが可能です。[Users]アイコンの横にあるマイナス記号「-」をクリックすると折り畳まれます。プラス記号「+」をクリックすると展開されます。

Super Administratorのアイコンには2本の黒い帯が付きます。Administratorのアイコンには1本の赤い帯が付きます。

大きいメインパネルには、ユーザーの名前、説明、およびそのアカウントが現在アクティブかどうかが表示されます。

ユーザーアカウントの変更

1. サイドバーのユーザーリストでユーザー名をクリックするか、メインパネルでユーザー名を選択します。
2. [Modify]をクリックしてダイアログボックスを開きます。
3. 変更を行い、[Save]をクリックします。

ユーザーアカウントの削除

1. メインパネルで、ユーザー名を選択します。
2. [Delete]をクリックします。
3. [OK]をクリックします。

グループ

サーバーアクセス権はグループのすべてのメンバーに適用されます。管理者はアクセス権をグループに一度設定するだけで、各ユーザーに個別に設定する必要はありません。複数のグループを使用して、一部のユーザーに特定のサーバーへのアクセスを許可したり、また別のユーザーに対して制限したりすることができます。

グループの作成

1. メニューバー（ブラウザGUI）またはサイドバー（AP GUI）で[Groups]を選択します。
2. メインパネルの下部にある[Add]をクリックすると、グループノートが開き、[Group]タブが選択されています。
3. フィールドに必要な情報を入力します。

フィールド	説明
Group Name (グループ名)	最大16文字を使用できます。
Description (説明)	ユーザーに関する追加情報です。最大63文字を使用できます。
Permissions (権限)	ボックスにチェックを入れて、グループに対して権限を設定または制限します。ここで指定する権限は[Users]タブで指定するものと同じです。詳細は54ページを参照してください。

4. [Members]タブを選択してユーザーをグループに割り当てることができます。[Members]ページについては、59ページを参照してください。また、[Devices]タブ（60ページ）を選択して、グループのポートアクセス権を割り当てることもできます。
注意：この手順はここで行わず、グループをさらに追加してから戻ってユーザーを割り当てることもできます。
5. 終了したら[Save]をクリックします。
6. [Operation Succeeded (処理成功)]メッセージが表示されたら、[OK]をクリックします。
7. サイドバーの[Group]をクリックしてメイン画面に戻ります。新しいグループがサイドバーのグループリストとメインパネルに表示されます。
 - サイドバーのグループリストは、展開と折り畳みが可能です。
 - 大きいメインパネルには、グループの名前と説明が表示されます（[Status]列は無効）。
注意：別のグループを追加する前に、必ず手順7を実行してください。そうしないと、作成したばかりのグループが新しいグループに置き換わってしまいます。

グループの変更

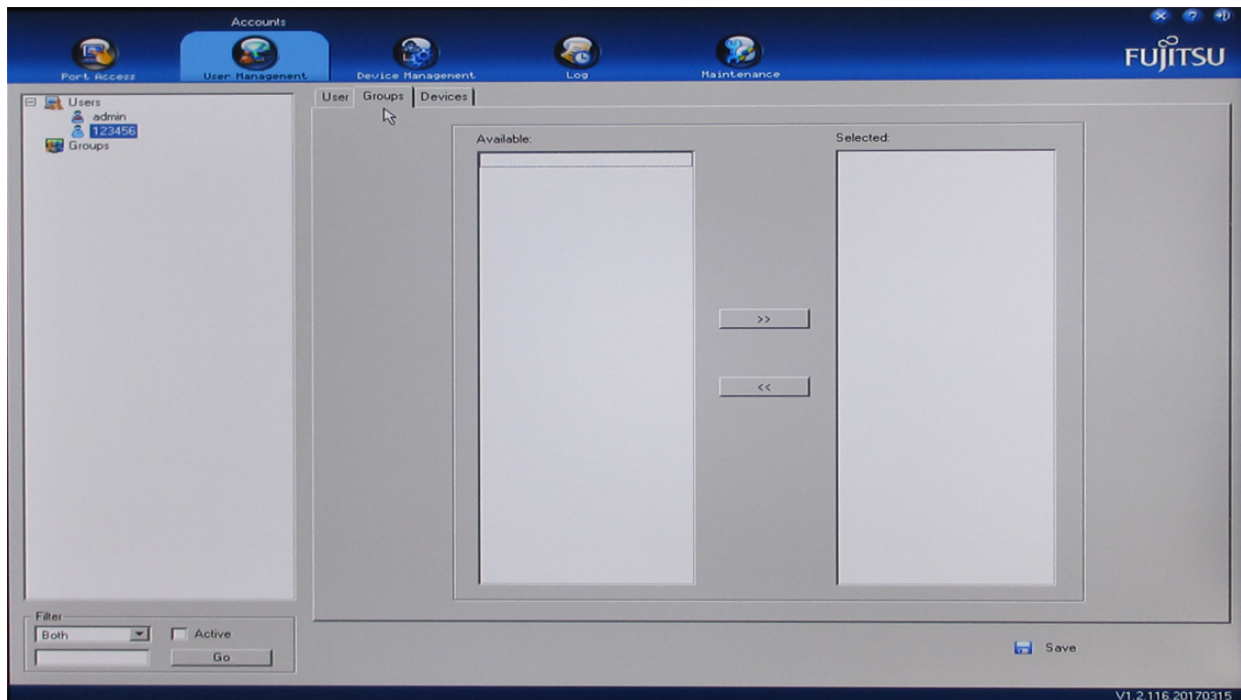
1. サイドバーのグループリストでグループ名をクリックするか、メインパネルでグループ名を選択します。
2. [Modify]をクリックします。
3. グループノートで変更を行い、[Save]をクリックします。

グループの削除

1. サイドバーで、[Groups]アイコンをクリックします。
2. メインパネルで、グループ名を選択します。
3. [Delete]をクリックします。
4. [OK]をクリックします。

ユーザーとグループ

ユーザーとグループの管理は、ユーザーノートとグループノートから行います。



注意：ユーザーをグループに割り当てる前に、まずユーザーを作成する必要があります。詳細は「ユーザーの作成」（55ページ）を参照してください。

ユーザーのノートでユーザーをグループに割り当て

1. サイドバーのユーザーリストでユーザー名をクリックするか、メインパネルでユーザー名を選択します。
2. **[Modify]**をクリックします。
3. ユーザーノートで[Groups]タブを選択します。
4. [Available]列で、グループを選択します。
5. 右矢印をクリックして、グループ名を[Selected]列に移動させます。
6. ユーザーが参加する他のすべてのグループに対して、上記の手順を繰り返します。
7. **[Save]**をクリックして終了します。

注意：ユーザーがグループに割り当てられた権限以外の権限を持つ場合、グループの権限に加えて、それらの権限も保持されます。

ユーザーのノートでユーザーをグループから削除

1. サイドバーのユーザーリストでユーザー名をクリックするか、メインパネルでユーザー名を選択します。
2. **[Modify]**をクリックします。
3. ユーザーノートが開いたら、**[Groups]**タブを選択します。
4. **[Selected]**列で、ユーザーを削除するグループを選択します。
5. **左矢印**をクリックして、グループ名を**[Selected]**列から削除します（グループ名は**[Available]**列に戻ります）。
6. ユーザーを削除する他のすべてのグループに対して、上記の手順を繰り返します。
7. **[Save]**をクリックして終了します。

グループのノートでユーザーをグループに割り当て

1. サイドバーのグループリストでグループ名をクリックするか、メインパネルでグループ名を選択します。
2. **[Modify]**をクリックします。
3. 開いたグループノートで、**[Members]**タブを選択します。
4. **[Available]**列で、グループに追加するユーザーを選択します。
5. **右矢印**をクリックして、ユーザー名を**[Selected]**列に移動させます。
6. グループに追加する他のすべてのユーザーに対して、上記の手順を繰り返します。
7. 終了したら**[Save]**をクリックします。
注意：ユーザーがグループに割り当てられた権限以外の権限を持つ場合、グループの権限に加えて、それらの権限も保持されます。

グループのノートでユーザーをグループから削除

1. サイドバーのグループリストでグループ名をクリックするか、メインパネルでグループ名を選択します。
2. **[Modify]**をクリックします。
3. 開いたグループノートで、**[Members]**タブを選択して画面を開きます。
4. **[Selected]**列で、グループから削除するユーザーを選択します。
5. **左矢印**をクリックして、ユーザー名を**[Selected]**列から削除します（ユーザー名は**[Available]**列に戻ります）。
6. グループから削除する他のすべてのユーザーに対して、上記の手順を繰り返します。
7. 終了したら**[Save]**をクリックします。

デバイスの割り当て

ユーザーがKVMスイッチにログインすると、[Port Access]ページが開きます。ユーザーがアクセスを許可されているすべてのポートが、ページ左側のサイドバーに一覧表示されます。これらのポートと、これらに接続されているサーバーに対するアクセス権限は、[User Management]ページのサイドバーに表示されるユーザーリストまたはグループリストからポートごとに割り当てられます。




ユーザーのノートでデバイス権限を割り当て

1. サイドバーのユーザーリストでユーザー名をクリックするか、メインパネルでユーザー名を選択します。
2. **[Modify]**をクリックしてユーザーノートを開きます。
3. **[Devices]**タブを選択してページを開きます。



4. このページの列で各ポートの権限設定を行います。

- **Name** : ユーザーがアクセスできる各ポートがこの列に表示されます。
- **Access** : サーバーアクセスを設定します。設定するポートの行にあるアイコンをクリックすると、選択肢が表示されます。

アイコン	名前	説明
	Full Access (フルアクセス)	ユーザーはリモート画面を表示でき、自分のキーボードとモニタからリモートサーバーを操作できます。
	View Only (表示のみ)	ユーザーはリモート画面の表示のみ可能で、操作することはできません。
	No Access (アクセス不可)	アクセス権はなく、ポートはメイン画面のユーザーのリストに表示されなくなります。

- **USB** : USBバーチャルメディアデバイスが表示されます (USBバーチャルメディア機能をサポートしていないスイッチには表示されません)。設定するポートの行にあるアイコンをクリックすると、選択肢が表示されます。
 - Full Access (フルアクセス) : ユーザーはバーチャルメディアのマウント、読み取り、書き込みが可能です。
 - View Only (表示のみ) : ユーザーは、すでにマウントされたバーチャルメディアのデータのみを読み取ることができます。
- **Config** : ポートの設定を変更するユーザー権限を許可または制限します。設定するポートの行にあるアイコンをクリックすると、選択肢が表示されます。
 - チェックマークは、そのユーザーがポートの設定を変更する権限を持つことを示します。
 - Xは、そのユーザーが設定を変更する権限を持たないことを意味します。

5. 終了したら**[Save]**をクリックします。**[OK]**をクリックして確定します。

注意 : 複数のポートを選択して設定するには、ShiftキーまたはCtrlキーを押しながら任意の列をクリックします。選択したポートのいずれかで選択肢を表示するアイコンをクリックすると、すべてのポートでアイコンが同期して切り替わります。

フィルタ列の上部にある5つのフィルタを使用して、[Name]列に表示されるポートの範囲を広げたり制限したりすることができます。

フィルタ		説明
Name		ポート名をフィルタ処理するには、名前を入力してENTERキーを押します。名前がエントリに合致するポートのみがリストに表示されます。 ワイルドカード（1文字の場合は「?」、複数文字の場合は「*」）とキーワード「or」を使用できます。66ページの例を参照してください。
Access	All（すべて）	すべてのポートがリストに表示されます。
	Full Access（フルアクセス）	フルアクセスのポートとして設定されているポートのみがリストに表示されます。
	View Only（表示のみ）	表示のみのポートとして設定されているポートのみがリストに表示されます。
	No Access（アクセス不可）	アクセス不可のポートとして設定されているポートのみがリストに表示されます。
USB	All（すべて）	すべてのポートがリストに表示されます。
	Full Access（フルアクセス）	フルアクセスのUSBポートとして設定されているポートのみがリストに表示されます。
	Read Only（読み取り専用）	読み取り専用のUSBポートとして設定されているポートのみがリストに表示されます。
	No Access（アクセス不可）	アクセス不可のUSBポートとして設定されているポートのみがリストに表示されます。
Config	All（すべて）	すべてのポートがリストに表示されます。
	Permitted（許可）	許可されたポートとして設定されているポートのみがリストに表示されます。
	Restricted（制限）	制限されたポートとして設定されているポートのみがリストに表示されます。

グループのノートでデバイス権限を割り当て

1. サイドバーのグループリストでグループ名をクリックするか、メインパネルでグループ名を選択します。
2. **[Modify]**をクリックしてグループノートを開きます。
3. **[Devices]**タブを選択すると、ユーザーのノートと同じような画面が開きます。ただし、ここでの設定は1人のユーザーだけでなく、すべてのグループメンバーに適用されます。「ユーザーのノートでデバイス権限を割り当て」（60ページ）に記載された情報に従って、サーバーの割り当てを行います。

Device Management（デバイス管理）

デバイス情報

[Device Management]ページは、サイドバーで最上位（親）のKVMスイッチが選択され、メニューバーで[Device Information]が選択された状態で開きます。

全般

[Device Information]ページの[General]セクションには、選択したサーバーの名前、そのファームウェアバージョン、およびそのネットワーク設定に関する情報が表示されます。

注意：AP GUIバージョンには、ブラウザバージョンと同じ情報が表示されます。リストをスクロールして、他のエントリを確認してください。

Operating Mode（操作モード）

作業パラメータを設定するには、[Operating Mode]ページを使用します。

- Force all to grayscale（すべてをグレースケールに強制する）：KVMスイッチに接続されているすべてのサーバーのリモート画面をグレースケールに変更します。これにより、低帯域幅の環境でのI/O転送速度を向上させることができます。
- Enable Device List（デバイスリストを有効にする）：KVMスイッチがWinClientまたはJavaクライアントAPのサーバーリストに表示されるようにします。詳細は、「WindowsクライアントAPによるログイン」（19ページ）および「JavaクライアントAPによるログイン」（20ページ）を参照してください。このオプションを無効にした場合、KVMスイッチに接続することはできますが、[Server List]に表示されなくなります。
- Enable First Rider Transfer（最初のユーザーの転送を有効にする）：有効にすると、バスの最初のユーザーのみがポートを切り替えることができます。バス上の他のユーザーは、アクセスしたいポートに別のバスがすでに接続されているか、利用可能な空きバスがある場合以外、ポートを切り替えることはできません。
- Keyboard/Mouse Broadcast（キーボード/マウスのブロードキャスト）：ドロップダウンリストから設定を選択します。
 - Keyboard Broadcast（キーボードのブロードキャスト）：有効にすると、サイドバーに表示されている現在接続されているすべてのサーバーに対して、同じキー操作の信号が送信されます。
 - Mouse Broadcast（マウスのブロードキャスト）：有効にすると、サイドバーに表示されている現在接続されているすべてのサーバーに対して、同じマウスの動きやクリックの信号が送信されます。**注意：**
 - 1.親、つまり最上位のKVMスイッチからカスケード接続された子KVMスイッチでは、一度に1つのポートのみが、キーボード/マウスのブロードキャストを実行できます。
 - 2.マウスのブロードキャストの場合、すべてのサーバーが同じOSを実行しており、モニターが同じ解像度で、画面が同じレイアウトである必要があります。
- Console Keyboard Language（コンソールキーボード言語）：ドロップダウンリストから、ローカルコンソールのキーボードで使用するキーボードマッピングを指定します。

Network（ネットワーク）

IP Installer（IPインストーラ）

IP Installerユーティリティに対して、[Enable（有効）]、[View Only（表示のみ）]、[Disable（無効）]のいずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

設定後、装置を再起動することで設定が反映されます。

装置の再起動については「Reset on exit（終了時にリセット）」（91ページ）を参照

注意：IP Installerユーティリティは本製品ではサポートされておりません。

デフォルト（[View Only]）または[Disable]に設定することをお勧めします。

Service Ports (サービスポート)セキュリティのためにファイアウォールが使用されている場合、Administratorはファイアウォールが許可するポート番号を指定できます。デフォルト以外のポートが使用されている場合、ユーザーはログイン時にIPアドレスの一部としてポート番号を指定する必要があります。無効なポート番号が指定された場合やポート番号が指定されていない場合、KVMスイッチは検索されません。

フィールド	説明
Program (プログラム)	これは、WinClientActiveXビューア、WinClientAP、Javaアプレットビューア、JavaクライアントAPと、またはバーチャルメディアを介して接続するためのポート番号です。デフォルトは9000です。
HTTP	ブラウザログイン用のポート番号です。デフォルトは80です。
HTTP	セキュリティで保護されたブラウザログイン用のポート番号です。デフォルトは443です。
SSH	SSHアクセス用のポートです。デフォルトは22です。
Telnet	Telnetアクセス用のポートです。デフォルトは23です。

注意：

- 1.すべてのサービスポートで有効なエントリは、1～65535です。
- 2.サービスポートは同じ値にすることはできません。各ポートに異なる値を設定してください。
- 3.ファイアウォールがない場合（たとえば、インターネット上など）、これらの番号は無効です。

IPv4 Settings (IPv4設定)

IP Address (IPアドレス) :

IPv4は、IPアドレスを指定する従来の方法です。KVMスイッチは、IPアドレスを動的に割り当てるか (DHCP)、固定IPアドレスを割り当てることができます。

- 動的IPアドレスを割り当てる場合は、**[Obtain IP address automatically (IPアドレスを自動的に取得する)]**ラジオボタンを選択します (これがデフォルト設定です)。
- 固定IPアドレスを指定するには、**[Set IP address manually (IPアドレスを手動で設定する)]**ラジオボタンを選択し、ネットワークに適切な値をフィールドに入力します。

注意 :

- 1.[Obtain IP address automatically]を選択した場合、KVMスイッチは起動後、DHCPサーバーからのIPアドレスの取得を待機します。1分経過してもアドレスを取得していない場合、工場出荷時のデフォルトのIPアドレス (192.168.0.60) に自動的に戻ります。
- 2.DHCPを使用してネットワークアドレスを割り当てるネットワーク上にKVMスイッチがあり、IPアドレスを確認する必要がある場合は、「IPアドレスの決定」 (97ページ) を参照してください。

DNS Server (DNSサーバー)

- DNSサーバーアドレスを自動で割り当てるには、**[Obtain DNS Server address automatically (DNSサーバーアドレスを自動で取得する)]**ラジオボタンを選択します。
- DNSサーバーアドレスを手動で指定するには、**[Set DNS server address manually (DNSサーバーアドレスを手動で設定する)]**ラジオボタンを選択し、[Preferred DNS server (優先DNSサーバー)]と[Alternate DNS server (代替DNSサーバー)]のアドレスに、ネットワークに適した値を入力します。

注意 : 代替DNSサーバーアドレスの指定はオプションです。

IPv6 Settings (IPv6設定)

IP Address (IPアドレス) :

IPv6は、IPアドレスを設定する新しい (128ビット) フォーマットです (詳細は「IPv6」 (98ページ) を参照してください)。KVMスイッチは、IPv6アドレスを動的に割り当てるか (DHCP)、固定IPアドレスを割り当てることができます。

- 動的IPアドレスを割り当てる場合は、**[Obtain IP address automatically (IPアドレスを自動的に取得する)]**ラジオボタンを選択します (デフォルト設定)。
- 固定IPアドレスを指定するには、**[Set IP address manually (IPアドレスを手動で設定する)]**ラジオボタンを選択し、ネットワークに適切な値をフィールドに入力します。

DNS Server (DNSサーバー)

- DNSサーバーアドレスを自動で割り当てるには、**[Obtain DNS Server address automatically (DNSサーバーアドレスを自動で取得する)]**ラジオボタンを選択します。
- DNSサーバーアドレスを手動で指定するには、**[Set DNS server address manually (DNSサーバーアドレスを手動で設定する)]**ラジオボタンを選択し、[Preferred DNS server (優先DNSサーバー)]と[Alternate DNS server (代替DNSサーバー)]のアドレスに、ネットワークに適した値を入力します。

注意 : 代替DNSサーバーアドレスの指定はオプションです。

Network Transfer Rate（ネットワーク転送率）

この設定により、KVMスイッチがクライアントコンピュータとの間でデータを転送する速度を設定することで、ネットワークのトラフィック状況に応じてデータ転送量を調節できます。範囲は4～99999KBpsです。

ANMS

外部ソースからのログイン認証と権限管理をセットアップするには、ANMS（Advanced Network Management Settings：ネットワーク管理の詳細設定）を使用します。これは2つのタブがあるノートとして構成されており、各タブに一連の関連するパネルがあります。

Event Destination（イベントの宛先）

SMTP Settings（SMTP設定）

KVMスイッチでSMTPサーバーからのレポートをユーザーに電子メール送信するには、以下の手順を実行します。

1. **[Enable report from the following SMTP server（以下のSMTPサーバーからのレポートを有効にする）]**を有効にし、SMTPサーバーのIPv4アドレス、IPv6アドレス、またはドメイン名を入力します。
2. サーバーでSSL接続が必要な場合は、**[My server requires secure connection (SSL)（サーバーはセキュアな接続（SSL）が必要）]**チェックボックスにチェックを入れます。
3. サーバーで認証が必要な場合は、**[My server requires authentication（サーバーは認証が必要）]**チェックボックスにチェックを入れて、[Account Name]と[Password]のフィールドにアカウント情報を入力します。
4. レポートの送信元となる電子メールアドレスを**[From]**フィールドに入力します。**[From]**フィールドには電子メールアドレスを1つのみ入力してください。アドレスは64バイト以内で設定してください。
5. SMTPレポートの送信先となる電子メールアドレスを、**[To]**フィールドに入力します。
注意：複数のメールアドレスにレポートを送信する場合は、アドレスをセミコロンで区切って入力してください。アドレス全体で256バイト以内になるように設定してください。

ログサーバー

ログインなど、KVMスイッチで発生した重要な処理や内部ステータスメッセージは、自動生成されたログファイルに保存されます。ログサーバーのセットアップについては、「ログ」（85ページ）を参照してください。

- MACアドレスフィールドで、ログサーバーを実行しているコンピュータのMACアドレスを指定します。
- ログサーバーを実行しているコンピュータが、ログの詳細をリッスンするために使用するポートを、[Port]フィールドで指定します。有効なポート範囲は1～65535です。デフォルトのポート番号は9001です。
注意：ポート番号は、プログラムポートに使用されるポート番号とは別のものを使用する必要があります。

SNMP Agent (SNMPエージェント)

SNMPトラップイベントの通知を受ける場合は、以下の手順を実行します。

1. **[Enable SNMP Agent (SNMPエージェントを有効にする)]**にチェックを入れます。
2. 通知を受けるコンピュータのIPv4アドレス、IPv6アドレス、またはドメインを入力します。
3. ポート番号を入力します。有効なポート範囲は1~65535です。
注意：SNMPトラップイベントの通知を受けるログは、[Log]タブの[Notification Settings (通知設定)]ページで設定されます。詳細は「Log Notification Settings (ログ通知設定)」(86ページ)を参照してください。

Syslog Server (システムログサーバー)

KVMスイッチで発生したすべてのイベントを記録し、システムログサーバーに書き込むには、以下の手順を実行します。

1. **[Enable]**にチェックを入れます。
2. システムログサーバーのIPv4アドレス、IPv6アドレス、またはドメイン名を入力します。
3. ポート番号を入力します。有効なポート範囲は1~65535です。

認証

Disable Device Authentication (デバイス認証を無効にする)

このオプションを選択すると、KVMスイッチでのログイン認証が無効になります。KVMスイッチには、LDAP、LDAPS、MS Active Directory、RADIUS、またはKVM Access Management Server認証を使用してのみアクセスできます。

RADIUS Settings (RADIUS設定)

KVMスイッチの認証と権限設定をRADIUSサーバー経由で行えるようにするには、以下の手順を実行します。

1. **[Enable]**にチェックを入れます。
2. 優先RADIUSサーバーと代替RADIUSサーバーのIPアドレスとサービスポート番号を入力します。IPフィールドにはIPv4アドレス、IPv6アドレス、またはドメイン名を入力します。
3. [Timeout (タイムアウト)]フィールドで、KVMスイッチがRADIUSサーバーの応答を待機する最大時間(秒)を設定します。
4. [Retries (再試行)]フィールドで、RADIUSの再試行可能回数を設定します。
5. [Shared Secret (共有シークレット)]フィールドに、KVMスイッチとRADIUSサーバー間の認証に使用する文字列を入力します。最低6文字以上が必要です。
6. RADIUSサーバーでは、以下のいずれかの方法でユーザー認証を行うことができます。
 - ユーザーのエントリを「su/xxxx」として設定する (xxxxは、KVMスイッチでアカウントを作成したときにユーザーに与えられたユーザー名を表します)。
 - RADIUSサーバーとKVMスイッチの両方で同じユーザー名を使用する。
 - RADIUSサーバーとKVMスイッチで同じグループ名を使用する。
 - RADIUSサーバーとKVMスイッチで同じユーザー名/グループを使用する。

ユーザーのアクセス権限は、KVMスイッチでグループのユーザーが作成されたときに割り当てられたのと同じ権限が割り当てられます。「ユーザーの作成」(55ページ)を参照してください。

AD/LDAP設定

KVMスイッチの認証と権限設定をLDAP/LDAPS経由で行えるようにするには、以下の設定を行います。

項目	アクション
Enable	LDAP/LDAPSによる認証と権限設定を可能にするには、[Enable]チェックボックスにチェックを入れます。
Type	優先LDAP/代替LDAPをリストから選択します。
LDAPサーバーのIPとポート	LDAPまたはLDAPSサーバーのIPアドレスとポート番号を入力します。 • [LDAP Server]フィールドには、IPv4アドレス、IPv6アドレス、またはドメイン名を入力します。 • LDAPのデフォルトポート番号は389で、LDAPSのデフォルトポート番号は636です。
Admin DN (管理者DN)	このフィールドの適切な入力値については、LDAP/LDAPSの管理者にご確認ください。 たとえば、以下のような値を入力します。 ou=kn4132,dc=aten,dc=com
Admin Name (管理者の名前)	LDAP管理者のユーザー名を入力します。
Password (パスワード)	LDAP管理者のパスワードを入力します。
Search DN (検索DN)	検索ベースの識別名を設定します。これはユーザー名の検索を開始するドメイン名です。
Timeout (タイムアウト)	KVMスイッチがLDAPまたはLDAPSサーバーの応答を待機する最大時間（秒）を設定します。
Same as preferred setting	Preferred RADISU/LDAPおよびAlternate RADIUS/LDAPの設定を同じにしたい場合はチェックを入れてください。

LDAP/LDAPSサーバーでは、以下のいずれかの方法でユーザー認証を行うことができます。

- MS Active Directoryスキーマを使用する。
注意：この方法を使用する場合、MS Active DirectoryのLDAPスキーマを拡張する必要があります。
- スキーマを使用せずに、LDAP/LDAPSサーバー上の名前のみをKVMスイッチで使用されているユーザー名に一致させる。ユーザー権限はKVMスイッチで設定されているものと同じ。
- スキーマを使用せずに、ADのグループのみを一致させる。ユーザー権限は、KVMスイッチでユーザーが属するグループに対して設定されているものと同じ。
- スキーマを使用せずに、ADのユーザー名とグループ名を一致させる。ユーザー権限は、KVMスイッチのKVM Accessサーバー設定でユーザーとユーザーが属するグループに設定されているものと同じ。

KVMスイッチの権限設定をKVM Accessサーバー経由で行えるようにするには、**[Enable]**にチェックを入れて、サーバーのIPアドレスとサーバーポートを該当するフィールドに入力します。Server IPフィールドには、IPv4アドレス、IPv6アドレス、またはドメイン名を使用できます。

注意：この機能を有効にした場合、KVMスイッチでブレードサーバーが設定されていたとしても、サイドバーには表示されません。これらのデバイスはサーバーで管理されているためです。

Enable Dial Out（ダイヤルアウトを有効にする）ダイヤルアウト機能を使用するには、インターネットサービスプロバイダでアカウントを取得し、モデムを使用してISPアカウントにダイヤルアップします。

項目	アクション
ISP Settings（ISP設定）	ISPに接続するために使用する電話番号、アカウント名（ユーザー名）、およびパスワードを指定します。
Dial Out Schedule（ダイヤルアウトスケジュール）	<p>ISP接続でKVMスイッチがダイヤルアウトする回数を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Every（繰り返し）]：1～4時間ごとに定時に実行するように設定します。 例： [Every two hours（2時間ごと）]を選択すると、KVMスイッチは00:00から2時間ごとにダイヤルアウトします。 KVMスイッチに固定スケジュールでダイヤルアウトさせたくない場合は、リストから[Never（なし）]を選択します。 • [Daily at（毎日）]を選択すると、1日に1回指定された時刻にダイヤルアウトします。時刻形式「hh:mm」を使用します。 • [PPP online time（PPPオンライン時間）]は、セッションを終了してモデムを切断するまでの、ISP接続を持続する時間を指定します。0を設定すると、常にオンラインになります。
Emergency Dial Out（緊急ダイヤルアウト）	<p>KVMスイッチがネットワークから切断されたか、ネットワークがダウンした場合、この機能は、ISPのダイヤルアップ接続でスイッチをオンラインにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [PPP stays online until network recovery（ネットワーク回復までPPPがオンラインを持続する）]を選択すると、ネットワークが復旧するかスイッチが再接続できるようになるまで、ISPへのPPP接続が持続します。 • [PPP online time（PPPオンライン時間）]を選択すると、ここで指定した時間後にISPへの接続が終了します。0を設定すると、常にオンラインになります。
Dial Out Mail Configuration（ダイヤルアウトメール設定）	<p>KVMスイッチのポートに接続されたデバイスで発生した問題を通知するメールを受信します（「SMTP Settings（SMTP設定）」（67ページ）を参照）。 注意：このメール通知は、SMTP設定で設定したものとは異なります。これは社内のメールサーバーではなく、ISPメールサーバーを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [SMTP Server IP Address（SMTPサーバー IPアドレス）]フィールドにSMTPサーバーのIPv4アドレス、IPv6アドレス、またはドメイン名を入力します。 • SMTPサーバーの責任者（または責任を担う別の管理者）のメールアドレスを[Email From（メール送信者）]フィールドに入力します。 • レポートを送信するメールアドレスを[To（送信先）]フィールドに入力します。複数のメールアドレスに送信する場合は、カンマまたはセミコロンでアドレスを区切って入力します。 • サーバーがセキュアSSL接続を必要とする場合は、[SMTP server requires secure connection(SSL)（SMTPサーバーはセキュアな接続（SSL）が必要）]チェックボックスにチェックを入れます。 • サーバーが認証を必要とする場合、[SMTP server requires authentication（MTPサーバーは認証が必要）]チェックボックスにチェックを入れ、フィールドにアカウント名とパスワードを入力します。

終了したら**[Save]**をクリックします。

セキュリティ

Login Failures（ログイン失敗）

セキュリティを強化するために、管理者はユーザーのログイン失敗を処理するポリシーを設定することができます。[Enable（有効にする）]チェックボックスにチェックを入れます（デフォルトでは無効になっています）。

項目	説明
Allowed（許容）	リモートコンピュータからのログイン試行で許容される連続失敗回数を設定します。デフォルトでは無効になっています。
Timeout（タイムアウト）	許容失敗回数を超えた後、再度ログインを試行できるようになるまでの待機時間を設定します。デフォルトでは無効になっています。
Lock Client PC（クライアントPCのロック）	有効にすると、許容失敗回数を超えた後、ログインを試行したコンピュータはロックアウトされます。このコンピュータからのログインは拒否されます。デフォルトでは無効になっています。 注意： クライアントコンピュータのIPが変更されると、そのコンピュータはロックアウトされなくなります。
Lock Account（アカウントのロック）	有効にすると、許容失敗回数を超えた後、ログインを試行したユーザーは自動的にロックアウトされます。失敗したユーザー名とパスワードからのログインは拒否されます。デフォルトでは無効になっています。

注意：[Login Failures]を有効にしないと、ユーザーは制限なしに何回でもログインを試行できることになります。セキュリティのために、この機能とロックアウトポリシーを有効にしてください。

Filter（フィルタ）

IPフィルタとMACフィルタ

接続を試みるクライアントコンピュータのIPまたはMACアドレスに基づいて、KVMスイッチへのアクセスを制御します。最大で100個のIPフィルタと100個のMACフィルタを作成できます。フィルタは設定されると、IPフィルタとMACフィルタのリストボックスに表示されます。

有効にするには、[IP Filter Enable（IPフィルタを有効にする）]および[MAC Filter Enable（MACフィルタを有効にする）]のチェックボックスをクリックしてチェックマークを入れます。

- **[Include（含む）]** ボタンにチェックを入れると、フィルタ範囲内のすべてのアドレスがアクセスを許可され、それ以外のアドレスはすべてアクセスを拒否されます。
- **[Exclude（除く）]** ボタンにチェックを入れると、フィルタ範囲内のすべてのアドレスはアクセスを拒否され、それ以外のアドレスはすべてアクセスを許可されます。

フィルタの追加

IPフィルタを追加するには、以下の手順を実行します。

1. **[Add]** をクリックしてダイアログボックスを開きます。
2. IPv4またはIPv6アドレスを指定します。

3. フィルタリングするアドレスを[From: (開始:)]フィールドに入力します。
 - 1つのIPアドレスのみをフィルタリングするには、[Single IP (単一IP)]チェックボックスにチェックを入れます。
 - 連続したアドレス範囲をフィルタリングするには、[To: (終了:)]フィールドに範囲の最後のアドレスを入力します。

注意：この説明はAP GUIを対象としています。ブラウザGUIでは、IPv4かIPv6かの選択肢はありません。あるのはIPv4フィルタリング設定のための[From]と[To]のフィールドのみで、単一IPアドレスを指定するチェックボックスはありません。単一IPv4アドレスをフィルタリングするには、[From]と[To]の両方のフィールドに同じアドレスを入力します。
4. アドレスを入力したら、[OK]をクリックします。
5. 他のIPアドレスをフィルタリングするには、上記手順を繰り返します。

MACフィルタを追加するには、以下の手順を実行します。

1. [Add]をクリックしてダイアログボックスを開きます。
2. MACアドレスを指定して、[OK]をクリックします。
3. 他のMACアドレスをフィルタリングするには、上記手順を繰り返します。

IPフィルタとMACフィルタの競合IPフィルタとMACフィルタの間で競合が発生した場合（コンピュータのアドレスが一方のフィルタでは許可されているが、もう一方のフィルタでブロックされている場合）、フィルタのブロックが優先されます（コンピュータのアクセスはブロックされます）。

フィルタの変更フィルタを変更するには、IPフィルタまたはMACフィルタのリストボックスで変更するフィルタを選択し、[Modify]をクリックします。[Modify]ダイアログボックスは[Add]ダイアログボックスとほぼ同じです。ダイアログボックスが開いたら、古いアドレスを削除して、新しいアドレスに置き換えます。

フィルタの削除フィルタを削除するには、IPフィルタまたはMACフィルタのリストボックスで削除するフィルタを選択し、[Delete]をクリックします。

Login String (ログイン文字列)[Login String]入力フィールドを使用して、Super Administratorは、ユーザーがブラウザを使用してKVMスイッチにアクセスするときに、IPアドレスに追加する必要があります。例：IPアドレスが192.168.0.126でログイン文字列がabcdefgの場合、ユーザーは次のように入力する必要があります：192.168.0.126/abcdefg

注意：

1. ユーザーはIPアドレスと文字列をスラッシュ (/) で区切る必要があります。
2. ログイン文字列が指定されていないと、だれでもIPアドレスのみを使用してKVMスイッチのログインページにアクセスできるため、セキュリティは低くなります。

- 文字列には次の文字を使用できます：0-9 a-z A-Z ~ !@ \$ & * () _ - = + [] , . |
- 次の文字は使用できません：% ^ " : / ? # \ ' { } ; ' < > [空白文字]
- 複合文字（É Ç ñ など）

セキュリティのために、文字列を定期的に変更することをお勧めします。

Account Policy（アカウントポリシー）

システム管理者は、ユーザー名とパスワードを制御するポリシーを設定できます。

項目	説明
Minimum Username Length（ユーザー名の最低文字数）	ユーザー名に必要な最低文字数を設定します。設定できる値は1～20です。デフォルトは3です。
Minimum Password Length（パスワードの最低文字数）	パスワードに必要な最低文字数を設定します。設定できる値は0～20です。0を設定すると、パスワードは不要になります。この場合、ユーザーはユーザー名のみでログインできます。デフォルトは3です。
Password Must Contain At Least（パスワードに必須の文字）	このセクションのいずれかの項目にチェックを入れると、ユーザーは1文字以上の大文字、1文字以上の小文字、または1文字以上の数字をパスワードに含める必要があります。 注意： このポリシーは、このポリシーが有効になった後で作成されたユーザーアカウント、および既存のユーザーアカウントのパスワード変更のみに適用されます。ポリシーが有効になる前に作成されたユーザーアカウント、および変更されていない既存のパスワードには適用されません。
Disable Duplicate Login（二重ログインの禁止）	チェックを入れると、同一アカウントによる同時ログインが防止されます。
Enforce Password History	パスワード再設定時に過去に使用したパスワードは使用できなくなります。数字を入力するとその回数だけ過去に使用したパスワードは使用できなくなります。

Encryption（暗号化）

キーボード/マウス、ビデオ、およびバーチャルメディアデータを柔軟に暗号化できるオプションを提供しており、DES、3DES、AES、RC4、ランダムを自由に組み合わせて設定することができます。暗号化を有効にすると、システムのパフォーマンスに影響を及ぼします。暗号化しない方がパフォーマンスは高くなります。暗号化を強化するほど、パフォーマンスは低下します。暗号化を有効にする場合は、パフォーマンスに関する以下の点を考慮してください。

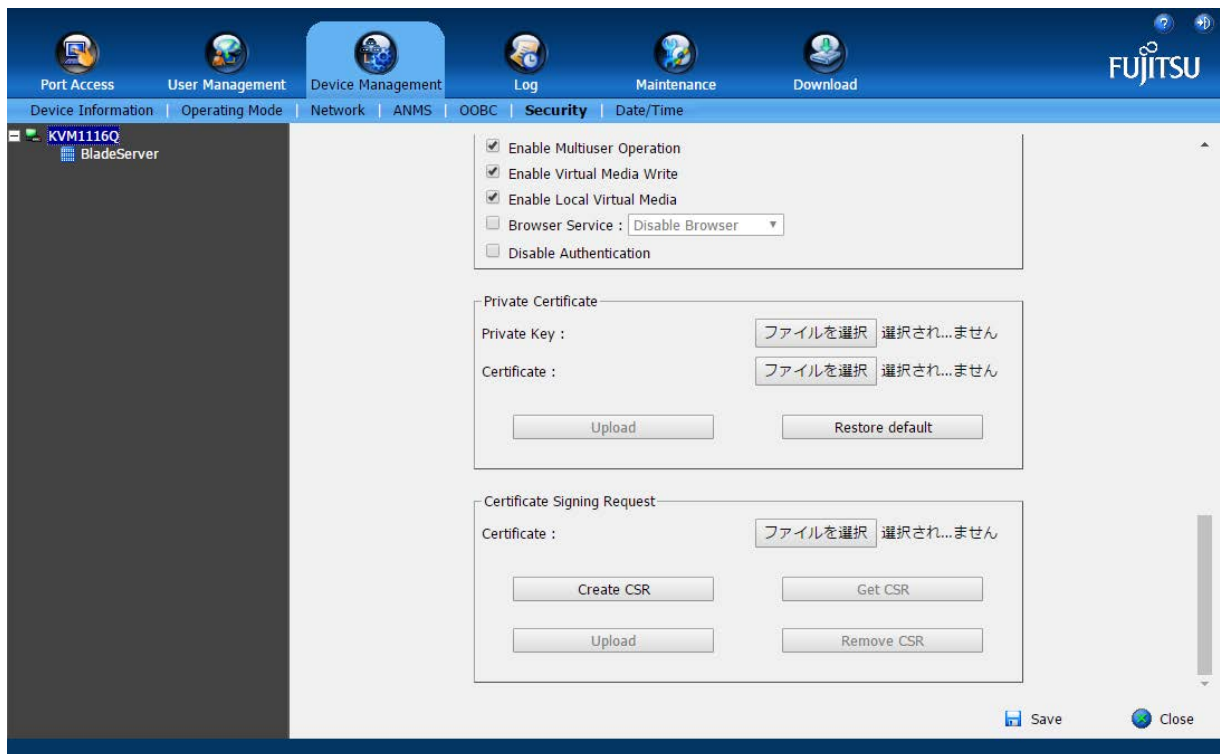
- RC4はパフォーマンスに与える影響が最も小さく、DES、3DESまたはAESの順に高くなります。
- RC4とDESの組み合わせは、どの組み合わせよりもパフォーマンスに与える影響が小さくなります。

Working Mode（動作モード）

項目	説明
Enable ICMP (ICMPを有効にする)	ICMPを有効にすると、KVMスイッチをpingできます。有効にしない場合、デバイスをpingできません。デフォルトは有効になっています。
Enable Multiuser Operation（マルチユーザー操作を有効にする）	これを有効にすると、32人までのユーザーが同時にログインしてリモートバスを共有できます。有効にしない場合、同時にログインできるユーザーは1人のみです。デフォルトは有効になっています。
Enable Virtual Media Write Operation (バーチャルメディア書き込み操作を有効にする)	これを有効にすると、ユーザーのシステム上のリダイレクトされたバーチャルメディアデバイスからリモートサーバーにデータを送信したり、リモートサーバーからのデータをバーチャルメディアデバイスに書き込んだりすることができます。デフォルトは有効になっています。
Enable Local Virtual Media（ローカルバーチャルメディアを有効にする）	これを有効にすると、KVMスイッチに接続されたUSB記憶装置（CD/DVD、HD、フラッシュドライブなど）を、まるでリモートシステム上にあるかのように表示し、動作させることができます。デフォルトは有効になっています。
Enable FIPS	FIPSセキュリティ標準規格を有効にします。
Browser Service (ブラウザサービス)	これを有効にすると、管理者はブラウザからのKVMスイッチへのアクセスを制限することができます。[Browser Service]にチェックを入れた後、リストから制限の度合いを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Disable Browser（ブラウザの無効化）]：ブラウザによるアクセスは禁止されます。 • [Disable HTTP（HTTPの無効化）]：ブラウザによるアクセスは許可されますが、HTTPS URLを使用してスイッチにアクセスする必要があります。 • [Disable HTTPS（HTTPSの無効化）]：ブラウザによるアクセスは許可されますが、ユーザーはHTTP URLを使用してスイッチにアクセスする必要があります。
Disable Authentication (認証を無効にする)	これを有効にすると、ユーザーのログインは認証されません。ユーザーは、ユーザー名とパスワードを入力するだけで、KVMスイッチにAdministrator権限でアクセスできます。 注意： この設定を有効にすると、セキュリティ上極めて危険な状態になるため、特別な状況でのみ使用するようにしてください。

Private Certificate（プライベート証明書）

セキュアな（SSL）接続でログインする場合、署名済み認証を使用して、ユーザーが意図するサイトにログインしているかどうかを検証されます。セキュリティを強化するために、[Private Certificate]セクションでは、デフォルトの証明書の代わりに、独自の秘密暗号化キーと署名済み認証を使用するように設定できます。



プライベート証明書を作成するには、以下の方法があります。

- CA署名済みSSLサーバー認証の取得
セキュリティを強化するために、第三者認証機関（CA）の署名済み認証を使用することをお勧めします。第三者認証機関の署名済み認証を取得するには、CA（認証機関）のWebサイトにアクセスしてSSL認証を申請します。CAから認証と秘密暗号化キーが送られてきたら、それをコンピュータ上の都合のよい場所に保存します。
- プライベート証明書のインポート
プライベート証明書をインポートするには、以下の手順を実行します。：
 - 1.[Private Key（秘密キー）]の右にある**[Browse]**をクリックし、秘密暗号化キーファイルがある場所に移動してそれを選択します。
 - 2.[Certificate（証明書）]の右にある**[Browse]**をクリックし、証明書ファイルがある場所に移動してそれを選択します。
 - 3.**[Upload]**をクリックして処理を完了します。**注意：**
 - 1.**[Restore Default（デフォルトに戻す）]**をクリックすると、サーバーはデフォルトの証明書を使用します。
 - 2.秘密暗号化キーと署名済み認証は、同時にインポートする必要があります。

Certificate Signing Request（認証署名要求）

認証署名要求（CSR）は、[Device Management] > [Security] > [Private Certification]セクションに配置されています。このセクションにより、CA署名済みSSLサーバー認証を自動的に取得してインストールすることができます。KVMスイッチは、x509タイプの.cer形式による1024ビットの証明書のみをサポートしています。

この操作を実行するには、以下の手順に従います。

1. **[Create CSR（CSRの作成）]**をクリックしてダイアログボックスを開きます。
2. 使用環境に関する有効な値を入力します。入力できない文字はありません。

情報	最大文字数	例
Country（国）	2文字のコード	US
State or Province （都道府県）	32	Missouri
Locality （市区町村）	32	St. Louis
Organization （組織名）	64	Your Company, Ltd.
Unit（部署名）	32	Techdoc Department
Common Name （コモンネーム）	32	mycompany.com 注意： 証明書が有効になるように、サイトのドメイン名は正確に入力する必要があります。ドメイン名が「www.mycompany.com」で、「mycompany.com」のみを指定した場合、証明書は有効になりません。
Email Address （メールアドレス）	64	administrator@yourcompany.com

3. 終了したら**[Create]**をクリックします（すべて必須項目です）。ここで入力した情報に基づいた自己署名認証がKVMスイッチに保存されます。
4. **[Get CSR（CSRを取得）]**をクリックし、証明書ファイル（csr.cer）をコンピュータに保存します。これは、署名済みSSL認証を申請する際に第三者CAに提出するファイルです。
5. CAから証明書が送られてきたら、それをコンピュータ上の都合のよい場所に保存します。**[Browse]**をクリックしてファイルのある場所に移動し、**[Upload]**をクリックしてそれをKVMスイッチに保存します。

注意：ファイルがアップロードされると、KVMスイッチはファイルの内容が指定された情報と一致しているか確認します。一致している場合、ファイルは受け入れられ、一致していない場合は拒否されます。

証明書を削除するには（ドメイン名の変更により置き換える場合など）、**[Remove CSR（CSRを削除）]**をクリックします。

Date/Time（日付/時刻）

[Date/Time]ダイアログページでは、以下の情報に従ってKVMスイッチの時間パラメータを設定します。

Time Zone（タイムゾーン）

- [Time Zone]リストから、KVMスイッチが設置されている場所に対応する都市を選択します。
- 夏時間（サマータイム）が導入されている国や地域の場合は、[Daylight Saving Time]チェックボックスにチェックを入れます。

Date（日付）

- リストから月を選択します。
- 「<」または「>」をクリックすると、前年または次年に移動します。
- カレンダーで日付をクリックします。
- 時刻は、24時間形式HH:MM:SSを使用して設定します。
- **[Set]**をクリックして設定を保存します。

Network Time（ネットワークタイム）

時刻をネットワークタイムサーバーに自動的に同期するには、以下の手順を実行します。

1. **[Synchronize with NTP Server（NTPサーバーと同期）]**チェックボックスにチェックを入れます。
2. リストから優先タイムサーバーを選択するか、[Preferred custom server IP（優先カスタムサーバー IP）]チェックボックスにチェックを入れて、タイムサーバーのIPv4アドレス、IPv6アドレス、またはドメイン名を入力します。
3. 代替タイムサーバーを設定する場合は、[Alternate time server]チェックボックスにチェックを入れて、手順2を繰り返して代替タイムサーバーを設定します。
4. 同期間隔の日数を入力します。
5. 今すぐ同期するには、**[Update Using NTP Now（今すぐNTPを使用して更新）]**をクリックします。

ポート操作

ログイン後、KVMスイッチは[Port Access]タブの[Connections]ページを開き、サイドバーでは最初のKVMスイッチが選択されています。

注意：

1. WinClientおよびJavaクライアントAPプログラムでは、画面の上部中央に非表示のコントロールパネルがあり、マウスを重ねると表示されます。ブラウザのコントロールパネルは、ポートに切り替えた後でのみ表示されます。

ポートへの接続

ユーザーがアクセスを許可されているすべてのサーバーおよびポートが、ページ左側のサイドバーに一覧表示されます。

- サイドバーでサーバーが選択されているときにポートに接続する場合：
サイドバーでサーバーのアイコンをダブルクリックするか、メイン中央パネルでサーバーの行エントリの任意の場所をダブルクリックします。またはメインパネルでサーバーを選択してページの右下にある[Connect]をクリックします。
- サイドバーでポートが選択されているときにポートに接続するには、[Status]パネルの右側にある[Connect]をクリックします（「Status（ステータス）」（43ページ）を参照）。

ポートに切り替わるとその画面がモニタに表示され、キーボードとマウスでリモートサーバーを操作できるようになります。

ポートツールバー

KVMスイッチには、選択中のポート内からポートの切り替え操作ができるツールバーが用意されています。

ツールバーを開くには、GUIホットキー（デフォルトは[Scroll Lock]）を2回押します。画面の左上隅にツールバーが開きます。

[ID Display（ID表示）]で選択した設定に応じて、ポート番号、ポート名またはその両方がツールバーの右側に表示されます。










ツールバーが表示されると、マウス入力ツールバー領域でのみ有効になり、キーボード入力はポートに接続されたサーバーでは無効になります。サーバー操作を実行するには、ツールバーのXアイコンをクリックしてツールバーを閉じます。

[Port Access]の[Connections]ページに戻るには、アイコンをクリックするか、もう一度GUIホットキーを押します。

注意：

1. ツールバーの透明度は調整できます（「Video Settings（ビデオ設定）」（30ページ）を参照）。
2. ツールバーの機能やアイコンはコントロールパネルにも組み込まれています。コントロールパネルで有効にした機能を、ツールバーで無効にすることができます。ツールバーが表示されていないときに[Port Access]の[Connections]ページを呼び出すには、GUIホットキーを2回押します。

ツールバーアイコン

アイコン	目的
	[Port Access]ページを呼び出さずに、構成全体の中で最初にアクセス可能なポートにスキップします。
	[Port Access]ページを呼び出さずに、現在のポートの1つ前にあるアクセス可能なポートにスキップします。
	オートスキャンモードを開始します。KVMスイッチは、フィルタ機能を使用して、オートスキャンの対象となるポートを、選択したポート間で自動的に切り替えます。これにより、スイッチ間を手動で切り替えなくても動作を監視できます。
	[Port Access]ページを呼び出さずに、現在のポートから次にアクセス可能なポートにスキップします。
	[Port Access]ページを呼び出さずに、現在のポートから、構成全体の中でアクセス可能な最後のポートにスキップします。
	[Port Access]ページを呼び出します。
	ツールバーを閉じます。
	パネルアレイモードを起動します。 KVM1116Qではローカルコンソールで使用できません。
	デバイスをスイッチに接続するために使用するアダプターケーブルの長さ（長、中、短）を切り替えます。選択肢は、接続に使用するカテゴリ5eケーブルの長さによって異なります。アイコンのラインの長さは、選択した長さに応じて変わります。

ツールバーホットキーによるポート切り替え

ツールバーが表示されているときに、ホットキーを使用してキーボードから直接ポートを切り替えることができます。

- ・ ポート番号を入力して**Enter**キーを押し、直接ポートに移動
- ・ オートスキャン
- ・ スキップモードによる切り替え

オートスキャンのホットキーは「A」と「P」、スキップモードのホットキーは矢印キーです。

注意：

1. ホットキー操作を使用するには、ツールバーを表示しておく必要があります。
2. ホットキーとして割り当てられているキーをホットキー以外の目的で使用するには、ツールバーを閉じてください。

オートスキャン

スキャン機能は、現在ログインしているユーザーがアクセス可能なすべてのポートを一定間隔で切替えて、自動的に動作を監視します。ユーザーは、サイドバーのフィルタ機能を使用して、スキャンするポートの数を制限することもできます。詳細は、「Scan（スキャン）」（41ページ）および「Filter（フィルタ）」（41ページ）を参照してください。

- **スキャン間隔の設定:**オートスキャンが各ポートにかける時間は、[Scan Duration]設定で設定します（48ページ）。
- **オートスキャンの開始:**ツールバーを開いた状態で、Aキーを押します。オートスキャンは、構成内の最初のポートから開始して、ポートを順に切り替えます。ポートがオートスキャンモードでアクセスされていることを示すために、ポートID表示の前に「S」が表示されます。
- **オートスキャンの一時停止:**Pキーを押すと、スキャンを一時停止して特定のサーバー画面を表示します。オートスキャンが一時停止されている間、ポートIDの前の「S」が点滅します。スキャンを一時停止して特定のサーバー画面を表示させると、中断した場所からスキャンを再開できるため、オートスキャンモードを終了するよりも便利です。オートスキャンモードを終了してから再開すると、スキャンは構成内の一番最初のサーバーから開始されます。一時停止後にオートスキャンを再開するには、ESCキーまたはスペースバー以外の任意のキーを押します。
- **オートスキャンの終了:**オートスキャンモードの実行中は、通常のキーボード機能を使用できません。キーボードの通常の制御に戻すには、オートスキャンモードを終了します。オートスキャンモードを終了するには、ESCキーまたはスペースバーを押します。オートスキャンモードを終了すると、オートスキャンが停止します。

スキップモード

サーバーを監視するために、ポートを手動で切り替えます。一定の間隔で自動的に切り替えるオートスキャンに対し、このモードでは特定のポートを必要なだけ長く表示させておくことができます。スキップモードのホットキーは4つの矢印キーです。これらの操作について下表で説明します。

アイコン	目的
左矢印	現在のポートから、その1つ前にあるアクセス可能なポートにスキップします。
右矢印	現在のポートから、その1つ後にあるアクセス可能なポートにスキップします。
上矢印	現在のポートから、構成内のアクセス可能な最初のポートにスキップします。
下矢印	現在のポートから構成内のアクセス可能な最後のポートにスキップします。

[Port Access]ページの再呼び出し

ツールバーを開いて[Port Access]ページに戻るには、以下のようにします。

- GUIホットキーを1回押します。
- ツールバーで、[Port Access]ページを呼び出すアイコンをクリックします（「ツールバーアイコン」（79ページ）を参照）。

ツールバーを閉じると、[Port Access]ページが開きます。

GUIホットキー一覧表









下表は、ポートアクセス後のGUIホットキーの動作をまとめたものです。GUIホットキーの設定については、「User Preferences（ユーザー設定）」（47ページ）を参照してください。

目的		操作
ツールバーを開く		GUIホットキーを2回押す
[Port Access]ページを開く	ツールバーが表示されている場合	GUIホットキーを1回押す
	ツールバーが表示されていない場合	GUIホットキーを3回押す

キーボードエミュレーション

Macキーボード










PC互換（101/104キー）のキーボードは、Macキーボードのファンクションをエミュレーションできます。下表にエミュレーションマッピングを示します。

PCキーボード	Macキーボード
[SHIFT]	Shift
[CTRL]	Ctrl
	
[CTRL] [1]	
[CTRL] [2]	
[CTRL] [3]	
[CTRL] [4]	
[ALT]	Alt
[PRINT SCREEN]	F13
[SCROLL LOCK]	F14
	=
[ENTER]	Return
[BACKSPACE]	Delete
[INSERT]	Help
[CTRL] 	F15

注意：キーの組み合わせを使用する場合、最初のキー（CTRL）を押して離してから、次のキーを押して離します。

Sunキーボード

PC互換（101/104キー）のキーボードは、コントロールキー [Ctrl] を他のキーと組み合わせて使用することによって、Sunキーボードのファンクションをエミュレーションできます。対応するファンクションを下表に示します。

PCキーボード	Sunキーボード
[CTRL] [T]	Stop
[CTRL] [F2]	Again
[CTRL] [F3]	Props
[CTRL] [F4]	Undo
[CTRL] [F5]	Front
[CTRL] [F6]	Copy
[CTRL] [F7]	Open
[CTRL] [F8]	Paste
[CTRL] [F9]	Find
[CTRL] [F10]	Cut
[CTRL] [1]	 
[CTRL] [2]	 
[CTRL] [3]	 + 
[CTRL] [4]	
[CTRL] [H]	Help
	Compose
	Meta

注意：キーの組み合わせを使用する場合、最初のキー（CTRL）を押して離してから、次のキーを押して離します。








パネルアレイモード

ツールバーの[Panel]アイコンをクリックすると、パネルアレイモードが起動します。このモードでは、画面は42個のパネルに分割されています。

- 各パネルには、左上のポート1から開始して、左から右へ、上から下へ向かってスイッチのポートが1つずつ表示されます。
- パネルアレイツールバー上の[Show More Ports (表示するポートを増やす)]および[Show Fewer Ports (表示するポートを減らす)]アイコンをクリックして、配列に表示するパネルの数を選択できます。
- パネルアレイは、前にフィルタ機能で選択した各ポートをスキャンします（「Filter (フィルタ)」(41ページ)を参照)。ポートがスキャンされている間、そのポートを表示するパネルの枠が強調表示されます。
- ユーザーがアクセス可能なポートのみが表示されます。アクセスできないポートのパネルはブランクで表示されます。
- ポートに接続されたサーバーがオンラインの場合、画面にパネルが表示され、そうでない場合、パネルはブランクで表示されます。
- パネル上にマウスポインタを移動すると、そのポートに関する情報（ポート名、オンライン状態、ポートアクセス状態、解像度）が表示されます。
- パネル上にマウスポインタを移動してクリックすると、ポートに接続されたサーバーにアクセスします。この方法により、[Port Access]ページでサーバーを選択したのと同じように、サーバーを切り替えることができます。

パネルアレイツールバー

パネルアレイツールバーにより、パネルアレイの移動や操作を簡単に行うことができます。ツールバーは画面上の好きな場所にドラッグして移動できます。アイコンにマウスを重ねると、ツールチップ（アイコンの機能の簡単な説明）が表示されます。

アイコン	目的
	ツールバーを移動させるには、このアイコンをクリックしてドラッグします。 注意：このアイコンは、Windowsクライアントでのみ使用できます。Javaクライアントのツールバーを移動するには、何もない部分をクリックしてドラッグします。
	現在表示されているパネルを表示したまま、パネルのスキャンを一時停止します。
	4つ前のパネルに移動します。
	1つ前のパネルに移動します。
	次のパネルに移動します。
	4つ後ろのパネルに移動します。
	Show More Ports（表示するポートを増やす）：アレイに表示するパネルの数を増やします。
	Show Fewer Ports（表示するポートを減らす）：アレイ内のパネルの数を減らします。
	4/3のアスペクト比に切り替えます。
	パネルアレイモードを終了します。

ログ

Log Information（ログ情報）

[Log Information]ページにはイベントが表示され、その時間、重要度、ユーザー、各イベントの説明が示されます。列見出しをクリックすると、ソート順を変更できます。ログファイルは、最大512のイベントを記録します。上限に達すると、新しいイベントが発生した際に一番古いイベントが削除されます。

ボタン	説明
Pause (一時停止)	新しいイベントの表示を中断します。表示を中断している間、ボタンは[Resume]に替わります。イベントの表示を再開するには、[Resume]をクリックします。
Clear Log (ログの消去)	ログファイルを消去します。
Export Log (ログのエクスポート)	ログの内容をコンピュータ上のファイルに保存します。
Filter (フィルタ)	次のセクションで説明するように、日付や特定の単語または文字列などにより、特定のイベントを検索できます。

フィルタ

特定の時間に発生したイベント、特定の単語や文字列を含むイベント、特定のユーザーが関与するイベントなど、ログイベントを絞り込んで表示することができます。この機能にアクセスすると、ページの下部にログフィルタのダイアログボックスが表示されます。

項目	説明
Time (時間)	特定の時間に発生したイベントを検索します。 <ul style="list-style-type: none">• Today Only (本日のみ) : 現在の日付のイベントのみが表示されます。• Start Date/Time (開始日付/時刻) : 特定の日時から現在までに発生したイベントを検索します。チェックボックスにチェックを入れるとカレンダーが開きます。検索する開始日時を設定します。開始日時から現在までのすべてのイベントが表示されます。• Webブラウザインターフェイスの場合は、[Start Date/Time]にチェックを入れ、テキストボックスの内側をクリックしてカレンダーを開きます。カレンダーで選択後、カレンダーパネルの右下にある[A]アイコンをクリックします。• End Date/Time (終了日付/時刻) : 特定の日時から特定の日時までのイベントを検索します。[Start Date/Time]を選択し、[End Date/Time]にチェックを入れて終了日付と時刻を設定します。• Webブラウザインターフェイスの場合は、[End Date/Time]にチェックを入れ、テキストボックスの内側をクリックしてカレンダーを開きます。カレンダーで選択後、カレンダーパネルの右下にある[A]アイコンをクリックします。
Information (情報) *	特定の単語または文字列を検索します。[Information]テキストボックスに単語または文字列を入力します。その単語または文字列を含むイベントのみが表示されます。ワイルドカード (1文字の場合は「?」、複数文字の場合は「*」) とキーワード「or」を使用できます。
User (ユーザー)	特定のユーザーを検索します。[User]チェックボックスにチェックを入れ、ユーザーのユーザー名を入力して[Apply]をクリックします。そのユーザー名を含むイベントのみが表示されます。 注意 : [Filter]パネルの[User]チェックボックスにチェックを入れていない場合、メインパネルに[User]列自体が表示されません。
Severity (重大度)	イベントの重大度に基づいてフィルタ処理します。[Least (最小)] イベントは黒、[Less (小)] イベントは青、[Most (最大)] イベントは赤で表示されます。 [Severity]チェックボックスにチェックを入れ、検索する重大度オプションにチェックを入れます。指定した重大度に一致したイベントのみが表示されます。 注意 : [Filter]パネルで[Severity]チェックボックスにチェックを入れていない場合、メインパネルに[Severity]列自体が表示されません。
Apply (適用)	フィルタ選択を適用します。
Reset (リセット)	ダイアログボックス内のエントリを消去して初期状態から開始します。
Exit (終了)	ログフィルタ機能を終了します。
* 例については54ページを参照してください。	

Log Notification Settings（ログ通知設定）

通知をトリガするイベントや、イベントの通知方法を選択します。通知の送信は、SNMPトラップ、SMTPメール、SysLogファイルへの書き込み、またはこれら3つ方法の組み合わせによって行うことができます。チェックマークは、列見出しで指定された方法でのイベントの通知が有効であることを示し、Xは無効であることを示します。

注意：任意の列でShiftキーまたはCtrlキーを押しながらクリックして、複数のイベントを1グループとして選択できます。いずれかのイベントをクリックして有効/無効にすると、すべてのイベントで同時に変更されます。

Maintenance（メンテナンス）

ファームウェアのアップグレード、設定およびアカウント情報のバックアップとリストア、ネットワークサーバーのping、デフォルト値の復元を行います。

メインファームウェアのアップグレード

この手順はBrowserもしくはClient APから接続する必要があります。

KVMスイッチのメインファームウェアのアップグレードや、構成内に展開されたブレードサーバーのアップグレードを行います。新しいバージョンのファームウェアが使用可能になると、Webサイトからダウンロードできるようになります。Webサイトを定期的にチェックして、最新情報やパッケージを入手してください。

メインファームウェアをアップグレードするには、以下の手順を実行します。

1. 新しいファームウェアファイル（スイッチまたはブレードサーバーモジュール）をコンピュータにダウンロードします。
2. KVMスイッチにログインし、**[Maintenance]**タブをクリックして**[Upgrade Main Firmware]**ページを開きます。
3. **[Browse]**をクリックして新しいファームウェアファイルに移動し、そのファイルを選択します。
4. **[Upgrade Firmware（ファームウェアをアップグレード）]**をクリックします。
 - **[Check Main Firmware Version（メインファームウェアバージョンを確認する）]**を有効にしている場合は、現在のファームウェアとアップグレードファイルのバージョンが比較されます。現在のバージョンがアップグレードバージョン以上である場合、そのことを通知するポップアップメッセージが表示され、アップグレードプロセスは中止されます。
 - **[Check Main Firmware Version]**を有効にしていない場合、アップグレードファイルはバージョンを比較せずにインストールされます。
 - アップグレードの進行中は、進捗状況がプログレスバーに表示されます。
 - 正常に完了すると、スイッチ本体はリセットされます。
5. 再度ログインして、新しいファームウェアバージョンがインストールされていることを確認します。

アダプターファームウェアのアップグレード

この手順はBrowserもしくはClient APから接続する必要があります。

1. KVMスイッチにログインし、**[Maintenance]**タブをクリックして**[Upgrade Adapters（アダプターをアップグレード）]**を選択します。
2. **[Adapter Firmware Info（アダプターファームウェア情報）]**をクリックし、アダプターファームウェアバージョンのリストを開きます。メインファームウェアがアップグレードされている場合、アダプター上のバージョンよりも新しいバージョンが表示される場合があります。
3. メインファームウェアに保存されているバージョンと、**[F/W Version（ファームウェアバージョン）]**列に表示されているバージョンを比較します。ファームウェアに保存されているバージョンが、アダプター上のバージョンよりも新しい場合は、アップグレードを実行します。
4. メインパネルの**[Name]**列で、アダプターをアップグレードするポートを確認します。

5. **[Upgrade Adapters]**をクリックしてアップグレードを開始します。

- **[Check Adapter Firmware Version（アダプターファームウェアバージョンを確認する）]**を有効にしている場合、現在のファームウェアバージョンとアップグレードバージョンが比較されます。現在のバージョンがアップグレードバージョン以上である場合、アダプターの**[Progress（状況）]**列に、利用可能なアップグレードがないためアップグレードを中止することを通知するメッセージが表示されます。
- **[Check Adapter Firmware Version]**を有効にしていない場合、アップグレードはバージョンを比較せずにインストールされます。
- アップグレードが終了すると、新しいアダプターファームウェアバージョンが表示されます。

注意：

- 1.最適な互換性を確保するために、アダプターケーブルのファームウェアは、スイッチのメインファームウェアと一緒に保存されているものにアップグレードしてください。
- 2.アダプターが構成に追加された場合は、アップグレードを実行して最新バージョンのファームウェアが使用されていることを確認してください。

Update Adapter Display Info（アダプターディスプレイ情報の更新）モニタのディスプレイ情報（例：ブランド/種類/EDID）を読み取ります。ディスプレイ情報をサーバーモジュールに書き込み、コンピュータがコンソールポートに接続されたモニタを識別できるようにします。これは、モニタで提供される固有の解像度レベルに設定するためにのみ必要になります。

ファームウェアアップグレードのリカバリ

KVMスイッチのメインファームウェアのアップグレードプロセスが失敗して、KVMスイッチが使用できなくなった場合は、以下の手順を実行してください。

1. KVMスイッチの電源を切ります。
2. リセットスイッチを長押しします（7ページを参照）。
3. リセットスイッチを押したまま、KVMスイッチの電源を入れます。

KVMスイッチは元の工場出荷時のメインファームウェアバージョンに戻ります。KVMスイッチが操作可能な状態になったら、再度アップグレードを試してください。

アダプターファームウェアのアップグレードリカバリ

KVMアダプターケーブルのいずれかのアダプターファームウェアのアップグレードプロセスが失敗し、アダプターが使用できなくなった場合は、以下の手順を実行してください。

1. アダプターを接続されているサーバーから外します。
2. ファームウェアアップグレードリカバリスイッチ（カテゴリ5eコネクタの横にあります）を**RECOVER**位置にスライドさせます。
3. アダプターをサーバーに再度接続します。
4. アダプターのアップグレードプロセスをもう一度行います。
5. アダプターが正常にアップグレードされたら、アダプターをサーバーから外します。ファームウェアアップグレードリカバリスイッチを**NORMAL**位置に戻します。アダプターをサーバーに再度接続します。

バックアップ/リストア

この手順はBrowserもしくはClient APから接続する必要があります。

Backup（バックアップ）

1. [Password]フィールドにファイルのパスワードを入力します。
注意：
 - 1.パスワードはオプションです。設定していない場合、パスワードを指定しなくてもファイルを復元できます。
 - 2.パスワードを設定した場合は、それを書き留めておきます。ファイルを復元する必要があります。
2. **[Backup]**をクリックします。
3. ブラウザからファイルの保存方法を問うダイアログが表示されたら、**[Save to disk（ディスクに保存）]**を選択します（都合のよい場所に保存してください）。

Restore（リストア）

1. **[Browse]**をクリックし、ファイルに移動してそれを選択します。
注意：ファイル名を変更している場合、それを元の名前に戻す必要はありません。
2. ファイルの作成時にパスワードを設定した場合は、それを入力します。
3. 復元内容のオプションを選択します。
4. **[Restore]**をクリックします。
ファイルが復元されると、処理が正常に完了したことを示すメッセージが表示され、KVMスイッチ本体はリセットされます。

Terminal（ターミナル）

Terminal（ターミナル）は、ターミナルインターフェイスを使用してオプションを実行するためのコマンドラインを提供します。 ウィンドウにコマンドを入力し、[Enter]を押して実行します。

使用可能なコマンド一覧

コマンド	機能
BLADEDEBUG =>	ブレードサーバのデバッグ
CLS =>	画面のクリア
ENABLERC4 =>	RC4 暗号を有効
ENABLESSLV2 =>	SSL v2 プロトコルを有効
ENABLESSLV3 =>	SSL v3 プロトコルを有効
GET =>	現在の設定を取得
HELP =>	コマンドのヘルプ情報を提供
LDAPDEBUG =>	LDAP 通信のデバッグ
NETINFO =>	ネットワーク統計情報の表示
PING =>	Ping ホスト情報の表示
SETAMFRAMECOLOR ¥[RGB color code] =>	パネルの配列フレーム色を設定 任意の RGB カラーコードを設定可能 例： Value: ff0000 = 赤 Value: 00ff00 = 緑 Value: 000ff = 青
SETLDAPMEMBER =>	LDAP member の新しい値を設定
SETLDAPMEMBEROF =>	LDAP memberof の新しい値を設定
SETPROMPT =>	プロンプト文字列を設定
SETSSLCIPHER =>	SSL 暗号強度を設定
SETUSERINFOEXT [value] =>	イベントログに記録される各ポートの 詳細なユーザーログイン情報を有効/無効 Value: 0 = 無効, 1 = 有効
SOCKINFO =>	ソケット接続情報を表示
TRACERT =>	トレースルート情報を表示

System Operation (システム操作)

KVMスイッチに対して行った設定変更を工場出荷時のデフォルト値に戻します。

Clear Port Names (ポート名の消去) ポートに割り当てられた名前を削除します。

Restore Default Values (デフォルト値の復元) ネットワーク転送率 ([Network] ページ) を含めて、KVMスイッチに対して行った変更 (ポート名以外) を削除します。パラメータは工場出荷時のデフォルト設定に戻ります。

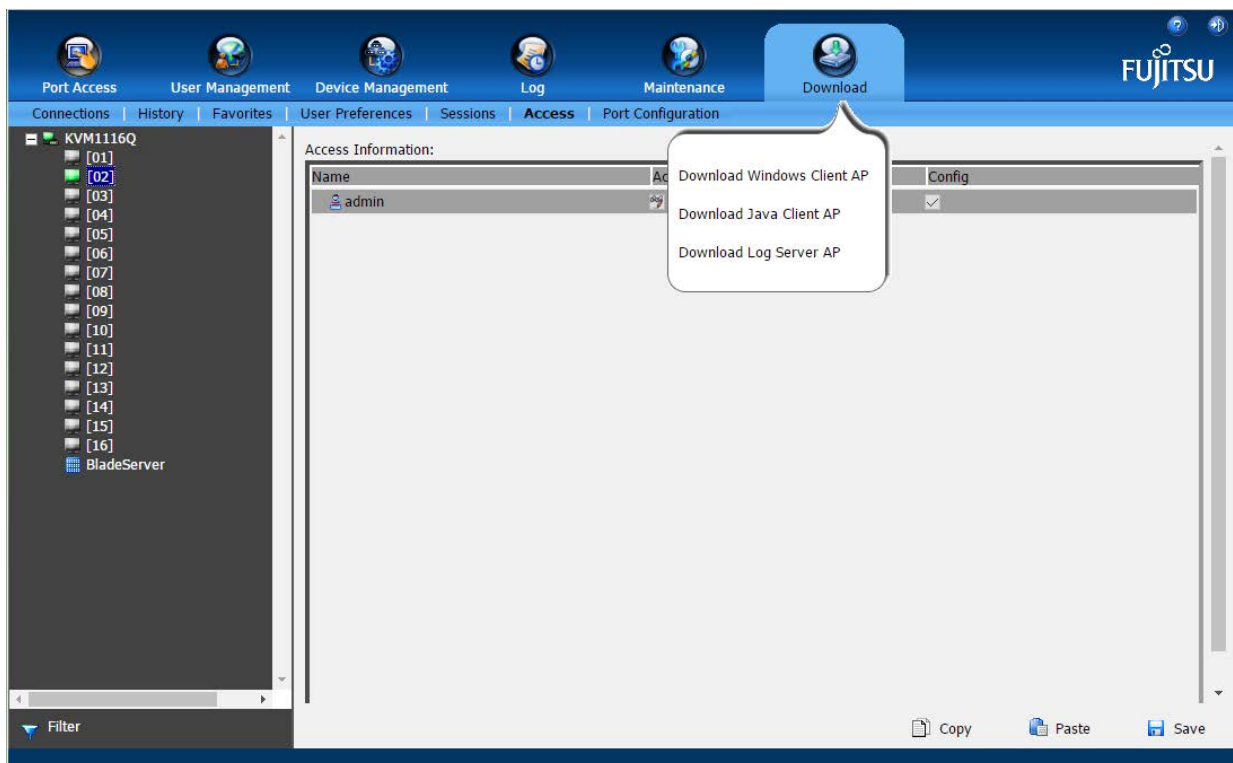
Reset on exit (終了時にリセット)

ログアウトするときにKVMスイッチ自体をリセットして新しい設定をすべて反映させるには、このチェックボックスにチェックを入れて**[Apply]**をクリックします (約30~60秒待ってから、再度ログインしてください)。スイッチのIPアドレスが変更された場合は、チェックボックスに自動的にチェックが入り、ログアウトしたときにKVMスイッチはリセットされます。ログアウトする前にこのチェックを外した場合、変更されたIP設定は無視され、元のIPアドレス設定が引き続き有効になります。

注意: このチェックを外した場合、変更されたIP設定は無視されますが、ネットワーク設定フィールドにはそのまま残ります。次にこのページを開いたときに、**[Reset on exit]** チェックボックスに自動的にチェックが入ります。スイッチをリセットすると、破棄されたIP設定がスイッチで使用されます。この問題を回避するために、ネットワーク設定ページに移動して、フィールドに正しいIP設定が表示されていることを確認してください。

[Download] タブ

このタブは、Windowsクライアント、Javaクライアント、およびログサーバーのスタンドアロンのAPバージョンをコンピュータのハードドライブにダウンロードするために使用します。



ログサーバー

Windowsベースのログサーバーは、選択したKVMスイッチで発生したすべてのイベントを記録し、それらを検索可能なデータベースに書き込む管理用ユーティリティです。

インストール

1. KVMスイッチにログインします（18ページを参照）。
2. **[Download]**タブをクリックし、「ログサーバー AP」プログラムをコンピュータにダウンロードします。
3. ハードドライブ上のダウンロードした場所に移動し、LogSetup.exeをダブルクリックしてWindowsクライアント接続画面を開きます。
4. ログサーバーのインストール画面が開いたら、**[Next]**をクリックします。画面に表示される指示に従ってインストールを完了し、ログサーバーのプログラムアイコンをデスクトップに配置します。

起動

ログサーバーを起動するには、プログラムアイコンをダブルクリックするか、コマンドラインでプログラムの完全パスを入力します。

注意：

1. ログサーバーコンピュータのMACアドレスはANMS設定で指定する必要があります。
2. ログサーバーにはMicrosoft Jet OLEDB 4.0ドライバーが必要です。

画面は3つの部分に分かれています。

- ・ 上部にメニューバー
- ・ 中央にKVMスイッチのリストを含むパネル
- ・ 下部にイベントリストを含むパネル

メニューバー

注意：メニューバーが無効と表示されている場合は、リストウィンドウをクリックすると有効になります。

Configure（設定）[Configure]メニューには、[Add（追加）]、[Edit（編集）]、[Delete（削除）]の3つの項目があります。これらを使用して、新しいユニットのリストへの追加、リストにすでに存在するユニットの情報の編集、リストからのサーバーの削除などの操作を行います。

- ・ サーバーをリストに追加するには、**[Add]**をクリックします。
- ・ リストされたサーバーを編集または削除するには、まずリストウィンドウでターゲットを選択し、メニューを開いて**[Edit]**または**[Delete]**をクリックします。

[Add]または**[Edit]**を選択してダイアログボックスを開きます。フィールドに入力またはフィールドを変更し、**[OK]**をクリックして終了します。

フィールド	説明
Address（アドレス）	ログサーバーを実行しているコンピュータのIPアドレス、またはそのDNS名。
Port（ポート）	[Device Management]でログサーバーに割り当てたポート番号（「ログサーバー」（67ページ）を参照）。
Description（説明）	サーバーを識別しやすいように、わかりやすい説明を入力します。
Limit（期限）	イベントをログサーバーのデータベースに保持する日数を指定します。指定した期間を超えたイベントは、削除できます（「Maintenance（メンテナンス）」（87ページ）を参照）。

Events（イベント）

[Events]メニューには、[Search]と[Maintenance]の2つの項目があります。

Search（検索）：特定の単語や文字列を含むイベントを検索します。

項目	説明
New search (新規検索)	検索範囲を定義する3つのラジオボタンのうちの1つです。これを選択すると、選択したサーバーのデータベース内のすべてのイベントが検索されます。
Search last results (前回の検索結果を対象)	前回の検索結果に対して2次検索を実行します。
Search excluding last results (前回の検索結果以外を対象)	選択したサーバーのデータベース内のすべてのイベントから、前回の検索結果を除外したものに対して、2次検索を実行します。
Server List (サーバーリスト)	KVMスイッチがIPアドレスに従って一覧表示されます。検索するサーバーをこのリストから選択します。複数のサーバーを選択できます。サーバーが選択されていない場合、全サーバーを対象に検索が実行されます。
Priority (優先順位)	表示する検索結果の詳細レベルを設定します。[Least]は最も簡易に、[Most]は最も詳細に表示されます。[Least]の結果は黒、[Less]は青、[Most]は赤で表示されます。
Start Date (開始日)	検索の開始日を選択します。YYYY/MM/DDの形式で入力します（例：2011/11/04）。
Start Time (開始時間)	検索の開始時刻を選択します。HH:MM:SSの形式で入力します。
End Date (終了日)	検索の終了日を選択します。
End Time (終了時刻)	検索の終了時刻を選択します。
Pattern (パターン)	ここに検索するパターンを入力します。複数文字のワイルドカード（%）がサポートされています。
Results（結果）	検索に合致したイベントがリストされます。
Search（検索）	検索を開始します。
Print（印刷）	検索結果を印刷します。
Export (エクスポート)	検索結果をファイルに保存します。
Exit（終了）	ログサーバーを終了します。

Maintenance（メンテナンス）管理者は、たとえば、特定のレコードを期限切れになる前に消去するなど、データベースのメンテナンスを手動で実行することができます。

Options（オプション）Network Retry（ネットワーク再試行）：接続に失敗した場合に、ログサーバーが再接続を試みるまでに待機する時間を設定します。クリックするとダイアログボックスが開きます。秒数を入力します。[OK]をクリックして終了します。

Help（ヘルプ）[Help]メニューから[Contents]をクリックすると、Windowsのオンラインヘルプファイルにアクセスします。ヘルプファイルには、ログサーバーのセットアップ、操作、およびトラブルシューティングに関する説明が含まれています。

ログサーバーのメイン画面

概要ログサーバーのメイン画面は2つのメインパネルに分かれています。

- 上側（リスト）のパネルには、ログサーバーが追跡するように選択されたすべてのKVMスイッチが表示されます（「ログ」（85ページ）を参照）。
- 下側（イベント）のパネルには、現在選択されているサーバーのイベント情報が表示されます（複数のKVMスイッチがある場合、選択されたスイッチが強調表示されています）。
- リスト内のサーバーをクリックして選択します。

リストパネルリストパネルには6つのフィールドがあります。

フィールド	説明
State（状態）	[ID]チェックボックスにチェックを入れた場合、フィールドに「Recording」と表示されます。 [ID]チェックボックスにチェックを入れていない場合、フィールドに「Paused」と表示され、イベントは記録されません。 注意：現在選択されていないサーバーでも、その[ID]チェックボックスにチェックが入っている場合、ログサーバーはそのイベントを記録します。
Address（アドレス）	サーバーがログサーバーに追加されたときに指定されたIPアドレスまたはDNS名です（「Configure（設定）」（92ページ）を参照）。
Port（ポート）	サーバーに割り当てられたアクセスポート番号です。
Connection（接続）	• ログサーバーがサーバーに接続されている場合、このフィールドに「 Connected 」と表示されます。 • ログサーバーが接続されていない場合、このフィールドに「 Waiting 」と表示されます。この場合、ログサーバーのMACアドレスが正しく設定されていません。これを[Device Management]の[Date/Time]（77ページ）で設定します。
Days（日数）	サーバーのログイベントが期限切れになるまでにログサーバーのデータベースに保存される日数です。
Description（説明）	サーバーがログサーバーに追加されたときに指定された説明情報を表示します。
ID	識別番号

イベントパネル下側のパネルに、現在選択されているサーバーのログイベントが表示されます。チェックボックスにチェックが入っている場合、現在選択されていないサーバーでも、複数のサーバーのイベントが記録されます。ログサーバーはそのイベントを記録して、そのデータベースに保持します。

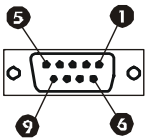
工場出荷時のデフォルト設定

設定	値
Port Access - ポート設定 - ポートのプロパティを修正	
Occupy Timeout (タイムアウト)	3 秒
Access Mode (アクセスモード)	share (共有)
Port OS (ポート OS)	Win
OS Language (OS 言語)	English US (US英語)
Cable Length (ケーブル長さ)	Short (ショート)
Device Managemet - ネットワーク	
IP Installer (IPインストーラー)	View Only (監視のみ)
Network Transfer Rate (ネットワーク転送速度)	99999 KBps
操作モード	
Force All to Graymode (グレースケール表示する)	Disable
Enable Device List (デバイス一覧を有効にする)	Enable
Enable First Rider Transfer	Disable
Keyboard/Mouse Broadcast (キーボード/マウスのブロードキャスト)	Disable
Console Keyboard Language (コンソールキーボード言語)	English US (US英語)
セキュリティ	
Login Failures (ログイン失敗)	Disable
Minimum User name Length (ユーザー名最小文字数)	3
Minimum Password Length (パスワード最小文字数)	3
Password Must Contain At Least (パスワードには以下が必須です)	Disable
Disable Duplicate Login (シングルログイン)	Disable
Enforce Password History	Disable
Enable ICMP (ICMP有効)	Enable
Enable FIPS (FIPSを有効にする)	Disable
Enable Multiuser Operation (マルチユーザーオペレーションを有効にする)	Enable
Enable Virtual Media Write (バーチャルメディア書き込みを有効にする)	Enable
Enable Local Virtual Media (ローカルバーチャルメディアを有効にする)	Enable
Browser Service (ブラウザサービス)	Disable
Disable Authentication (認証を無効にする)	Disable

シリアルアダプターのピンアサイン

KVM1116Q

RJ45-F to DB9-M (ブラックのコネクタ)			DTE to DCE
(RJ45)	ピン (8)	<----->	モデム/デバイス (DB9)
RTS	1	<----->	7
DTR	2	<----->	4
TXD	3	<----->	3
CTS	4	<----->	8
GND	5	<----->	5
RXD	6	<----->	2
DCD	7	<----->	1
DSR	8	<----->	6
			9 NC未使用



バーチャルメディア対応 (本機能はEMEIAでのみ使用可能です。)

WinClient ActiveXビューア/WinClient AP

- IDE CDROM/DVD-ROMドライブ - 読み取り専用
- IDEハードドライブ - 読み取り専用
- USB CDROM/DVD-ROMドライブ - 読み取り専用
- USBハードドライブ - 読み取り/書き込み*
- USBフラッシュドライブ - 読み取り/書き込み*
- USBフロッピードライブ - 読み取り/書き込み

* これらのドライブは、ドライブまたはリムーバブルディスクとしてマウントすることができます (「バーチャルメディア」 (32ページ) を参照)。リムーバブルディスクとしてマウントすると、そのディスクにブート可能なOSが含まれていれば、そこからリモートサーバーをブートすることができます。ディスクが複数のパーティションに分割されている場合、リモートサーバーはすべてのパーティションにアクセスできます。

- ISOファイル - 読み取り専用
- フォルダ - 読み取り/書き込み

Javaアプレットビューア/JavaクライアントAP

- ISOファイル - 読み取り専用
- フォルダ - 読み取り/書き込み

IPアドレスの決定

管理者がKVMスイッチに初めてログインするときに、ユーザーが接続するためのIPアドレスを設定します。この場合、使用するクライアントコンピュータはKVMスイッチと同じネットワークセグメントにある必要があります。接続してログインした後、KVMスイッチに固定のネットワークアドレスを割り当てます。

ローカルコンソールIPアドレスの割り当ては、ローカルコンソールから行うのが一番簡単です。詳しい手順については、「初回セットアップ」（17ページ）を参照してください。

ブラウザ

1. クライアントコンピュータのIPアドレスを192.168.0.XXXに設定します。XXXは60以外の任意の数字を表します（192.168.0.60はKVMスイッチのデフォルトアドレスです）。
2. 接続できるようにするには、ブラウザでKVMスイッチのデフォルトIPアドレス（192.168.0.60）を指定します。
3. KVMスイッチが属するネットワークセグメントに適した固定IPアドレスをKVMスイッチに割り当てます。
4. ログアウト後、クライアントコンピュータのIPアドレスを元の値にリセットします。

IPv6

KVMスイッチは、「リンクローカルIPv6アドレス」、「IPv6ステートレス自動構成」、「ステートフル自動構成（DHCPv6）」の3つのIPv6アドレスプロトコルをサポートしています。

リンクローカルIPv6アドレスKVMスイッチは自動的にリンクローカルIPv6アドレスで設定されます（例：fe80::210:74ff:fe61:1ef）。リンクローカルIPv6アドレスが何であるかを確認するには、KVMスイッチのIPv4アドレスでログインし、[Device Management] > [Device Information]ページを開きます。[General]リストボックスにアドレスが表示されます。

IPv6アドレスが決定されると、ブラウザまたはWinやJavaクライアントAPプログラムからログインする際にそのアドレスを使用できるようになります。たとえば、ブラウザからログインする場合は、URLバーにhttp://[fe80::2001:74ff:fe6e:59%5]と入力します。APプログラムでログインする場合は、[Server]パネルの[IP]フィールドにfe80::2001:74ff:fe6e:59%5と入力します。

注意：

1. リンクローカルIPv6アドレスでログインするには、クライアントコンピュータがKVMスイッチと同じローカルネットワークセグメントに属する必要があります。
2. %5はクライアントコンピュータで使用されている%インターフェイスです。クライアントコンピュータのIPv6アドレスを確認するには、コマンドラインからコマンド「ipconfig /all」を入力してください。%値がIPv6アドレスの最後に表示されます。

IPv6ステートレス自動構成KVMスイッチのネットワーク環境にIPv6ステートレス自動構成機能に対応したサーバー（ルーターなど）が含まれる場合、KVMスイッチはIPv6アドレスを生成するためにそのサーバーからプレフィックス情報を取得することができます。例：2001::74ff:fe6e:59

アドレスは[Device Management] > [Device Information]ページの[General]リストボックスに表示されます。IPv6アドレスが決定されると、ブラウザまたはWinやJavaクライアントAPプログラムからログインする際にそのアドレスを使用できるようになります。たとえば、ブラウザからログインする場合は、URLバーにhttp://[2001::74ff:fe6e:59]と入力します。APプログラムでログインする場合は、[Server]パネルの[IP]フィールドに「2001::74ff:fe6e:59」と入力します（「WindowsクライアントAPIによるログイン」（19ページ）を参照）。

ポート転送

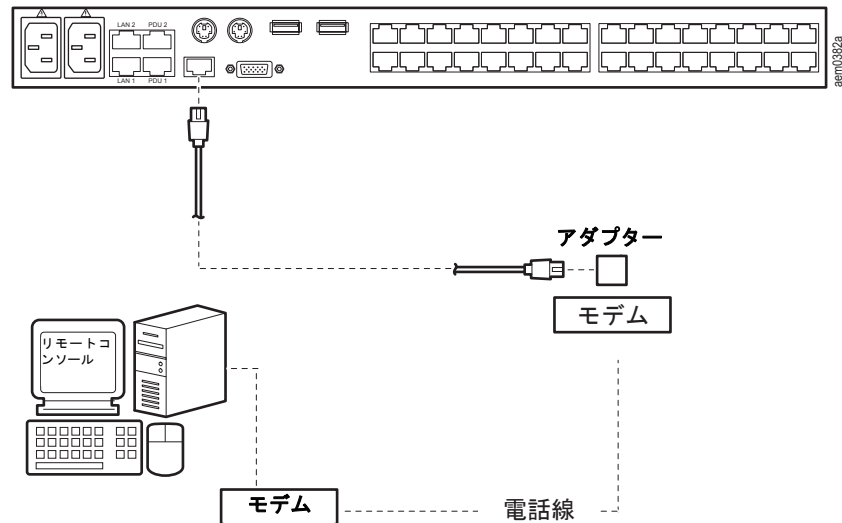
サーバーがルーターの内側に配置されている場合、ポート転送により、ルーターは特定のポートから受信したデータを特定のサーバーに渡すことができます。ポート転送パラメータの設定により、特定のポートから受信したデータをどのサーバーに転送するかをルーターに指示します。

たとえば、KVMスイッチのIPアドレスが「192.168.1.180」の場合、ルーターのセットアッププログラムにログインしてポート転送（バーチャルサーバーと呼ばれる場合もあります）の設定ページにアクセスします。IPアドレス「192.168.1.180」とそれに対して開放するポート番号（たとえば、インターネットアクセスの場合は9000）を指定します。

セットアップ方法は、ルーターによって異なります。ポート転送の設定に関する詳細は、ルーターのユーザーマニュアルを参照してください。

基本セットアップKVMスイッチには、PPPダイヤルイン接続を使用してRS-232ポート経由でアクセスできます。

1. ご使用のKVMスイッチを下図のようにセットアップします。



2. クライアントコンピュータから、モデムのダイヤルインプログラムを使用してKVMスイッチのモデムにダイヤルイン接続します。
注意：KVMスイッチモデムのシリアルパラメータが不明な場合は、KVMスイッチの管理者にお問合せください。
3. 接続が確立されたら、ブラウザを開き、URLバーで「192.168.192.1」を指定します。
4. デフォルトではユーザー名とパスワードはブランクになっています。
5. モデムセッションでは、KVMスイッチのIPアドレスは「192.168.192.1」、ユーザー側のIPアドレスは「192.168.192.101」です。
6. これ以降の操作は、ブラウザまたはAPプログラムでログインする場合と同じです。

接続のセットアップ例（Windows 7）

Windows 7でKVMスイッチへのダイヤルイン接続をセットアップするには、以下の手順を実行します。

1. [スタート]メニューから、[コントロールパネル] > [ネットワークとインターネット] > [ネットワークと共有センター]を選択します。
2. [新しい接続またはネットワークのセットアップ]を選択します。
3. [接続またはネットワークのセットアップ]ダイアログボックスで、[職場に接続します]を選択して[次へ]をクリックします。
4. [職場への接続]ダイアログボックスで、[いいえ、新しい接続を作成します]を選択し、[次へ]をクリックします。
5. [どの方法で接続しますか?]の画面で[直接ダイヤルします]を選択します。
6. [接続に使用する電話番号を入力してください]の画面で、KVMスイッチに接続されているモデムの電話番号（必要であれば、国番号や市外局番をつける）と、この接続につける名前（例：TPE-KVM2132P-01）を入力し、[次へ]をクリックします。
7. [ユーザー名およびパスワードを入力してください]の画面で、ユーザー名、パスワードを入力し、[作成]をクリックします。
8. [職場への接続]の画面で[閉じる]をクリックします。
9. [スタート]メニューから、[コントロールパネル] > [ネットワークとインターネット] > [ネットワークに接続]を選択し、作成した接続を選択するとKVMスイッチにPPP接続します。

その他のマウス同期方法

手動でマウスを同期させるには、KVMスイッチに接続しているサーバーで次の操作を実行します。

注意：

- 1.以下の操作は、KVMスイッチにアクセスするために使用しているクライアントコンピュータではなく、スイッチのポートに接続されているサーバーで実行してください。
- 2.ローカルのマウスとリモートのマウスを同期させるためには、Windowsオペレーティングシステムに付属されている汎用マウスドライバーを使用してください。サードパーティのドライバー（マウスに付属のドライバー）は削除する必要があります。

Windows

Windows 7：

- a. [マウスのプロパティ]ダイアログボックスを開きます（[コントロールパネル]>[ハードウェアとサウンド]>[マウス]）。
- b. [ポインタオプション]タブをクリックします。
- c. マウスの速度を中間に設定します。
- d. [ポインタの精度を高める]のチェックを外します。

Sun/Linux

ターミナルセッションを開き、以下のコマンドを発行します。

Sun：**xset m 1**

Linux：**xset m 0**または**xset m 1**（一方が動作しない場合は、もう一方を試してください）。

Redhat AS3.0マウスモードを使用しているLinux：**xset m 1**

KVM-SERIALサーバーモジュールの設定と操作

(本機能はEMEIAでのみ使用可能です)

KVM-SERIALケーブルはシリアルサーバーとKVMスイッチを接続します。

設定

KVM-SERIALサーバーモジュールが接続されたサーバーと通信できるように設定するには、そのシリアルパラメータをサーバーのパラメータに一致するように設定します。

1. [Port Access]ページのサイドバーで、KVM-SERIALサーバーモジュールが接続されているポートを選択します。
2. メニューバーで**[Port Configuration]**を選択します。ページが開き、[Port Properties]タブが選択されます。
3. [Properties]セクションで、接続されているシリアルコンソールサーバーで使用している値に一致するようにポートプロパティの値を選択します。
このモジュールでは以下のポートプロパティを設定できます。

設定	説明
Bits per second (ビット/秒) (ボーレート)	ポートのデータ転送速度を設定します。300～115200から選択できます（リストをドロップダウンするとすべての選択肢が表示されます）。シリアルコンソールサーバーのボーレート設定に一致するように設定してください。デフォルトは19200です（大半のシリアルコンソールサーバーではこれが基本的な設定値です）。
Data Bits (データビット)	データ1文字を転送するために使用するビット数を設定します。選択肢は7と8です。シリアルコンソールサーバーのデータビットの設定に一致するように設定してください。デフォルトは8です（大半のシリアルコンソールサーバーではこれがデフォルト値です）。
Parity (パリティ)	転送されたデータの整合性を確認します。選択肢は[None (なし)]、[Odd (奇数)]、[Even (偶数)]です。シリアルコンソールサーバーのパリティ設定に一致するように設定してください。デフォルトは[None]です。
Stop Bits (ストップビット)	文字が転送されたことを示します。シリアルコンソールサーバーのストップビット設定に一致するように設定してください。選択肢は1と2です。デフォルトは1です（大半のシリアルコンソールサーバーではこれがデフォルト値です）。
Flow Control (フロー制御)	データフローの制御方法を選択します。選択肢は[None (なし)]、[Hardware (ハードウェア)]、[XON/XOFF]です。シリアルコンソールサーバーのフロー制御設定に一致するように設定してください。デフォルトは[None]です。 注意： [None]は9600以下のボーレートでのみサポートされます。ボーレートが9600を超える場合は、[Hardware]または[XON/XOFF]を選択してください。
Access Mode (アクセスモード)	シリアルコンソールサーバーのアクセスモードを設定します。選択肢は[Share (共有)]、[Occupy (占有)]、[Exclusive (排他的)]です。デフォルトは[Share]です。この機能に関する詳細は、「Access Mode (アクセスモード)」 (42ページ) を参照してください。

4. 選択が終了したら、**[Save]**をクリックします。

操作

ポートに接続されたサーバーを操作するには、[Port Access]ページで、ポートをダブルクリックしてサーバーへのシリアル接続を確立します。

内部シリアルインターフェイスの設定

接続サーバーのシリアルインターフェイスパラメータを、アクセスサーバー内から設定するには、以下の手順を実行します。

1. アクセスサーバーから、コマンドライン（ターミナル）セッションまたはハイパーターミナルやPuTTYなどのサードパーティ製のシリアルアプリケーションを開きます。
2. KVMスイッチのIPアドレスにTelnet接続またはSSH接続します。
3. 通常のユーザー名とパスワードでログインし、アクセス画面を起動します。

ナビゲーション

左側のパネルでは上部にKVMスイッチ、その下にそれに接続されているすべてのシリアルインターフェイスサーバーが表示されます。右側のパネルでは、上部に設定パラメータ、その下の部分に設定内容が表示されます。

ハイライトバーを左右のパネル間で移動したり、設定するパラメータを選択したりするには、**左矢印キー**と**右矢印キー**を使用します。

左側のパネルでスイッチとシリアルサーバーを切り替えたり、右側のパネルで設定項目を選択したりするには、**上矢印キー**と**下矢印キー**を使用します。

操作方法

上矢印キーと**下矢印キー**を使用して、左側のパネルでサーバーを選択し、ENTERキーを押して、アクセスしたサーバーでコマンドライン（ターミナル）セッションを開きます。

セッションを終了する場合は、アクセスページに戻るホットキー（102ページを参照）を押します。

この機能を終了する場合は、アクセスページの右側のパネルでハイライトバーを[Logout]に移動させます。**下矢印キー**を押して**[Exit]**を選択し、ENTERキーを押します。

スイッチレベル設定

左側のパネルでKVMスイッチが選択されている場合、以下の設定を行うことができます。

設定	説明
Port Configuration (ポート設定)	[Port Configuration]が選択されているときに、下矢印キーを押して現在のタイムアウト設定を選択します。現在の値を上書きするには、新しいタイムアウト値を入力します。 注意： 入力された数値を消去する方法はありません。それを変更するには、 上矢印キー を使用してそのフィールドから移動してから、 下矢印キー を使用して戻ります。戻ってきたら、新しい値を入力します。終了したら、 下矢印キー を使用して [保存] を選択し、ENTERキーを押します。
User Preference (ユーザー設定)	作業しているセッションからアクセス画面に戻るホットキーを設定します。[User Preferences]が選択されているときに、 下矢印キー を押して現在のホットキーの文字を強調表示します。現在の文字を上書きするには、新しい文字を入力します。終了したら、 下矢印キー を使用して [保存] を選択し、ENTERキーを押します。
Logout (ログアウト)	[Logout]が選択されているときに、 下矢印キー を押して [Exit] を選択し、ENTERキーを押します。

ポートレベルの設定

シリアルインターフェイスデバイスが選択されている場合、以下の設定を行うことができます。

設定	説明
Port Configuration (ポート設定)	シリアルパラメータを設定するには、以下の手順を実行します。 1.上下の矢印キーを使用して、目的のアイテムを選択します。 2.ENTERキーを押して選択肢のリストを開きます。 3.上矢印キーと下矢印キーを使用して選択する値を選択し、ENTERキーを押します。 終了したら、下矢印キーを押して [保存] を選択し、ENTERキーを押します。
User Preference (ユーザー設定)	作業しているセッションからアクセス画面に戻るホットキーを設定します。[User Preferences]が選択されているときに、下矢印キーを押して現在のホットキーの文字を強調表示します。現在の文字を上書きするには、新し文字を入力します。 終了したら、下矢印キーを使用して [保存] を選択し、ENTERキーを押します。
ログアウト	[Logout]が選択されているときに、下矢印キーを押して [Exit] を選択し、ENTERキーを押します。

トラブルシューティング

一般的な操作

問題	解決方法
動作が不安定である。	接続されたKVMスイッチを起動する前に、KVMスイッチ自体を起動してください。 1.接続されたKVMスイッチに電源を入れる前に、KVMスイッチ自体に電源を入れてください。 2.KVMスイッチを起動する前に接続されたKVMスイッチを起動した場合は、接続されたKVMスイッチをリセットするか再起動してください。 リセットスイッチを押してから離します（「リセットスイッチ」（7ページ）を参照）。
アカウントを取得したが、ログインできない。	1.ユーザー名とパスワードが正しく指定されていることを確認してください。 2.KVMスイッチにアクセスするために必要な権限を与えられているを確認してください。 3.KVMスイッチがKVM Access management下にあるかどうか問い合わせてください。管理下にある場合、管理者がKVMスイッチでKVM Access managementを無効にする（68ページ）か、KVM Accessサーバーでそれを選択解除する必要があります（詳細は『KVM Access User Manual』を参照してください）。
IPアドレスとポート番号を正しく指定しても、KVMスイッチにアクセスできない。	KVMスイッチがルーターの内側にある場合、ルーターのポート転送（バーチャルサーバーとも呼ばれます）機能を設定する必要があります。詳細は「ポート転送」（98ページ）を参照してください。
ブラウザからログインしたときに、次のメッセージが表示される：404 Object Not Found。	ログイン文字列が設定されている場合は、KVMスイッチのIPアドレスを指定する際に、スラッシュ（/）と正しいログイン文字列を含めているか確認してください（「Login String（ログイン文字列）」（72ページ）を参照）。
ネットワーク接続が突然失われる。	KVMスイッチへの接続を切断します。30秒以上待ってから再度ログインします。
クライアントコンピュータにリモートサーバーのビデオ画面が表示されない。	KVMアダプターケーブルのファームウェアバージョンが、KVMスイッチのメインファームウェアに保存されているバージョンと同じであるか確認してください。詳細は「アダプターファームウェアのアップグレード」（87ページ）を参照してください。リモートサーバーの解像度を1280 x 1024以下に設定してください。
クライアントコンピュータでリモートサーバーのビデオ画面は表示されないが、マウスの動きがローカルコンソールに表示され、マウスをクリックしても機能しない	左のAltキーを押して離し、次に右のAltキーを押して離してください。
クライアントコンピュータ上の画面が歪んで表示され、自動同期を実行しても問題が解決しない。	ポートを解像度が異なるポートに一旦切り替えてから、戻してください。これで問題が解決しない場合は、そのポートで実行しているシステムの解像度とリフレッシュレートを変更してください。後で、新しい解像度で実行するか、元の解像度に戻すことができます。
コントロールパネルのロックキーLEDが、キーボード入力の実際のロック状態を正確に反映していない。	コントロールパネルのLEDを、キーボードの状態に一致するまでクリックしてください。その後、キーボードで状態を変更すると、コントロールパネル上でも変更されるようになります。
ログインしたときに、ブラウザが「CAルート証明書は信頼されていない」というメッセージを生成する、または証明書エラーを返す。	証明書の名前が、Microsoftの信頼された機関の一覧にありません。証明書は信頼できるものです。
マルチユーザー操作で、操作中のポートに排他的（または占有）権限を持っている。[Port Access]ページを呼び出した後、占有していたポートに戻ると別のユーザーに操作権限が移っていた。なぜこのような現象が起るのか？	ツリーで再度ポートを選択して戻ろうとした場合、KVMスイッチはユーザーがそのポートに初めてアクセスしようとしていると認識します。別のユーザーがそのポートを待機していた場合、そのユーザーが優先されてポートを取得します。 ポートに戻る正しい方法として、[Port Access]ページの右上にある[Close]アイコンをクリックしてください。

マウスに関する問題

問題	解決方法
マウスやキーボードが反応しない。	KVMアダプターケーブルのファームウェアバージョンが、KVMスイッチのメインファームウェアに保存されているバージョンと同じであるか確認してください。詳細は「アダプターファームウェアのアップグレード」（87ページ）を参照してください。 コンソールポートからケーブルを外して、接続し直してください。
マウスの動きが極端に遅い。	データの転送量が多いため、接続処理が追い付けない状態です。画質を下げて（「Video Settings（ビデオ設定）」（30ページ）を参照）ビデオデータの転送量を減らしてください。
リモートサーバーにアクセスするとマウスポインタが2つ表示される。	別のポインタの種類を選択できます。詳細は「マウスポインタの種類」（34ページ）を参照してください。
マウスポインタがシングルポインタモードの場合、コントロールパネルにアクセスできない。	コントロールパネルを呼び出した直後に、ポインタをデュアルモードに変更してください。
なぜデュアルポインタモードがあるのか？	マウスダイナシンクモードでない場合、リモートサーバーポインタがあるはずの場所にあることを確認するためには、2つのポインタが必要になります。 ポインタが2つない場合、マウス操作を実行したときに、ネットワークのタイムラグによってリモートサーバーのポインタがクライアントコンピュータのポインタの位置からずれる可能性があります。
マウスポインタが混乱する。	マウスポインタが2つ（ローカルとリモート）表示されて混乱する場合や邪魔な場合は、マウス表示の切り替え機能を使用して、機能していないポインタを小さくすることができます。詳細は、「Toggle mouse display（マウス表示を切り替え）」（27ページ）および「マウスポインタの種類」（34ページ）を参照してください。
Windowsシステムにログインすると、ローカルおよびリモートのマウスポインタが同期しない。	1.[Mouse Sync Mode]の設定状況を確認してください（「Mouse DynaSync Mode（マウスダイナシンクモード）」（34ページ）を参照）。 [Automatic]に設定されている場合は[Manual]に変更し、「手動によるマウス同期」（35ページ）の情報を参照してください。 2.[Manual]モードにしている場合は、自動同期機能を使用して（「Video Settings（ビデオ設定）」（30ページ）を参照）、ローカルモニターとリモートモニターを同期させてください。 3.それでも問題が解決しない場合は、マウス調整機能（27ページ）を使用してポインタを同期させてください。 4.上記の方法で問題が解決しない場合、詳細は「その他のマウス同期方法」（100ページ）を参照してください。
Macシステムにログインすると、ローカルとリモートのマウスポインタが同期しない。	マウスダイナシンクによる自動同期にはデフォルトとMac2の2つの設定があります。マウス同期がデフォルト設定でうまくいかない場合は、Mac 2設定を試してください。
Sunシステムにログインすると、ローカルとリモートのマウスポインタが同期しない。	マウスダイナシンクによる自動同期は、WindowsとMac（G4以上）のUSBマウスシステムにのみ対応しています。ポインタを手動で同期させる必要があります。詳細は、「Mouse DynaSync Mode（マウスダイナシンクモード）」（34ページ）および「手動によるマウス同期」（35ページ）を参照してください。 上記の方法で同期したら、「Sun/Linux」100ページを参照してください。
Linuxシステムにログインすると、ローカルおよびリモートのマウスポインタが同期しない。	マウスダイナシンクによる自動同期は、WindowsとMac（G4以上）のUSBマウスシステムにのみ対応しています。ポインタを手動で同期させる必要があります。詳細は、「Mouse DynaSync Mode（マウスダイナシンクモード）」（34ページ）、「手動によるマウス同期」（35ページ）、および「MacおよびLinuxに関する留意事項」（34ページ）を参照してください。 上記の方法で同期したら、詳細は「Sun/Linux」100ページ（その他のマウス同期方法）を参照してください。

バーチャルメディア（本機能はEMEIAでのみ使用可能です）

問題	解決方法
バーチャルメディアが動作しない。	リモートサーバーのメインボードはUSBに対応していません。リモートサーバーのメインボードのファームウェアとBIOSに、USB対応の新しいバージョンがある場合は、それをメーカーから入手してサーバーのメインボードのファームウェアとBIOSをアップグレードしてください。
コントロールパネルにバーチャルメディアのアイコンが表示されない。	1.バーチャルメディアは、PY-CBKAU12、KVMアダプターケーブルサーバーモジュールに接続されたデバイスのみに対応しています。 2.クライアントコンピュータで管理者権限を与えられている必要があります（Windows側の制限です）。
バーチャルメディアドライブからリモートサーバーをブートできない。	リモートサーバーのBIOSがUSBドライブからのブートをサポートしていません。メインボードの最新バージョンのファームウェアとBIOSをメーカーから入手し、メインボードのBIOSをアップグレードしてください。
USBフロッピードライブをリモートサーバーに接続すると、リモートサーバーをブートできるが、それをリモートサーバーにバーチャルメディアドライブとしてマッピングすると、リモートサーバーをブートできない。	USBフロッピードライブのフォーマットタイプにはEFIとCBIの2種類があります。どちらもOSレベルのバーチャルメディア操作には使用できませんが、現時点ではBIOSレベル（ブートなど）の操作にはEFIのみに対応しています。
フォルダをバーチャルメディアデバイスとしてマウントできない。	実際のフォルダがFAT16ファイルシステムでフォーマットされている場合、フォルダのサイズが2GBを超える場合はマウントできません。

Webブラウザ

問題	解決方法
ファームウェアのアップグレード後、Webブラウザにログインすると、KVMスイッチがまだ古いバージョンのファームウェアを使用しているように見える。	スイッチは新しいバージョンのファームウェアを使用していますが、ブラウザはキャッシュに保存されたページを表示しています。ログアウトしてブラウザのキャッシュをクリアしてください。 • IE : [ツール] > [インターネットオプション] > [インターネット一時ファイル] > [ファイルの削除] • Firefox : [ツール] > [プライバシー情報の消去]
FirefoxではJavaアプレットビューアしか開けず、WinClient ActiveXビューアを開けない。	WinClient ActiveXビューアにはActiveXが必要です。FirefoxはActiveXをサポートしていないため、Javaアプレットビューアしか使用できません。

WinClient ActiveXビューアとWinClient AP

問題	解決方法
WinClient APプログラムを起動したときにKVMスイッチが[Server List]ウィンドウに表示されない。	このダイアログボックスの[Server]エリアで[Port]に指定された番号に一致するサーバーのみが、[Server List]ウィンドウに表示されます。[Port]のエントリが、[Device Management]の[Network]ページで[Program]に指定したエントリと一致していることを確認してください。
WinClient ActiveXビューアとWinClient APがKVMスイッチに接続できない。	クライアントコンピュータにDirectX 8.0以上をインストールする必要があります。
ファームウェアのアップグレード後、WinClient ActiveXビューアまたはWinClient APが起動しない。	古いバージョンの.ocxファイルが削除されていません。古いファイルを削除する必要があります。このファイルを削除するには、以下の2通りの方法があります。 1.ActiveXビューアの場合：IE > [ツール] > [アドオンの管理]WinClientに一致するものをすべて削除するか無効にします。 2.WinClient APの場合：エクスプローラを開き、WinClient.ocxを検索します。一致するものをすべて削除します。
リモートウィンドウの一部がモニタに表示されない。	1.自動同期を実行します（詳細は「WinClientコントロールパネル機能」（25ページ）を参照）。 2.[Keep Screen Size]を有効にしていない場合（「Screen Options（画面オプション）」（36ページ）を参照）、自動同期機能を使用して（「Video Settings（ビデオ設定）」（30ページ）を参照）ローカルとリモートのモニタを同期させます。 3.[Keep Screen Size]を有効にしている場合、画面からはみ出している部分にスクロールして表示できます。
リモート画面が90度回転している。	[Keep Screen Size]を有効にします（「コントロールパネルの設定」（36ページ）を参照）。
WinClientを起動しているとNet Meetingを実行できない	[Keep Screen Size]を有効にします（「コントロールパネルの設定」（36ページ）を参照）。
ログイン後、WinClient ActiveXビューアを開けない。	1.WinClientコントロールアドオンをクライアントコンピュータにインストールする権限がありません。初回だけ管理者にプログラムを実行してもらってから、それをインストールしてください。その後は開けるようになります。 2.Vistaでは、KVMスイッチのURLを[オプション] > [セキュリティ] > [信頼されているサイト] > [サイト]に追加する必要があります。
Vistaで、ビューアを開いてオープンドライバやリムーバブルディスクをマウントしようとすると、「ドライバが準備できていません」という内容のメッセージが表示される。	これはVistaのUAC（ユーザーアカウントコントロール）に起因するものです。 1.クライアントコンピュータの管理者の場合は、ブラウザアイコンを右クリックして [別のユーザーとして実行する] を選択します。その後、管理者アカウントを使用してブラウザを選択して実行します。 2.クライアントコンピュータの管理者でない場合は、管理者にUACを無効にするように依頼してください。

JavaアプレットとJavaクライアントAP

問題	解決方法
KVMスイッチに接続できない。	<ol style="list-style-type: none"> 1.最新バージョンのJavaをクライアントコンピュータにインストールしてください。 2.IPアドレスと一緒にポート番号を指定する必要があるか確認してください。詳細は「JavaクライアントAPIによるログイン」（20ページ）を参照してください。 3.Javaを再起動して、再度試してください。
最新のJava JREをインストールしたが、パフォーマンスと安定性に問題がある。	最新バージョンは動作が安定していない場合があります。最新バージョンよりも1つか2つ前のバージョンのJavaを使用して試してください。
ファームウェアのアップグレード後、JavaアプレットビューアまたはJavaクライアントAPでログインした後、KVMスイッチがまだ古いバージョンのファームウェアを使用してように思われる。	ログアウトしてください。以下の手順でJavaインターネット一時ファイルを削除してください。 <ul style="list-style-type: none"> • 1.[コントロールパネル] > [Java]を開きます。 • 2.[インターネット一時ファイル]で、[設定]をクリックします。 • 3.[ディスク領域]セクションで、[ファイルの削除]をクリックします。 • 4.表示されるダイアログボックスで、[OK]をクリックします。
英語以外の言語を入力すると文字が表示されない。	クライアントコンピュータのキーボード言語を「英語-イギリス」に変更してください。KVMスイッチのオンスクリーンキーボードを使用し、オンスクリーンキーボードを他のシステムが使用している言語と同じになるように設定してください。
Javaのパフォーマンスが悪い。	プログラムを終了して再起動してください。
Windowsのメニューボタンを押しても反応しない。	JavaではWindowsのメニューキーはサポートされていません。
フォルダをバーチャルメディアドライブとしてマウントしようとすると、フォルダを選択できない。デスクトップしか選択できない。	フォルダ選択の入力フィールドで、追加するフォルダのルートディレクトリを入力します。その後、ルートディレクトリに含まれるフォルダが表示されます。これで目的のフォルダに移動できるようになります。

Sunシステム

問題	解決方法
インターフェイスシステムを使用するとビデオ表示の問題が発生する（例：Sun Blade 1000servers）。*	ディスプレイの解像度は1024 x 768 @60Hz:HDB15に設定する必要があります。テキストモードの場合：OKモードを起動し、次のコマンドを発行します。 <pre>setenv output-device screen:r1024x768x60reset-all</pre> XWindowの場合： <ol style="list-style-type: none"> 1.コンソールを開き、次のコマンドを発行します。 <pre>m64config -res 1024x768x60</pre> 2.ログアウトします。 3.ログインします。
インターフェイスシステムを使用するとビデオ表示の問題が発生する（例：Sun Ultra servers）。*	ディスプレイの解像度を1024 x 768 @ 13W3 60Hzに設定する必要があります。 Text Modeの場合：OKモードを起動し、次のコマンドを発行します： <pre>setenv output-device screen:r1024x768x60reset-all</pre> XWindowの場合： <ol style="list-style-type: none"> 1.コンソールを開き、次のコマンドを発行します。 <pre>fbconfig -res 1024x768x60</pre> 2.ログアウトします。 3.ログインします。
* これらの解像度は最も一般的なSun VGAカードに対応しています。これを使用しても問題が解決されない場合は、Sun VGAカードのマニュアルをご参照ください。	

Macシステム

問題	解決方法
KVMスイッチにSafariブラウザでログインした場合、スナップショット機能を使用すると応答しなくなる	Safariを強制終了し、再起動してください。スナップショット機能を使用するには、Mac OS 10.4.11およびSafari 3.0.4にアップグレードしてください。

Redhat システム

問題	解決方法
サーバーとしてインストールされたRedhat 9.0 (2.4.20-8) で、キーボードとマウスがコンソールモジュールで正常に動作しない。	マウス同期モードとしてAS3.0設定を選択します。詳細は、「MacおよびLinuxに関する留意事項」(34ページ)を参照してください。
デスクトップシステムにインストールされたRedhat 9.0 (2.4.20-8) で、キーボードとマウスがコンソールモジュールで正常に動作しない。	最初に、キーボードとマウスをUSB 2.0ハブに接続し、それからハブをRedhat 9.0サーバーに接続してください。

パネルアレイモード

問題	解決方法
低解像度ビデオ - 画面が鮮明に表示されない。	この問題は、画面がパネルに合わせて拡大されるために発生する場合があります。表示するパネルの数を減らしてください。
複数のリモートユーザーがログインした場合、一部のユーザーのモニタに画面の一部しか表示されない。	最初にパネルアレイモードを起動したユーザーは、4パネル以上を表示するように設定してください。
1つ前または1つ後ろのポートに移動しようとすると、画面が2ポート先に移動したり、元のポートから移動しなかったりする。	<ul style="list-style-type: none"> これはネットワークのタイムラグが原因で発生する場合があります。パネルは事前に選択された一定の時間間隔でポート間を自動的に移動します。ユーザーの入力を受け取る前にすでに1つ前のポートに移動していても、それがユーザーの画面にまだ反映されていない場合があります。ユーザーの入力により1つ前または後ろのポートに移動する際、2つのポートを移動（自動切り替えによる移動 + ユーザーの「1ポート先」コマンドによる移動）したり、元のポートから移動していない（自動切り替えによる1ポート先への移動 + ユーザーの「1ポート前」コマンドによる移動）ように見える場合があります。

電波障害

適合性認証機関によって明示的に承認されていない本装置の変更または改造は、本装置の操作権限を失うことがあります。

USA—FCC

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with this user manual, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference. The user will bear sole responsibility for correcting such interference.

FCC Caution: Any changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate this equipment.

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

- (1) this device may not cause harmful interference, and
- (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Canada—ICES

This Class A digital apparatus complies with Canadian ICES-3 (A)/NMB-3 (A).

Cet appareil numérique de la classe A est conforme à la norme NMB-003 du Canada.

Japan—VCCI

This is a Class A product based on the standard of the Voluntary Control Council for Interference by Information Technology Equipment (VCCI). If this equipment is used in a domestic environment, radio disturbance may occur, in which case, the user may be required to take corrective actions.

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。VCCI — A

Taiwan—BSMI

警告使用者：

這是甲類的資訊產品，在居住的環境中使用時，可能會造成射頻干擾，在這種情況下，使用者會被要求採取某些適當的對策。

Australia and New Zealand

Warning: This is a Class A product. In a domestic environment this product may cause radio interference, in which case the user may be required to take adequate measures.

European Union

This product is in conformity with the protection requirements of EU Council Directive 2014/30/EU on the approximation of the laws of the Member States relating to electromagnetic compatibility.



This product has been tested and found to comply with the limits for Class A Information Technology Equipment according to CISPR 32/European Standard EN 55032. The limits for Class A equipment were derived for commercial and industrial environments to provide a reasonable protection against interference with licensed communication equipment.

Warning: This is a Class A product. In a domestic environment this product may cause radio interference, in which case the user may be required to take adequate measures.

Korean 한국

A 급 기기 (업무용 방송통신기기)

이 기기는 업무용 (A 급) 으로 전자파적합등록을 한 기기이오니판매자 또는 사용자는 이 점을 주의하시기 바라며 , 가정외의 지역에서 사용하는 것을 목적으로 합니다 .